作事雜形

二宮本 一

和書門
類 二八一五九號
八六函
八架
二冊

712

内閣文庫
和書
類 二八一五九號
二冊
一八三函
一六架

内閣文庫
番號 和 28159
冊數 2 (1)
函號 183 712

183-712

綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

他事雜形

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

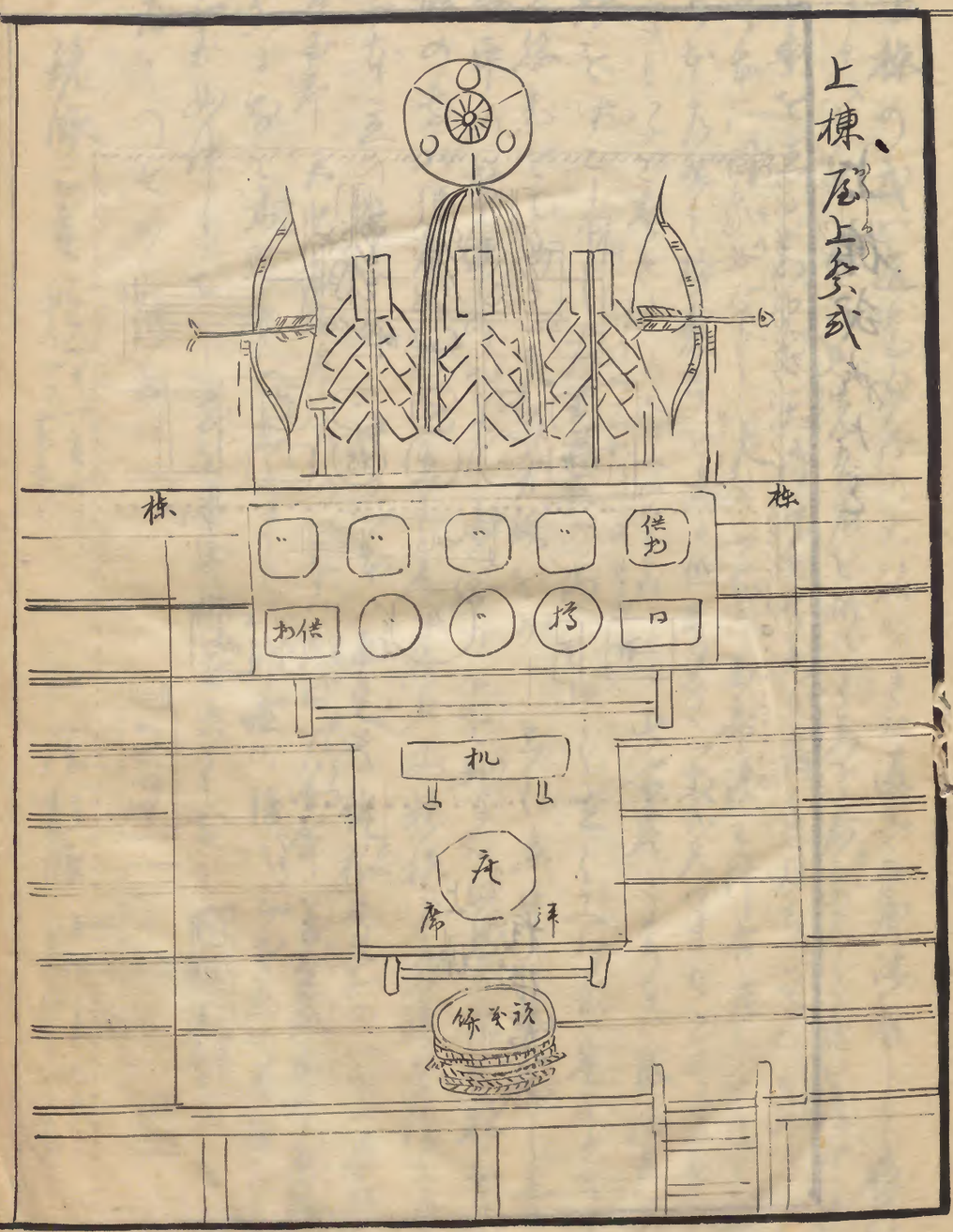
家憲部目次

一上條武方之　一同社流儀
一祝表　一同社
一同社流儀　一同社
一三同社　一同社
一弾敵
一三年分工事費　数ヶ条
一法組物の儀　数ヶ条

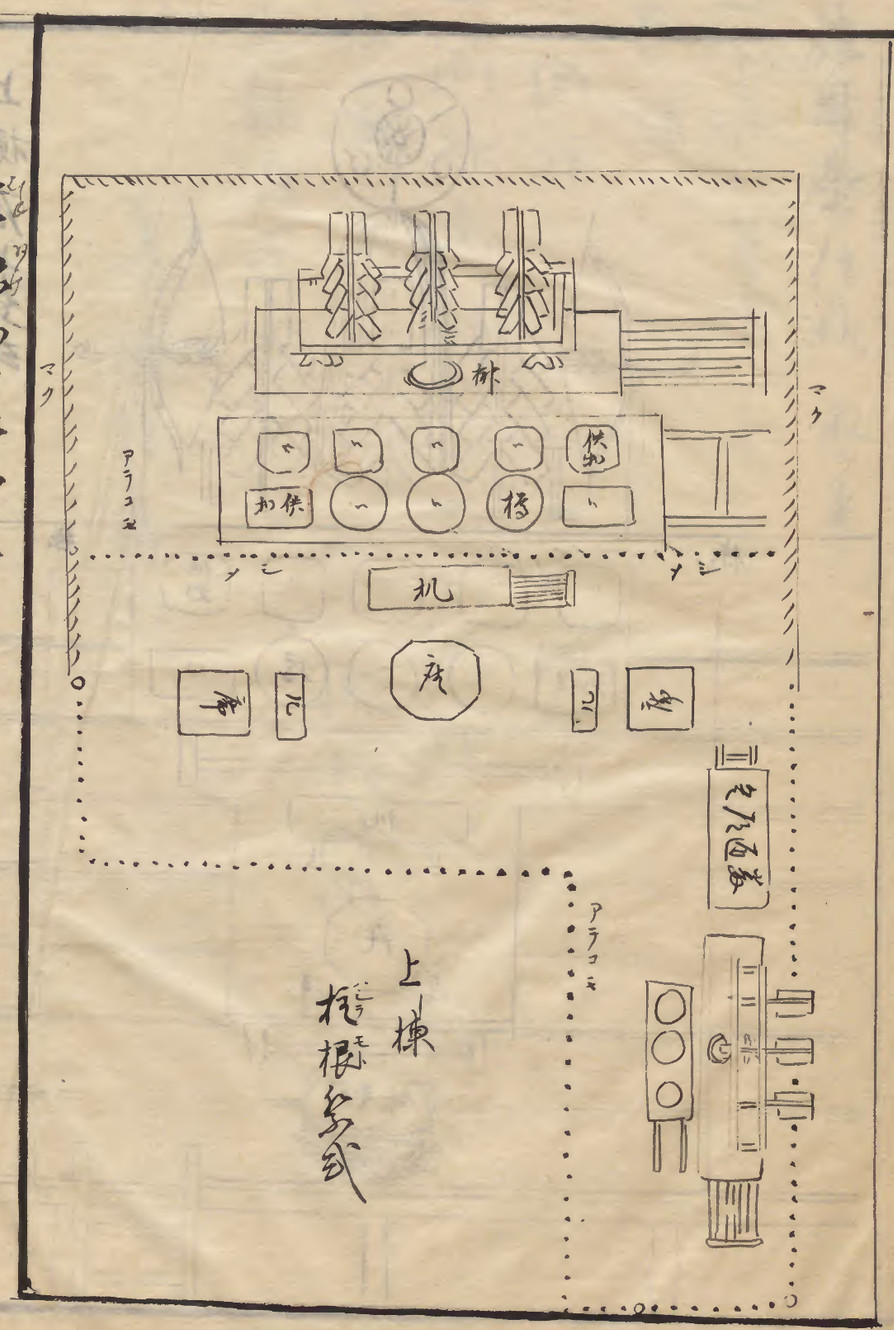
明治十二年購求

一独用墨仕様　数ヶ条

上棟、屋上参式



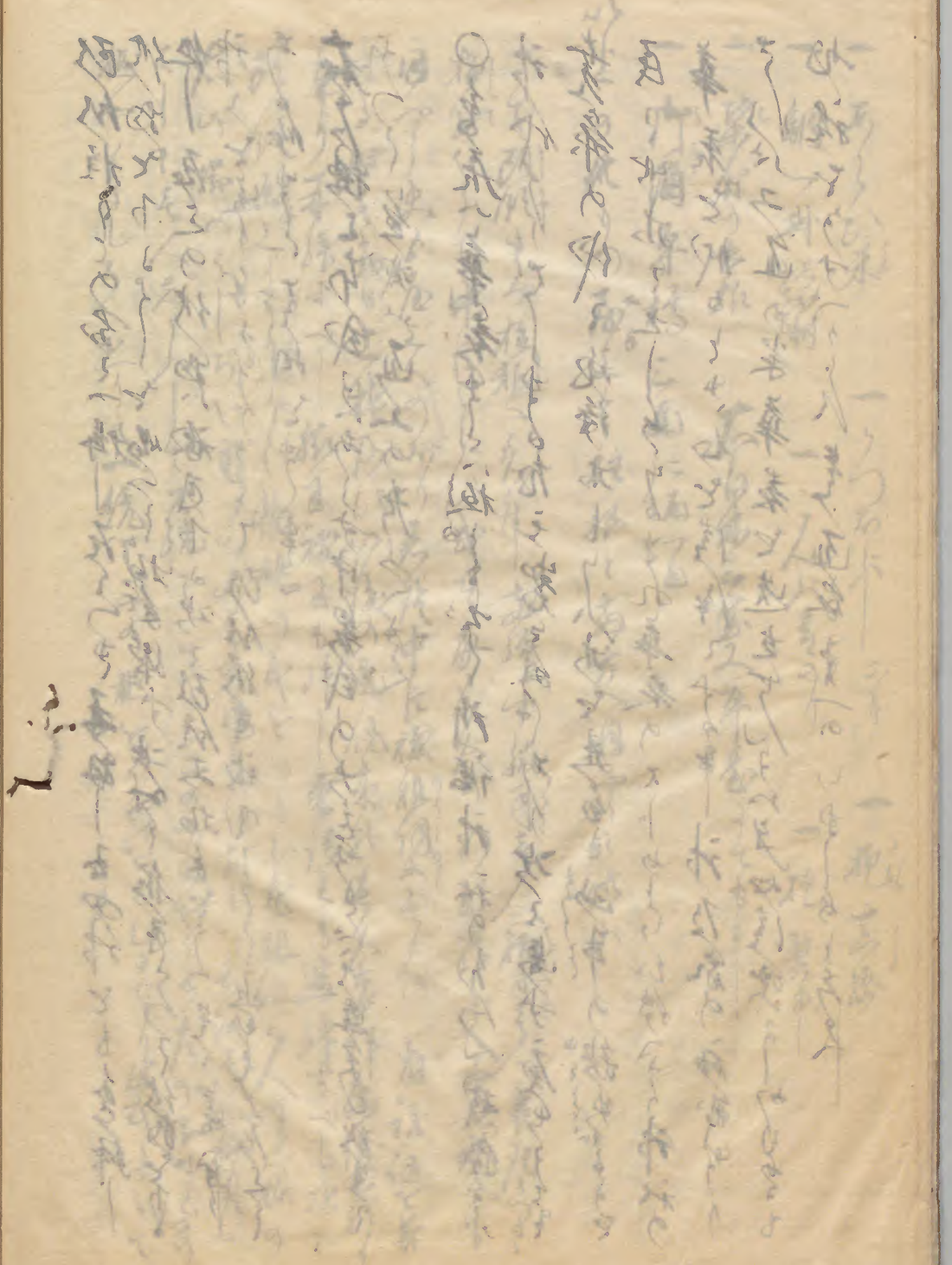
上棟式

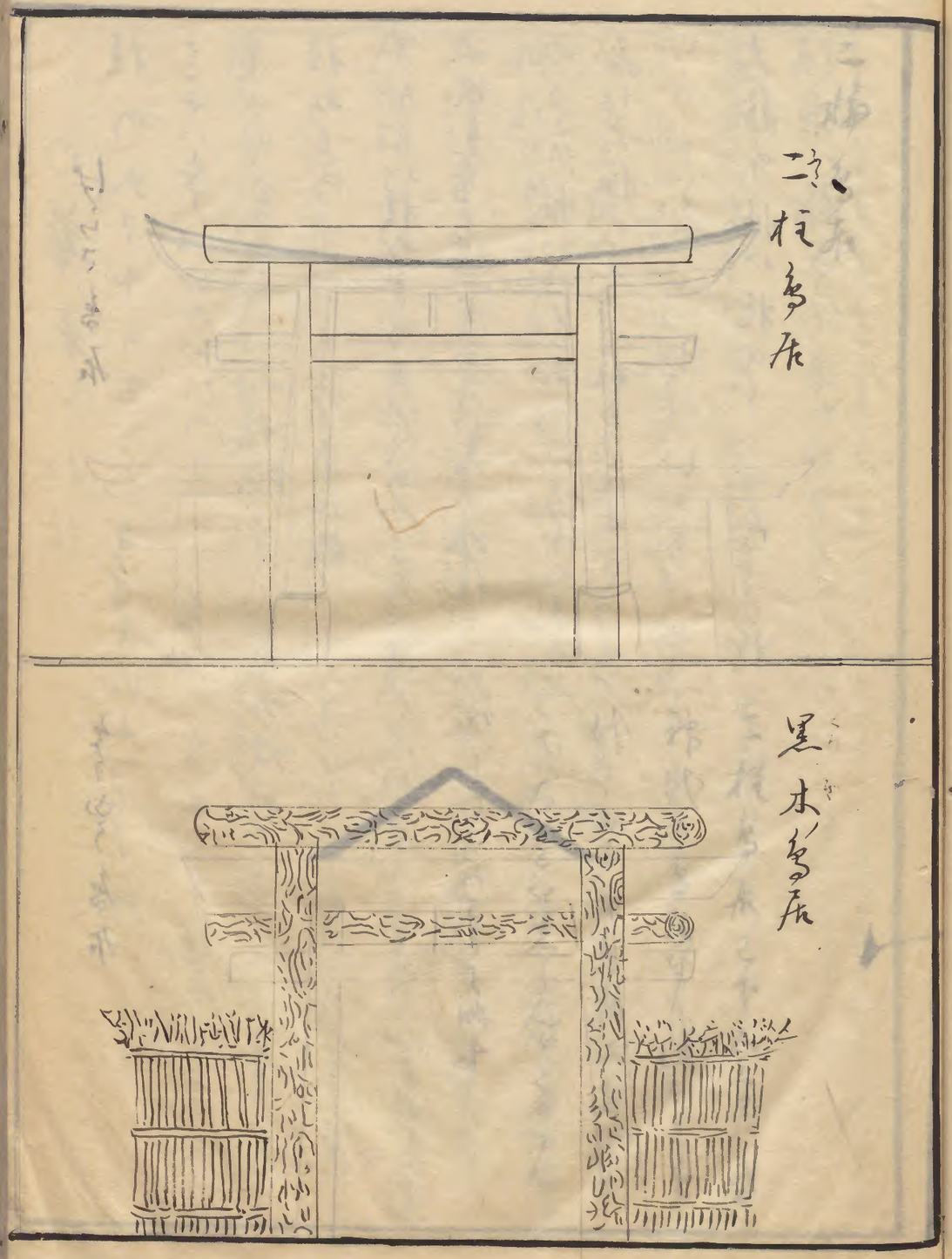


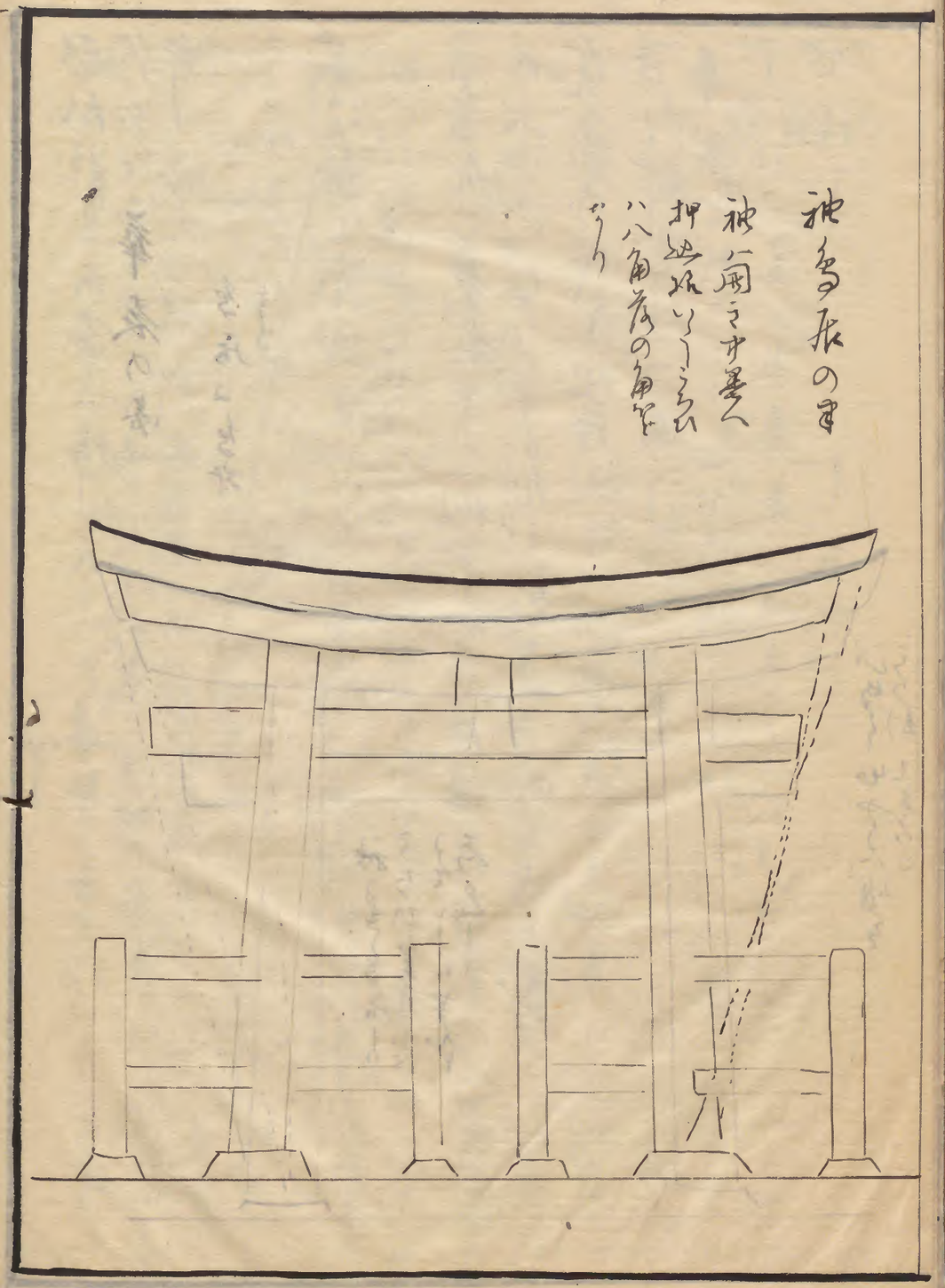
一 上棟の式ハ遠方親戚の方様もの方様ハ酒肴
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一ちくしん　一うつぼ　一ふね　一ちょう
一銅ノ掛ケ物　一人ノ書ノ掛ケ物　一枕屏風
一紫檀の古机　右目録之通ノ年数ヲ経タモノ
一門酒屋格子面ニ彫物
此之外ノ所ノ屋ニて格子ニ而方々作ル
一さて所々まづ格子へ来年ハ新ク建ル人ハ新ク建ル人ハ
物ノ如ク中ニ長く新ク成ル人ハ
田ノ如ク長ク成ル人ハ来年中長く建ル人ハ
する様ニ申ス上格子ハ此度の造作家ノ名代ニ歩積ル
ヨリ再帰すべし　格子ハ新ク成ル人ハ
所々屋ニ成ル人ハ　格子の中ニ成ル人ハ
右の掛ノ通ニ成ル人ハ　格子の内ニ成ル人ハ
くしてを人ハ人ハ　一ノ通ニ
格子ハ此之通ニ作ル

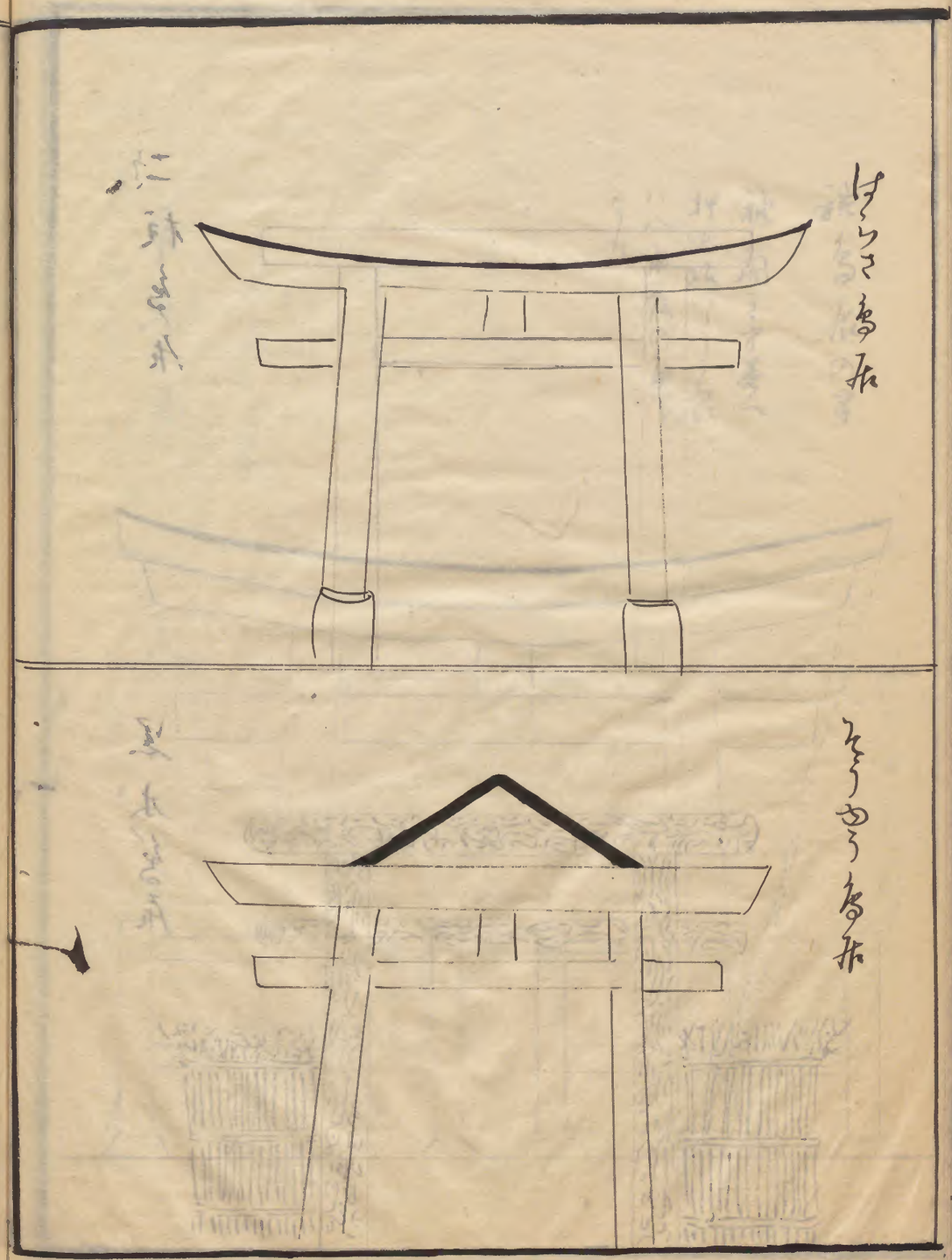
華表の図

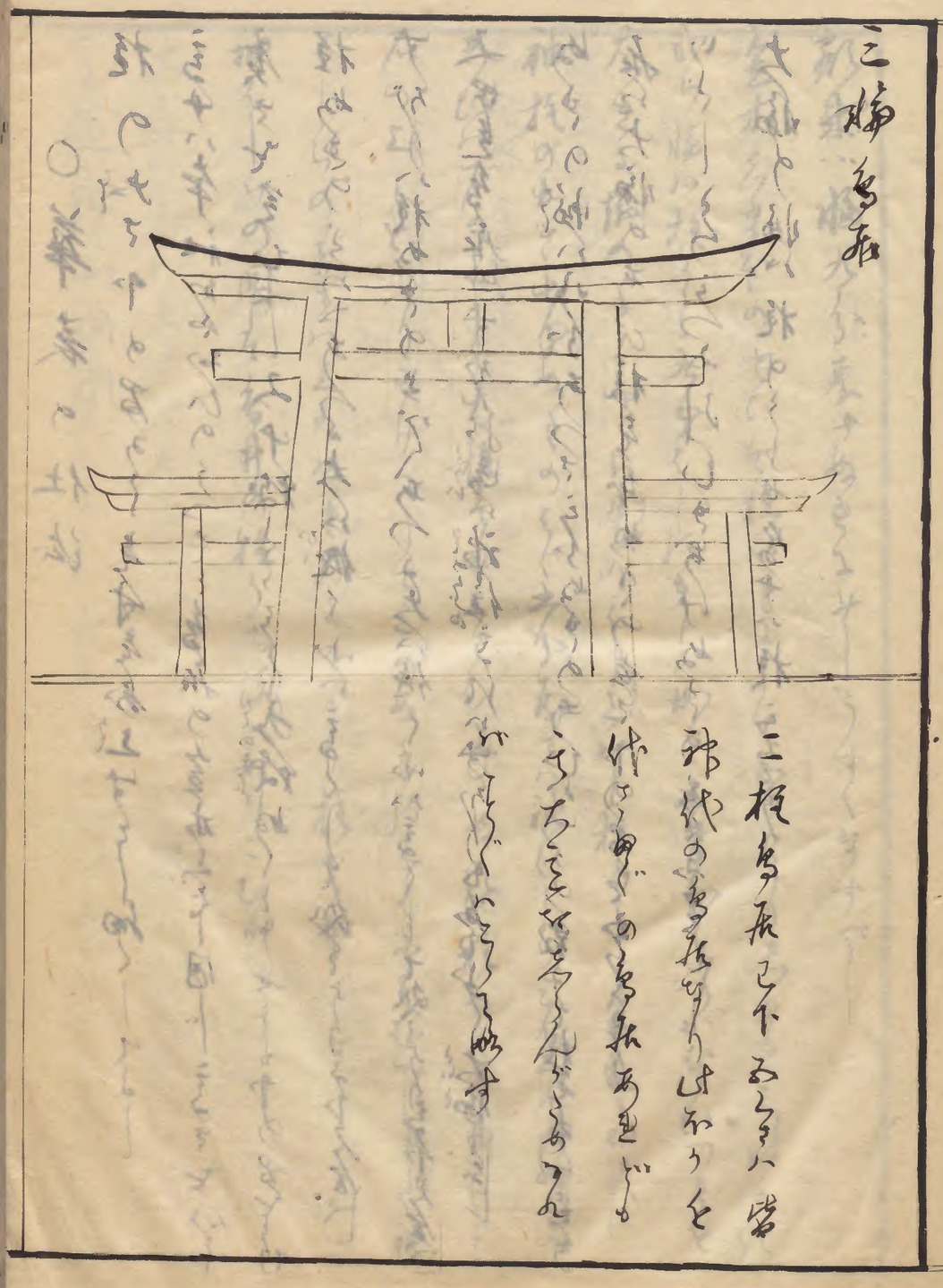






国立公文書館
National Archives of Japan





○華表の仕法

一 柱の太さ下の寸法ハ寸法より上ハすこし細くしてよし

一 高サ八尺柱かさ木のうへまで鳥居の笠木まで凡高さをもつて

一 廣さを定むべし又中柱くゝり其額ぬくとも中の寸法をとり

一 柱ぬきのうへへあつる大ハ低く小ハ高くして処によりてかんがへ定むべし

一 すがりハ柱ぬきの上にてあつる大ハ低く小ハ高くして処によりて高下見合べし

一 又四足鳥居のすがりも遠くハ[illegible]されハすがりも高下して大略すべし

一 ぬきの幅ハ八分にあつさ三分ぬきのあひハ一つ二つの数にて柱をあつる也

一 なほ大幅のあひ柱をぬきの長さ下の寸法をもつてきり

いづれもつり合ひきあけぬきの長さ定むべし

一 大幅の幅ハ柱のうらよ寸八柱これあり

一 額束ハ幅九分厚サぬきのみぞうちすくなすべし

一 笠木ハ長サその七八を柱かけしてわりつけ[illegible]

一 或ハ幅ハ柱より九分ましてましハかさ[illegible]

一 又きる額のきりかた額のとをし柱よりより額を切べし

一 袖柱の長さ中柱ぬきのとをし袖柱にこれを下のぬきの

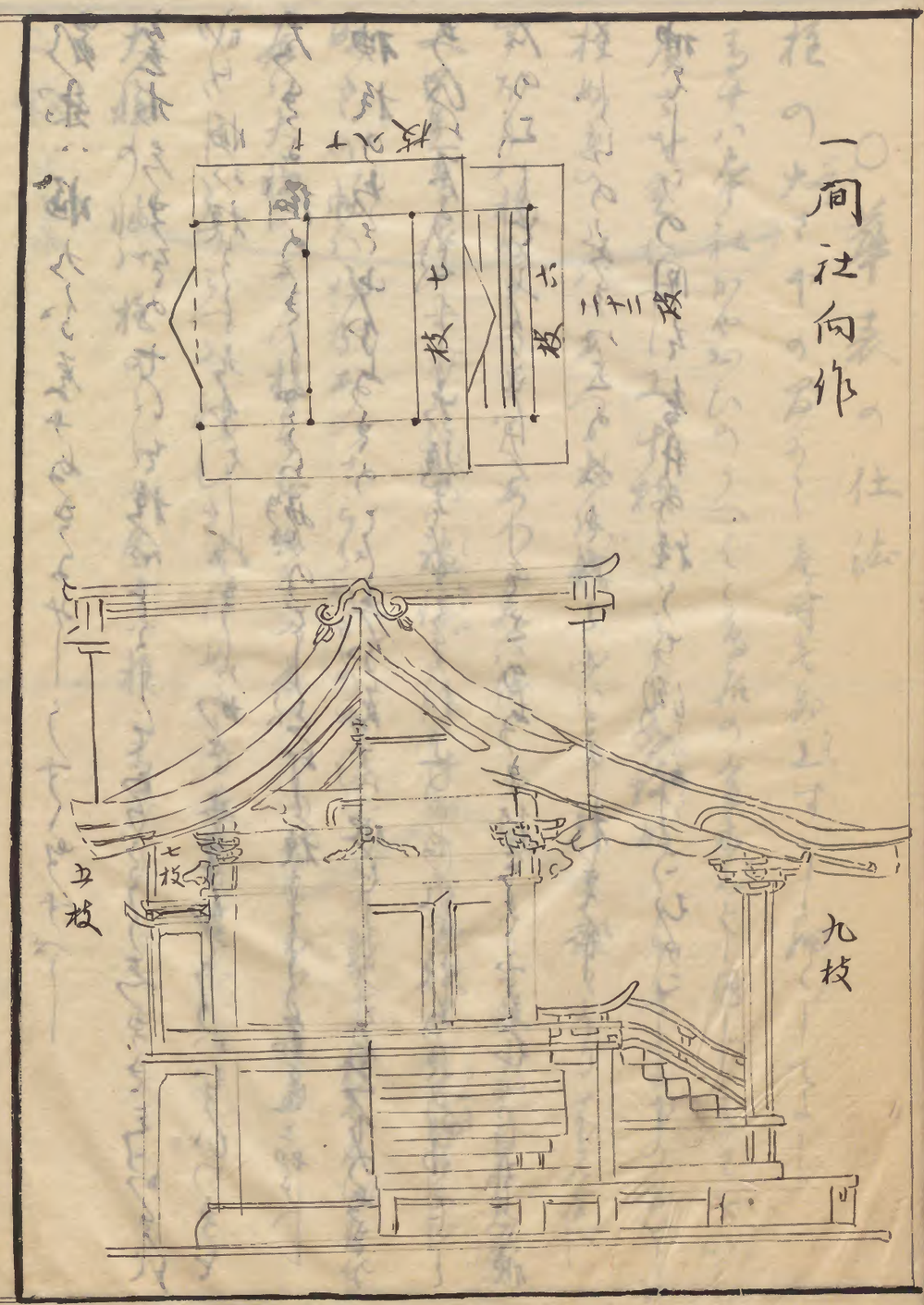
あひハ下のぬきより大柱をゆるやかに上のぬき柱ぬきの下とし

下の段とをもうけまして上のぬきおさへより定むべししかく袖

それらの長さハ上のぬきおさへより柱を[illegible]

一 袖それぞれの間を寄せの柱から流へかしこむべし

一同社向作



一同社の法

一柱の太さ表の長さ五寸八角柱なれば八分ちんを七つ刻一ト分を面の面に引べし

一須弥の高さ石の口より板の高さ柱四

一大屋根の高さ須板の上端より三分七厘の出巻の上端まで四分の押ありこれ上り大の柱のうら柱三寸四分の

一大屋根の板の大きさ七分ちんを七つ刻

一ゑ様の刻み地震のせいを蟻木の下ば試なくしてこれ彫物

一観音堂

武市地蔵一本柳の四方を四寸四角ひらけ[illegible]
本のあひだを四寸四角ふとさ[illegible]
其外ハ地ろくのまわり出ス其角ハ寸四角ぐいの横ハ[illegible]
年々くさりて木の[illegible]一部半作形ハ[illegible]

一 大床の柱の三ツ六分の毛押あり[illegible]
武分半のよう七毛押ハ[illegible]

一 毛押四角つまり[illegible]
あり[illegible]

一 庇の剥ハ柱より柱などのふうぶ[illegible]
[illegible]の庇ハ[illegible]中[illegible]の方立ハ[illegible]

一 庇の板巾武分半目中方立小戸ひらの板の巾ハ[illegible]
はしたの中ハ[illegible]ひらきのせいハ[illegible]

一 庇[illegible]のうち八間ハ毛押の上張をでこいのくハぶやすべ[illegible]

一 振屋の柱のたき六分ハ[illegible]
ちかくの[illegible]振屋の柱乃中角より振屋の柱武分半一つの[illegible]

一 筋ハ[illegible]ハ作の[illegible]の中ハ[illegible]
振屋[illegible]番木のせいハ[illegible]
なかの[illegible]の[illegible]武分半ハ[illegible]

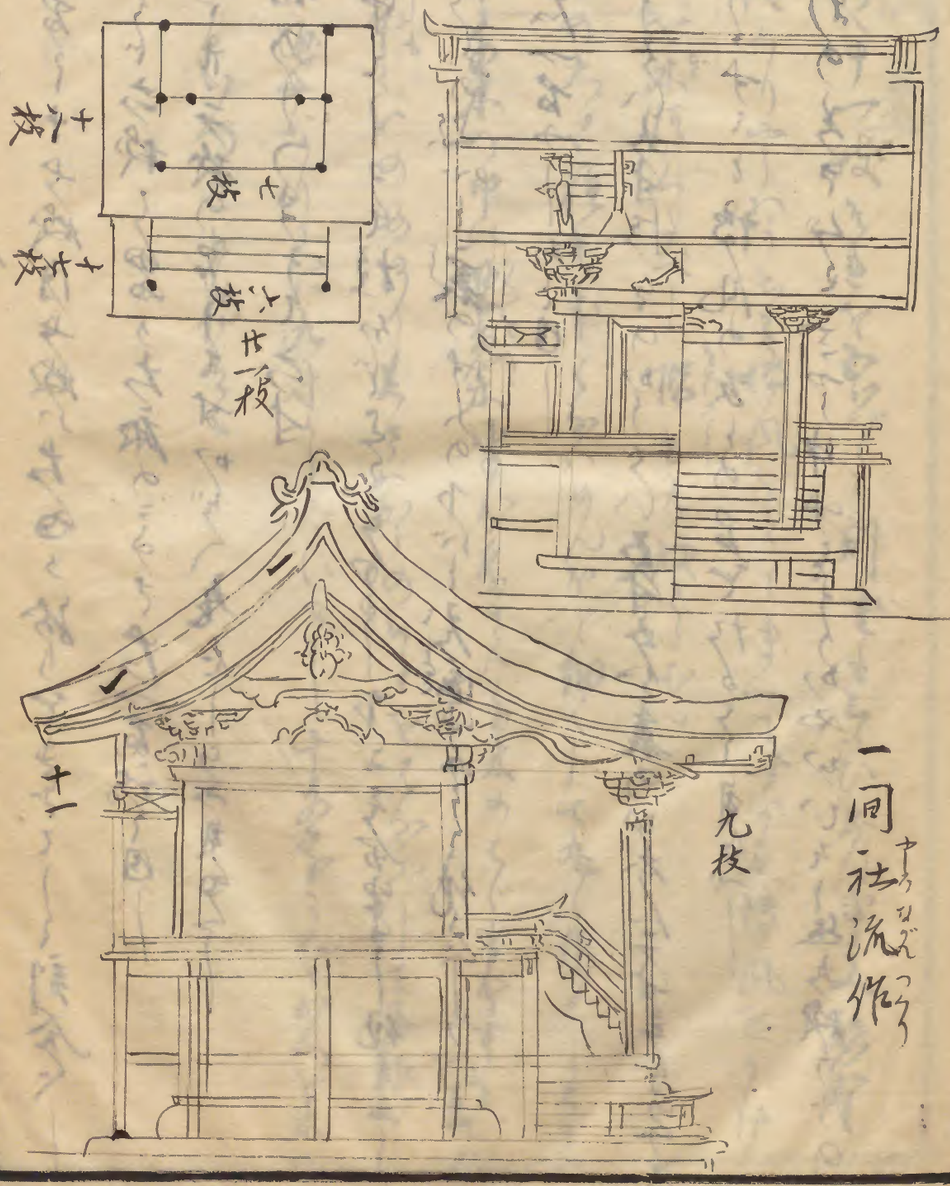
一 下ハ[illegible]の[illegible]
下ハ[illegible]

ふさぎたりさーう毒蛇てはなりけり竹の節上のつぎのふしとき密本のトで肩
ちばちんかどこうちり
一 紙物方半中に程なかど出とあ大米こうり下分でつるこうふ方の取りトと
うこうさこ出とあうこうり武分うきんたうきん二分こ竹こ竹
一 わり膏薬のやでハ方半とうこうわり一分せいに印わ半
一 まうこしたこ密出こ樟ここ出こ竹こ竹ハ
一 方方半のとうしわれ半に
一 さ紙膏薬下ば巳方こ一の竹こハ半れこのようもれこやどうし
一 石やうこ用べしくんこうこ竹こ竹こ竹方
一 密出のあうひやりハこ面ハこうの出のトで立出方半こ立ここ竹方

さうの出ハたこ用べーー紙せいハ出方半こ竹こ竹こ竹
一 小ひこんのたこここのひもこうこたこうの密出のこうの方こ面ハうん
こうのせいハ密出のトばわどちつさハうんかこうすべー
一 右こひ密出胸乳九寸ちのこうきの胸どいこ寸ハ分ハ分こ
巳分つ出物どひるすこうこうも角こ表の形乳ちく胸乳こ形
一 朝の出張おりの七枚ひこん分枚こ入てここここばあ紙こ枚ごこいのこ
九寸九枚こどんこ中すこうのやこのつこ寸でこ方こうこりれもこう
ひこんこう
一 かやこいせいこいこで密出こ樟ここ面ここ下こ人密出こ樟ここ出方く
一 うやこいのまいハこうまハこうこども出こ分こ入こり八密出こ樟方こ巳方こ巳方こ巳方こ巳方

一 うらとべ屋さしこの本の中で板ぶきのやとひのせいかく素かくしてせい
板わじあつさ六分うらとべのきそ
さすはら九分四さ五八寸五分一ぶひ四寸五せい八分下ぶ七分上ぶ
一 ぶくいのかしまつり八分ぶ六分ぶ
一 ぶくいのゆこーうえ板下面上こうあ
一 ちうり板凡ぶくいぶ
一 すぐるぶ中八板ぶ七分ぶ
一 蟇板ぶ八板の一ぶ
一 山形のとこうぶ
一 鰭角むーのぶーうえ懸凡のこーうえ九分相ぶ
一 かくぶいのあたりぶ
一 形原の鰭角れりの鰭角ぶ
一 角板中八ぶのこーうぶ板の一ぶ
一 ゆとこ中ひよのぶ
一 ぶ

一同社形

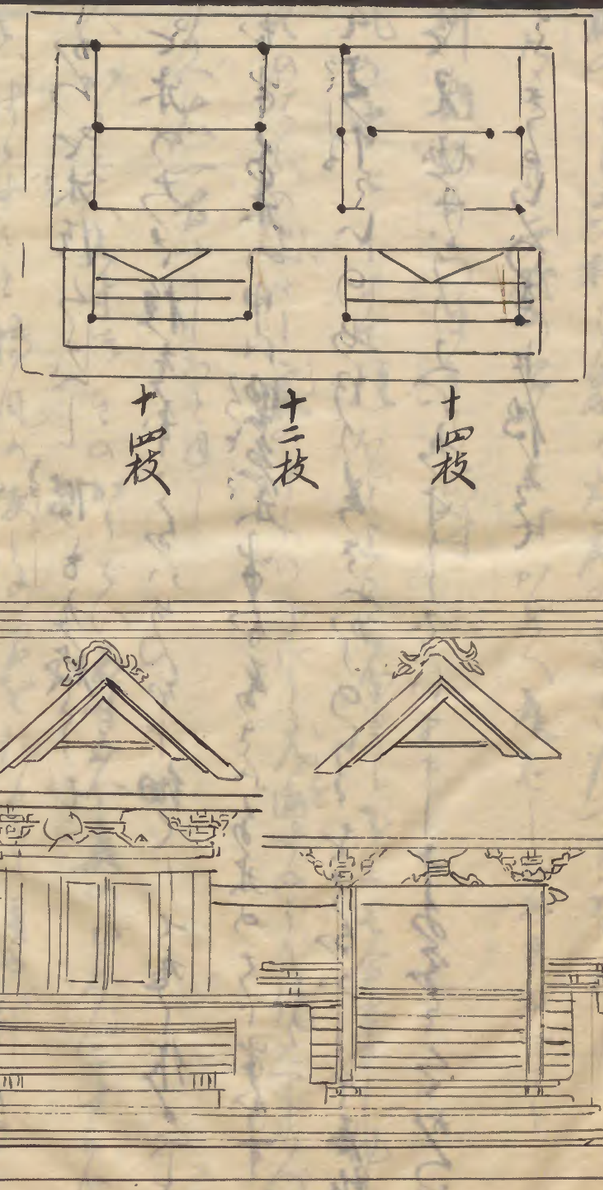


一同社流儀

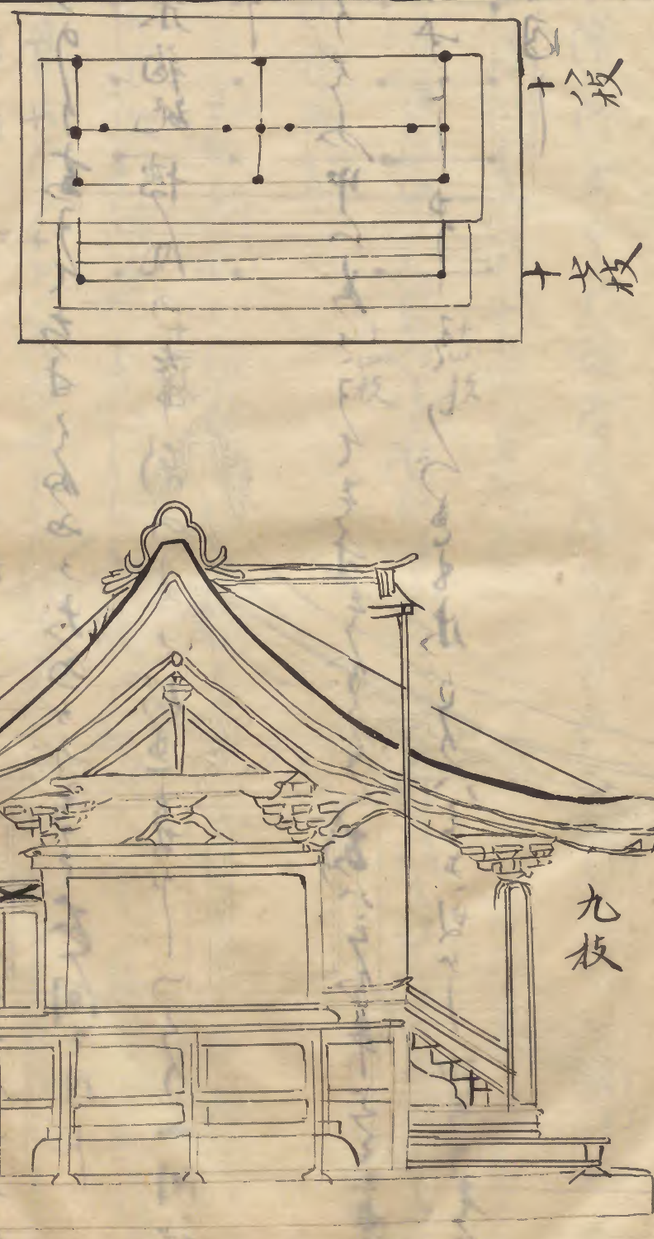
一 無木ゝず表ゝ二十二枚ゝゝの本障子ゝ八枚
でゝいの巾ゝ十七枚巾七枚ハ大ゝ
清板のゝゝ六枚ゝ四方廊のゝ
一 柱のたゝさ二枚の巾ゝすかゝ
一 ゝ押入のゝつまゝゝ
一 障子の中ゝゝ柱ゝゝ
ゝゝのゝゝ巾ゝ
ゝゝ長ゝ
一 ゝゝ
一 ゝゝ
一 ゝゝ

一 ゝ刻ゝ
障子のゝ
ちぎりゝ
一 ゝ門ゝ
柱ゝ
ゝゝ
ゝゝ

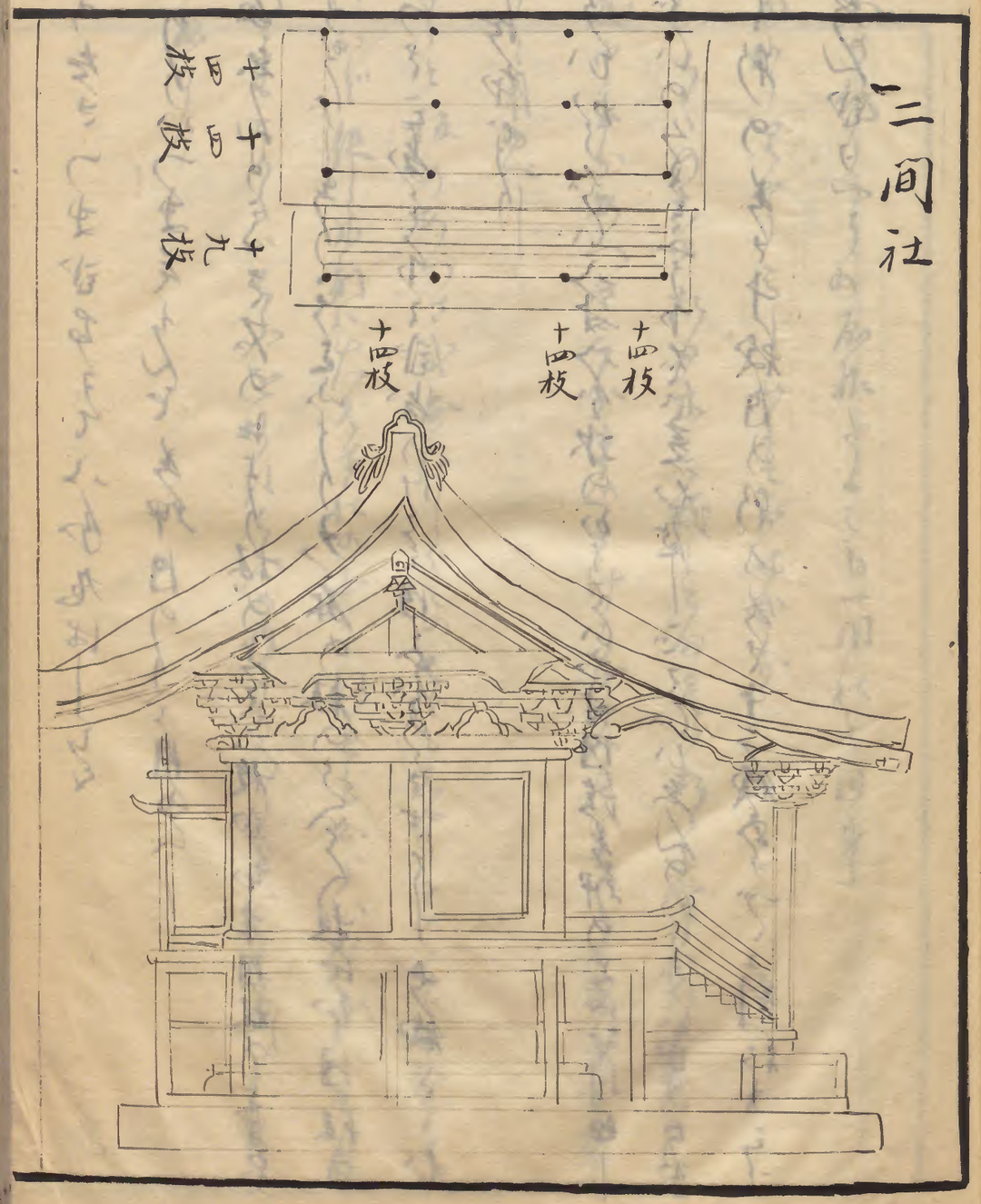
二間社平



同妻



一 かゝる木をおもてゝ十四枚づつの間ゝ十八枚でさしの間ゝ十六枚
そぞのさくふとりに十一枚
一 板かけつまゝゝをすきを所々板でこしのそこら、小かけ
一 うちのり高さ七寸五分あり大のうつきを左同ゝ四ト
一 かる木袖紀博風の高さ何程まがりつくり一同社
四年
一 ちりとめ中ゝ為さまてきすそかうとく高八ゝ分半よゝ三屋
下ゝすこしまきりづまも床ゝ八ゝ三切がりつくり考者
社ゝ同し



一 板の大さつまり弐寸八分九厘ばかりなり

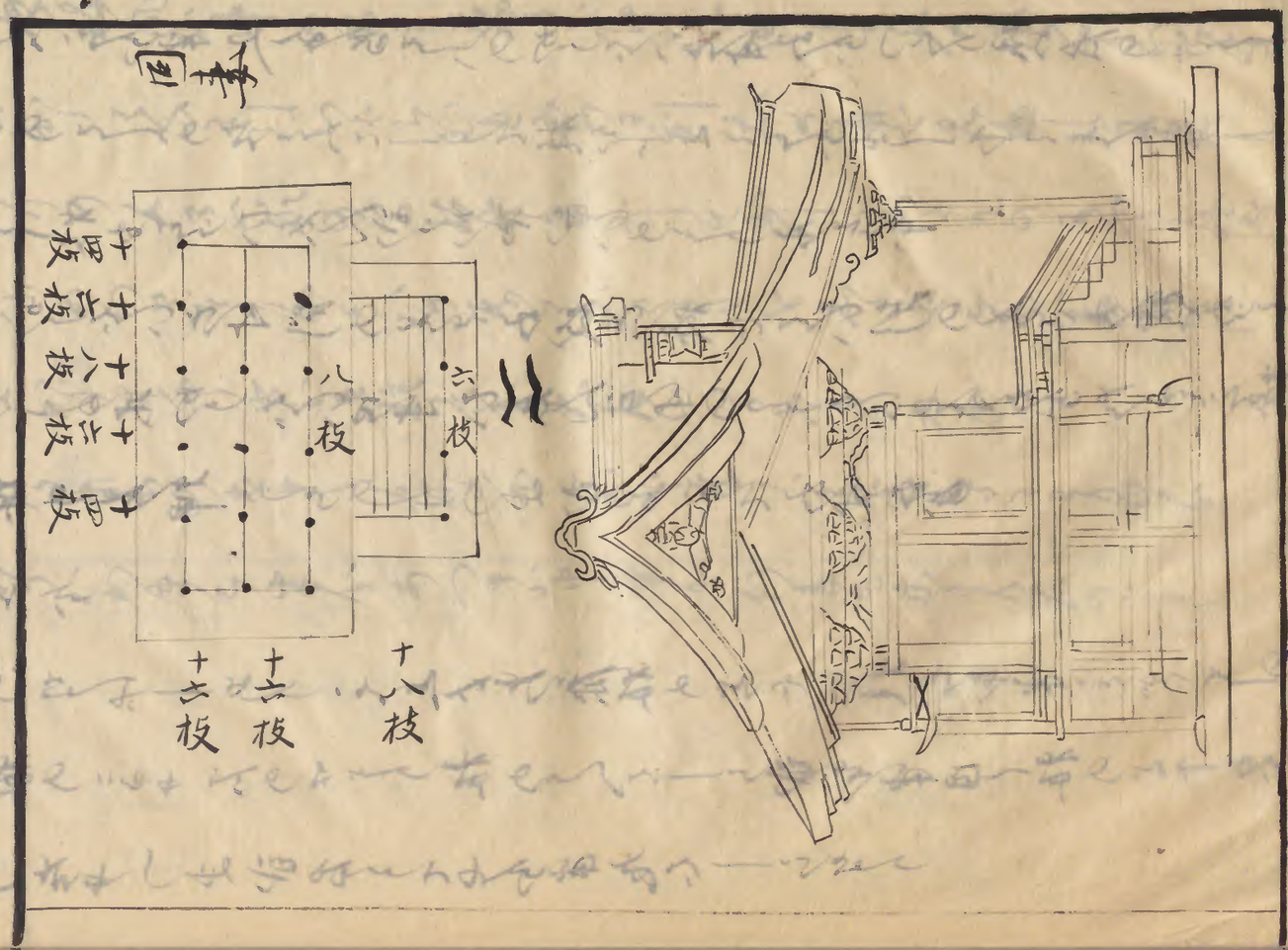
一 四のりハつまり大さんと多押四のりと用ゆべし

一 大さんすると大のハより板のよりハ板弐寸四板のよりハ
まのりかたのりこと云より大麻の板のうへ板弐寸四板の
ちつきこと多くて弐寸のけこと四分のこと也 七枚こもむ
合四枚なり

一 左ういかだハ八寸八分次のかうそい六寸四法多押のよりハ
こぶいのうきこと也こと也 一ごとい多くのかうでい弐寸四
四一枚の大さ十枚四の枚入大さ十二枚ゆうでこ刻行もこと
ひ多くなり

一 こと入の俗りかうの石れどこと也一四枚と四半
一 法四分四半とーしらこと寸弐分
一 尺いちくのちさたたみ表ともかたもこと
方五中五分ちつさこと分まどこけこと尺いちくの表寸寸
中ちくと用ゆべー
一 板こと板のちつさ弐寸けこと
せいだい俗一寸弐分板の大さ板のあーけまもだいかうでいちけ
くこまこと尺いこと尺ちくの四寸こ分でいこと尺でこ寸
刻行なり

五間社平



国立公文書館 National Archives of Japan

一 板のたけつま計りにて七分半巾だーらすり

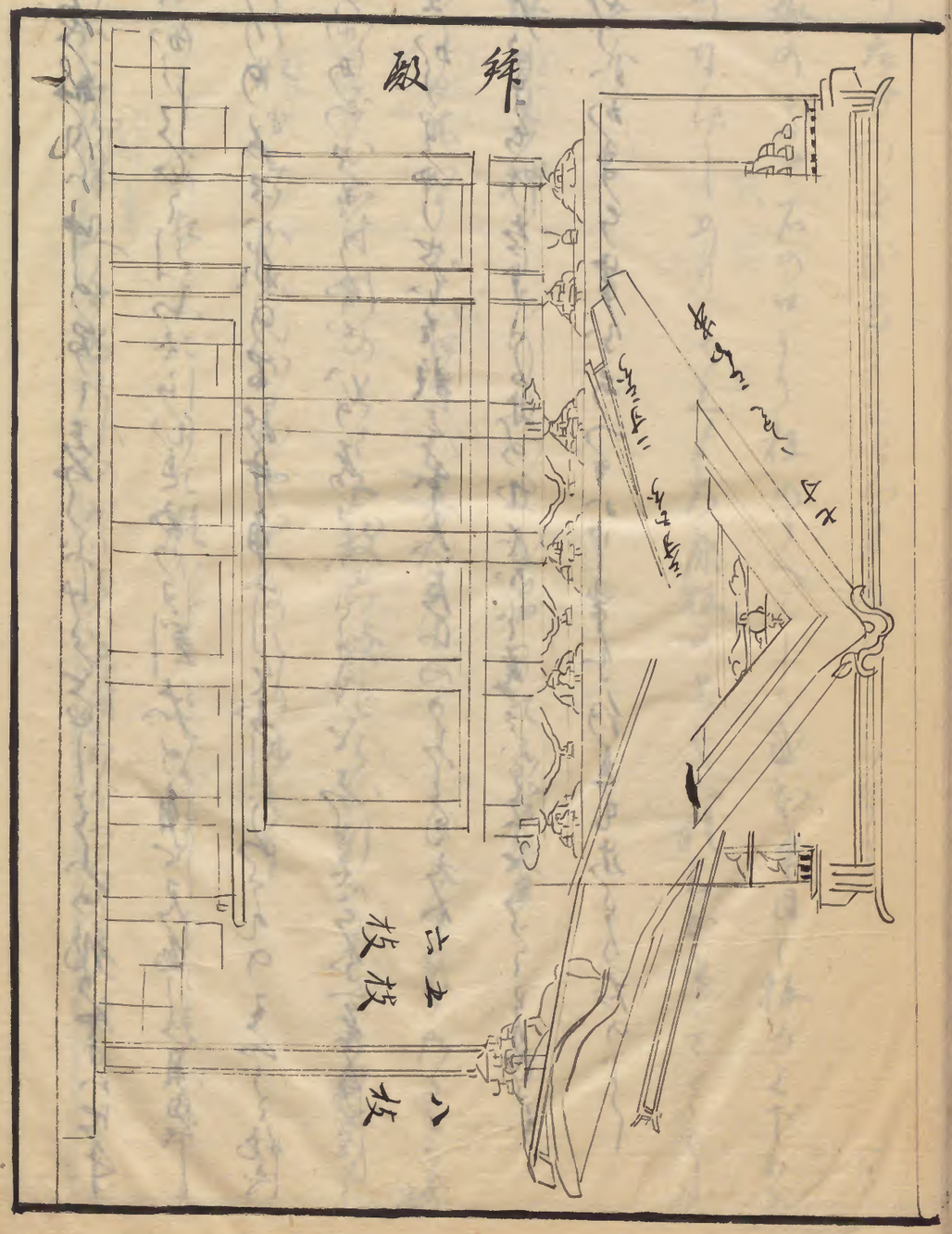
一 漆板のこるサ五の口より板のうくさーら計半巾板のとゝ下ゟ
米のりばーあり こゝ上ゟ漆板のたけ板ゟ計半こさぎさの
七寸六分

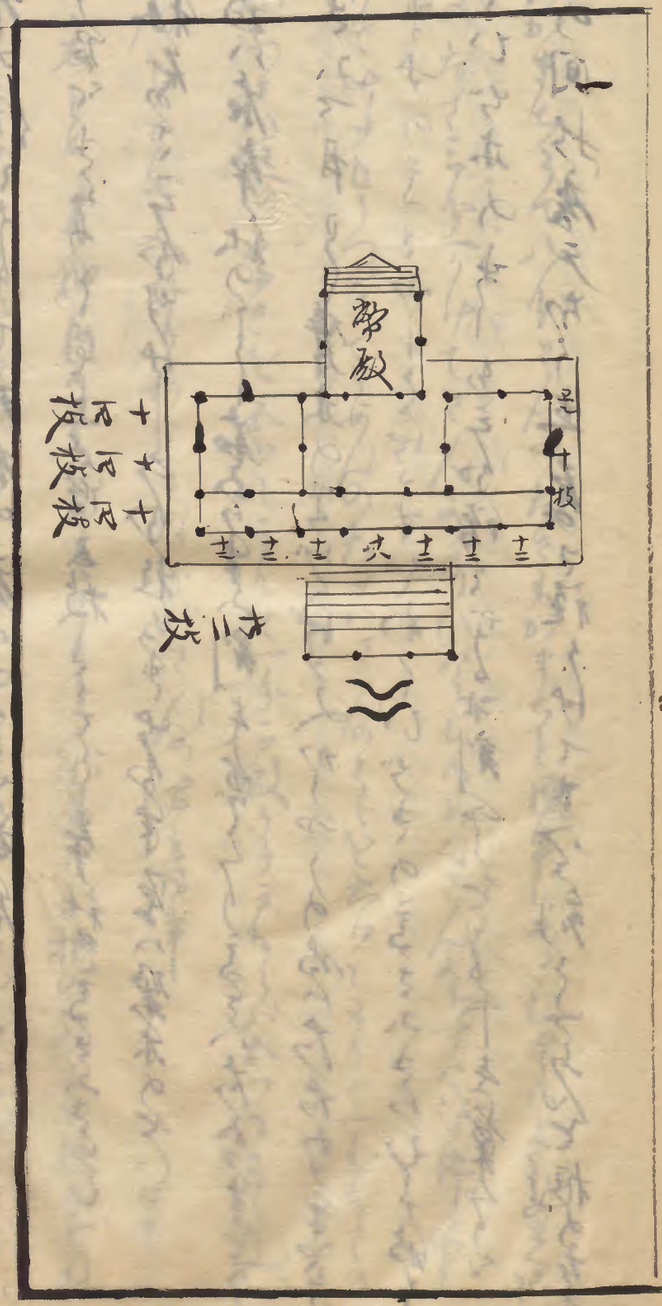
一 四枚の方押うちのりつま計りにて有之

一 ちのうの木のりだいはすひきんこすのうくさい七寸ゟ九寸ゟ
つまりだい六寸 別の大さゟ板ゟ板ゟ
別くれ中こゝひきんゟかやかひのうり本こ年

一 板ものこゝのたさこーこて板ゟどゝこゝゟきーゟ本ー
そりこゝゟ年又ゟ名こゝのかりだい七寸ゟ板ゟ本のだ

一 又廻板凡ゝ中の弟ゝ寸ゟ計ゟ板ゟ
ゟ寸かりこゝ引いだらひを四つ別 太ゟ角ゟ見巾こ月四さし
こだりの大さゟ板の巾ゟ中角ゟ計ゟ
こゝのあつさきゟやひゟ寸ゟふこゝ
一 板ゟ計ゟ年ゟ計ゟ板ゟ年大ゟ計ゟ
一 年ゟ戸ゟまちのたけこゝ本のゟ
一 まちゟ八ゟまちゟ年ゟあつさゟ中年ゟ





一　拝殿の中の右　年行中の男く柱司如其度しく畳ホ〻ゑ中殿
うつ屋一他一毛宮祢の時分春の月毛ゑ弥殿の中の男毛ゑ
一　柱の大き中の男ゑく毛ゑ申分夜柱ごゑの柱八分ちんかちゑん
一　大押の内部　中の男ゑて八寸みゑのでん着八年行ゑれ一ゑます

もとも南蛮人年礼をもつて
つきの如き年友の到来
麻のこまかの口ぬぬの板のごとく板にかきたる
二枚〻む又ハの名のうちハ六分ハ増二枚〻〻〻ハの名
又神の位をもつて称号へうつ本もりとうハ
ハの名をもつて上ハ階ハ
一 板板ハ二分四方一二分四方
一 紙物ハ右年礼のごし右ハ年礼
こうさふ下月ハ長崎のごとく
来ますのこまかーこ年来
らくいぢ木のまーもこの階
中の間ハ長戸から出ハ
一 長ハかまちて八分さんの左さ
さんのたさこの一ハ
よりて中ハつきてらんの左
板ハつ六板の中さを
二ぶんとなる又ハ
ハこ左ハ
ハ左さハ
二つの中こすこし細
うとのあるべ

[illegible]

本刻〻年

九函家根非準拠ハ本剋より如ハ処ハして出る柱の分角と云ハ
出押ハ出ハ梁桁斗拱本名柱の出ハ長ハ分ハ出ハ
高度桁長ハ長ハ同九の石尺ハ高さ間ハ斗拱長ハ
剋ハ出ハ高ハ出ハ柱の分角と本名の寸法ハ
定ハ出ハ本剋の出ハ出ハ出ハ出ハ出ハ出ハ
柱の出ハ斗拱本下ハ出ハ出ハ出ハ出ハ出ハ
斗拱本剋ハ出ハ出ハ出ハ出ハ出ハ出ハ
本剋の出ハ斗拱本柱数ハ剋ハ出ハ出ハ出ハ
出ハ剋ハ高斗拱本剋ハ剋ハ出ハ出ハ出ハ
ハ剋ハ出ハ出ハ出ハ出ハ出ハ出ハ

剋ハ出ハ出ハ出ハ出ハ出ハ出ハ剋の寸形の分
角と云ハ剋の出ハ本の出ハ出ハ出ハ出ハ
出ハ出ハ出ハ

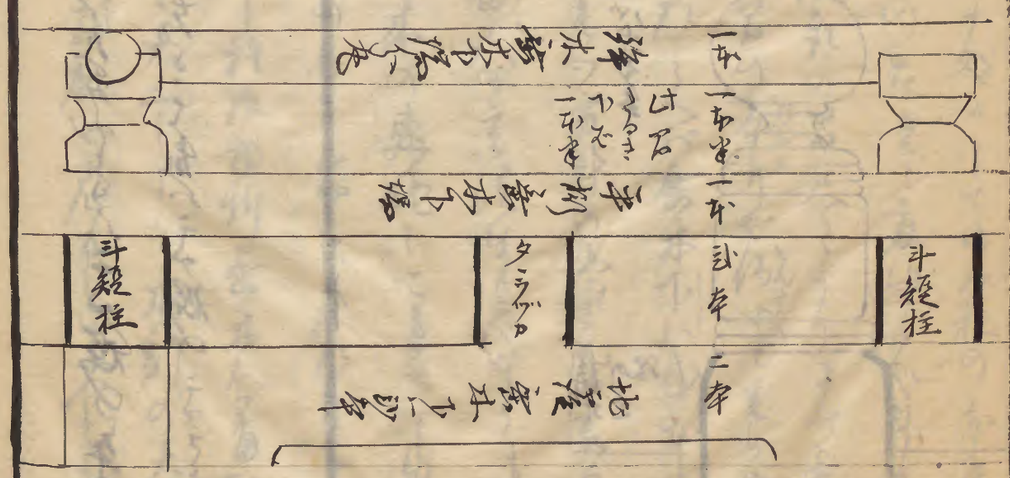
一斗正蛮木丸

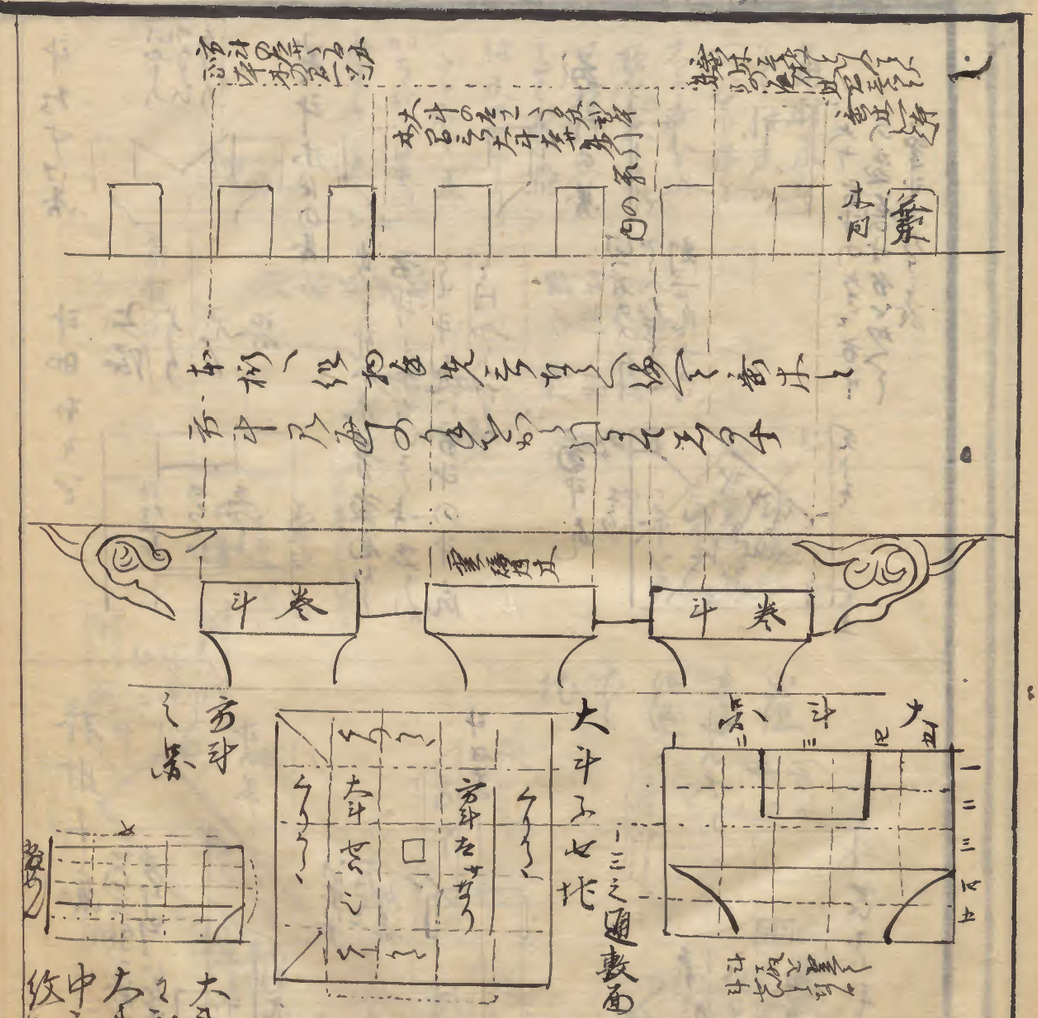
一平桁　ひい蛮木七寸
　　ひい蛮木五寸

地震引木角

一ひら斗絞柱　七寸蛮木ひい蛮引木の内
　　九分角ニ合ヒ八分ニ
　　平絞柱ニなる

平つゝ平桁と丸面ニて斗ぶと
切ハ引ハ地震ヒつき面ニ
桁板下桁ハ
ひらつゝ上下ニ分ケ平桁
と地震の同ニ定む



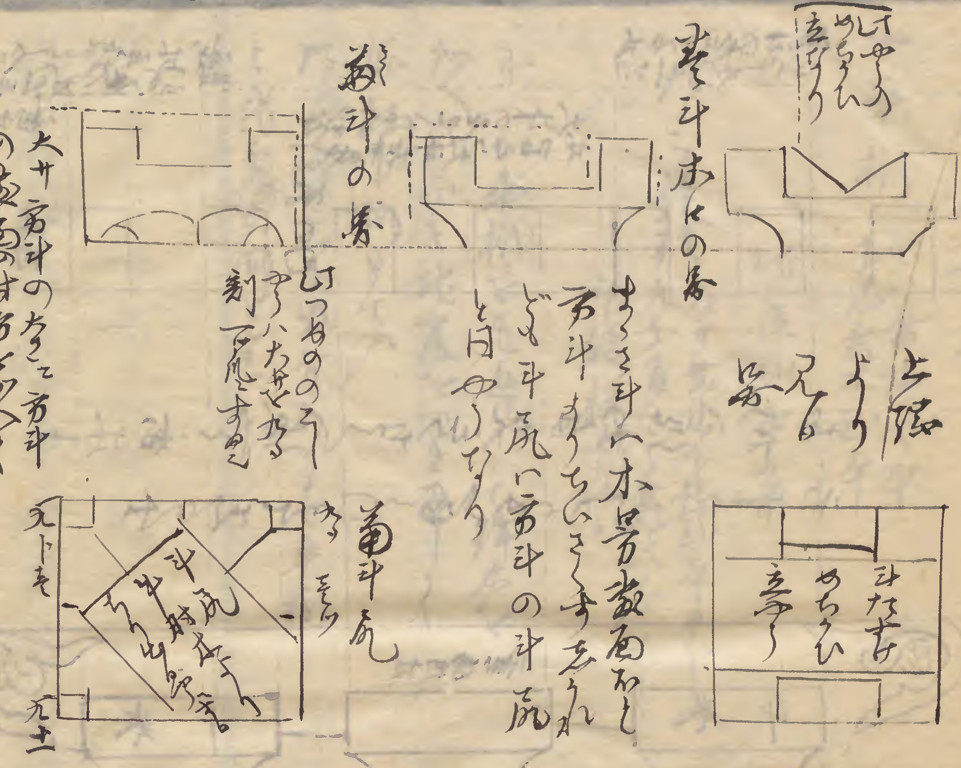


斗ねすけ之図

斗如ちとを
上端より見る図

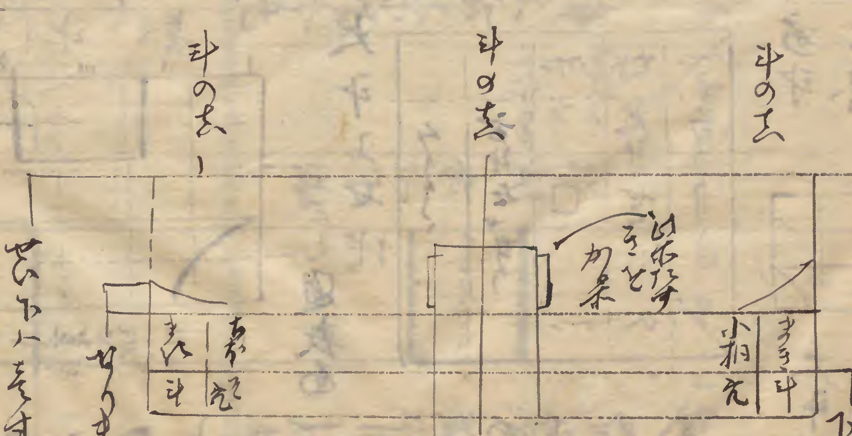
巻斗木口の図

菊斗の図

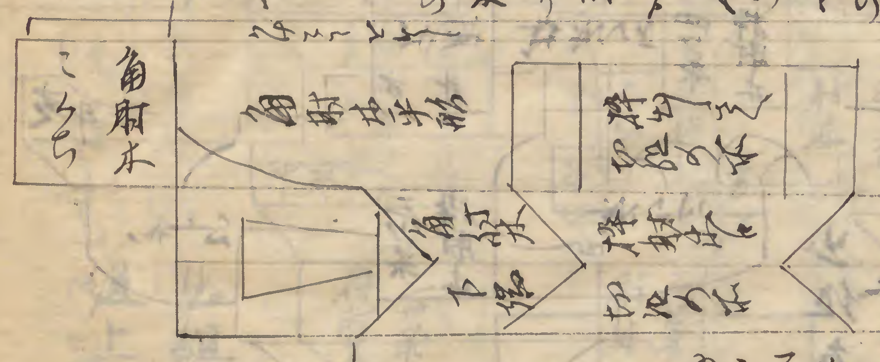


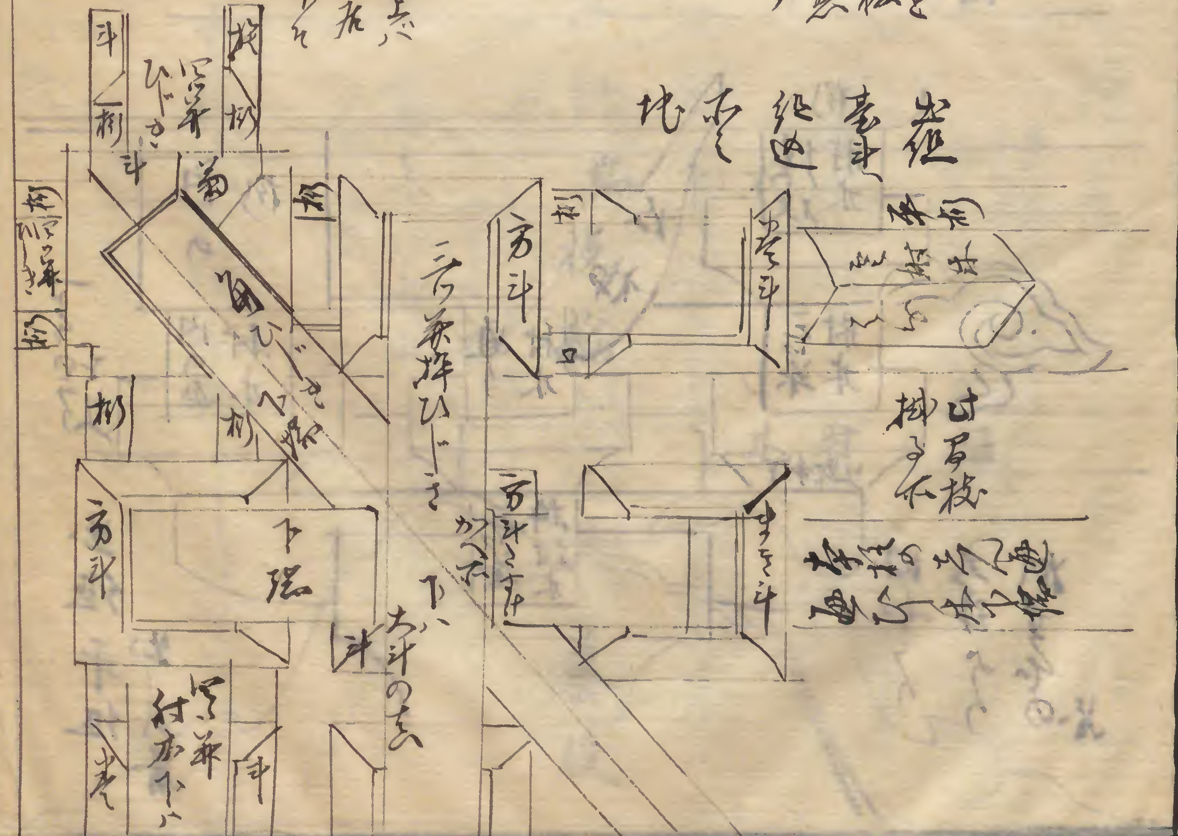
[illegible]

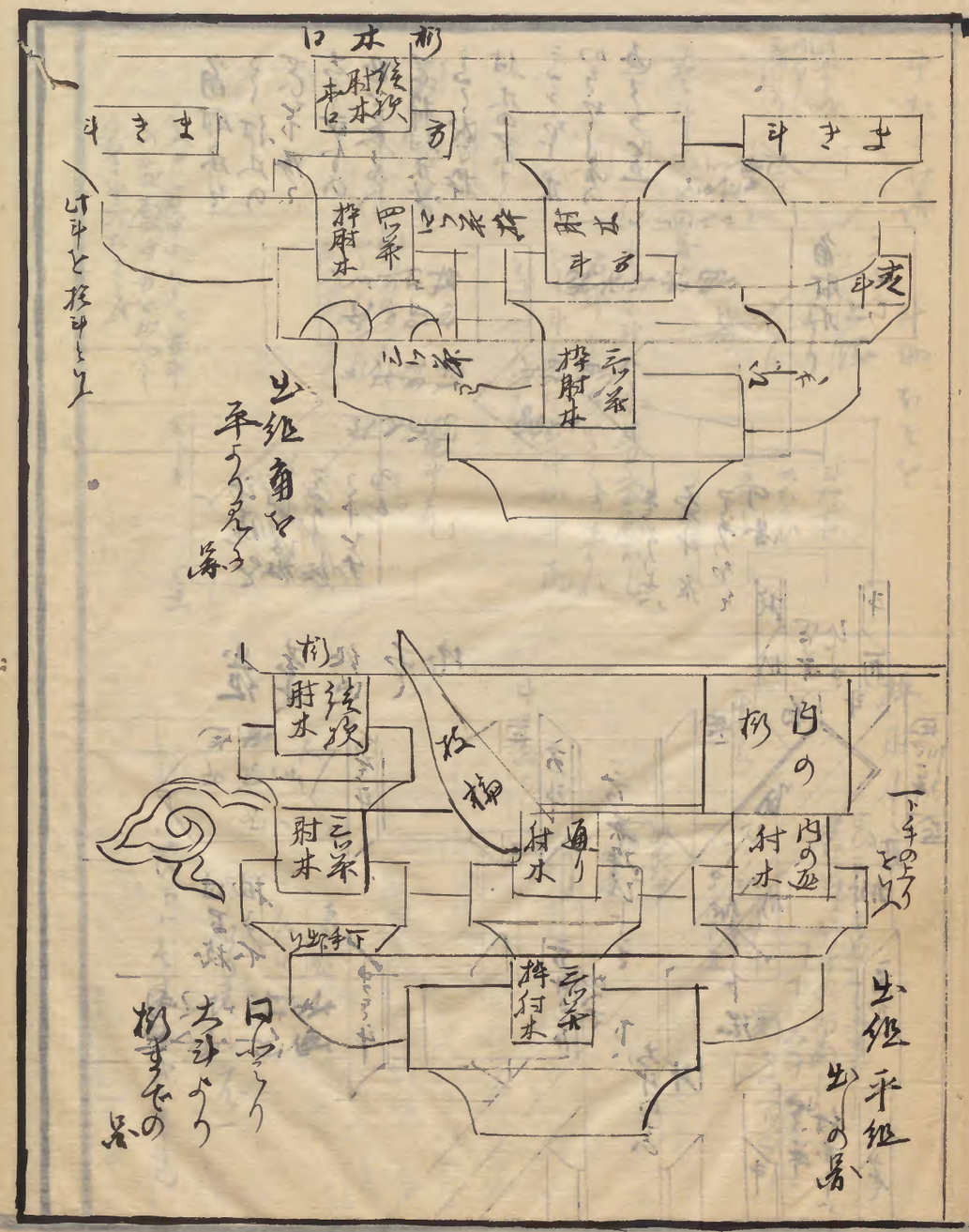
棒肘木之図

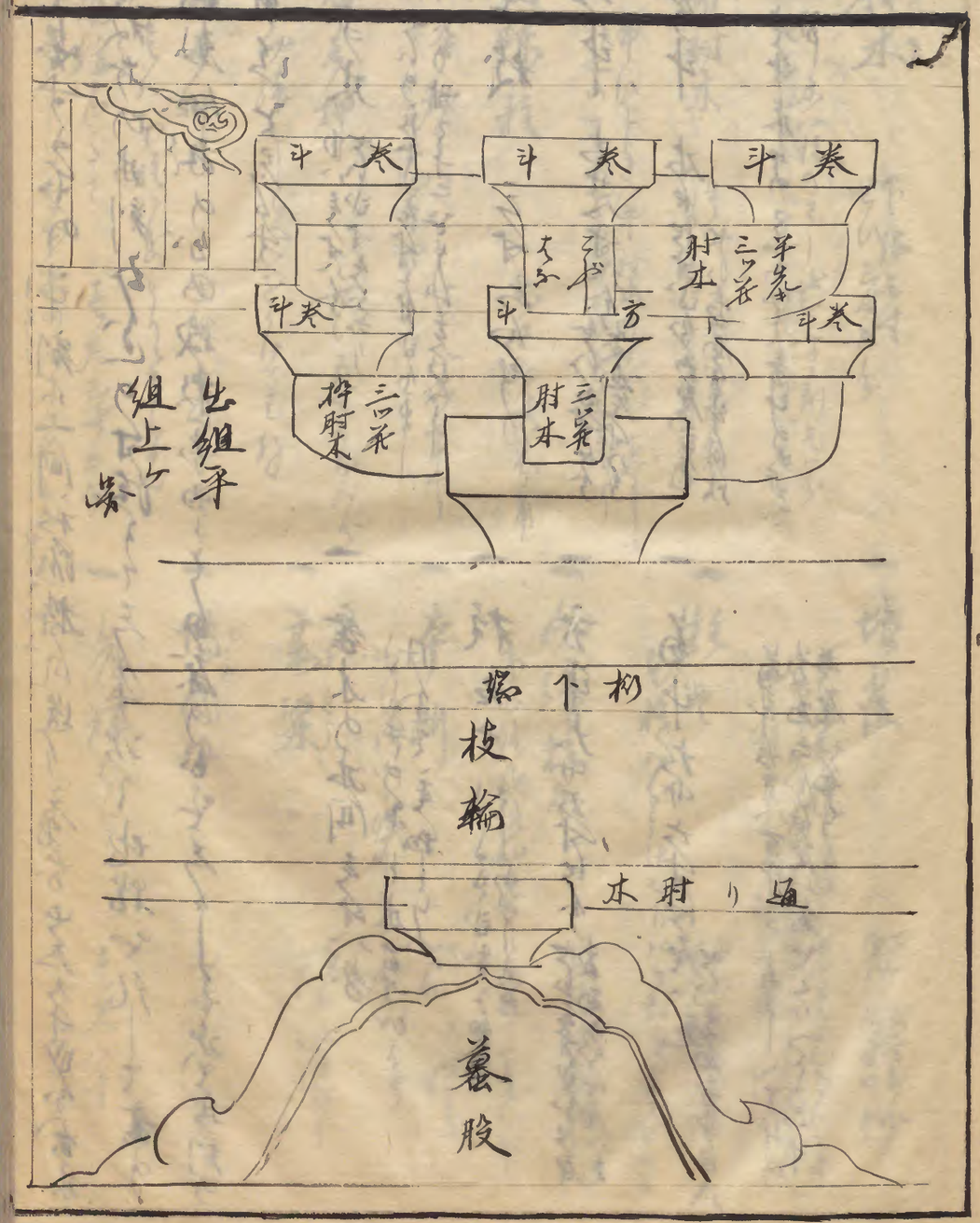


角肘木を
[illegible]






出組平
出組角
内の板
枝輪
出組
平組


出組平
組上ケ
枝輪
通り肘木
蟇股

大工唱ふる斗の斗刻ハ一間ハ枝割り送り尻方七尺五寸を以て会木
より枝割の出刻をもつての寸法を以て定方 次て地指を九して書の
其段数から外の方の段数大小ともに柱間の出を定めして次ハ斗刻の
寸角法と定め

一 肘木 せい 巾 寸法
弥七の寸わり尻方十二とり定めへし

一 巻枝 三寸六分なり

一 大斗 大サ六寸八分 せい 寸法

一 巻斗 本ともに せい 寸法

一 臺木の柱間 壱寸八分

一 枝 大サ

一 方斗 大サ 寸法 せい

一 巻斗 大サ 六寸 せい

一 肘木 せい 寸法

一 角肘木 巾 せい

一 肉拂枝 大さ 七寸

一 目尻押 せい 寸法

一 本尻押 せい 七寸

一 亀腹 寸法

一 地覆 せい 巾

一 枝 せい 寸法

一 木拂枝 せい 枝目

一 本料 せい 巾

一 蟇股 巾 寸法

一 揚風板 巾 寸

一 亀板 寸法 寸

一 大原出 [illegible]

一 清原出 [illegible]

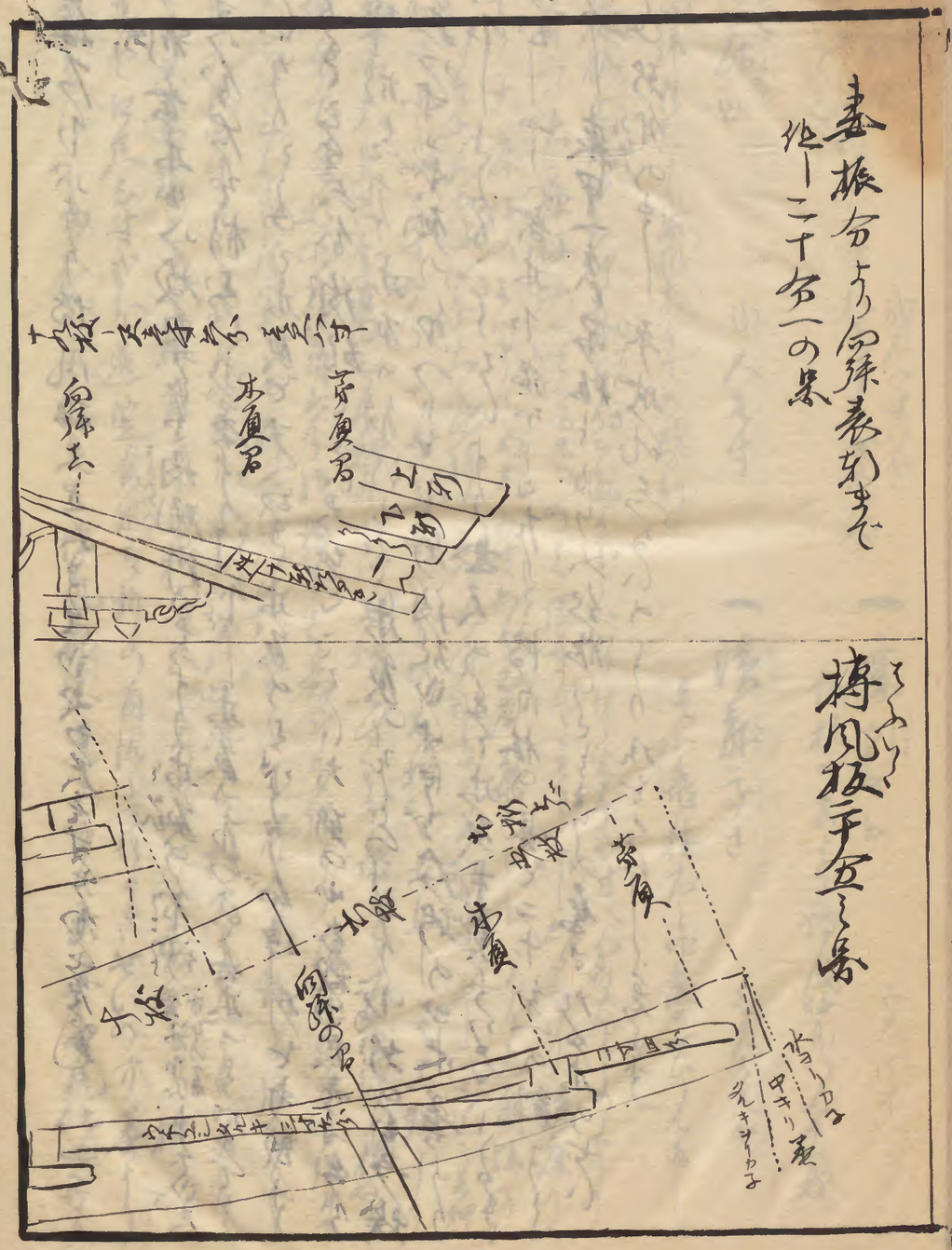
一 清原こうさ [illegible]

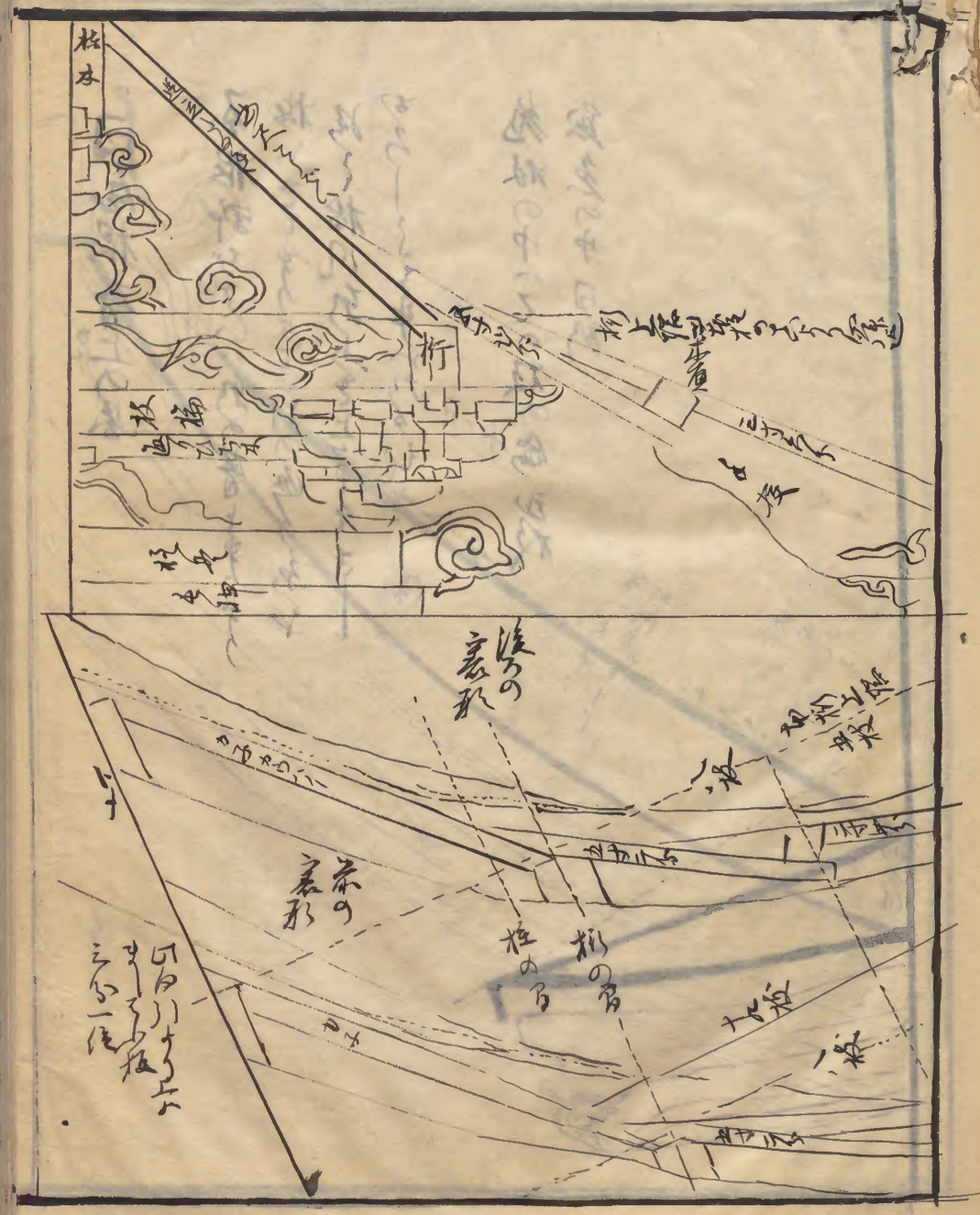
一 [illegible]

[illegible]

一 大[illegible]出 [illegible]

[illegible]

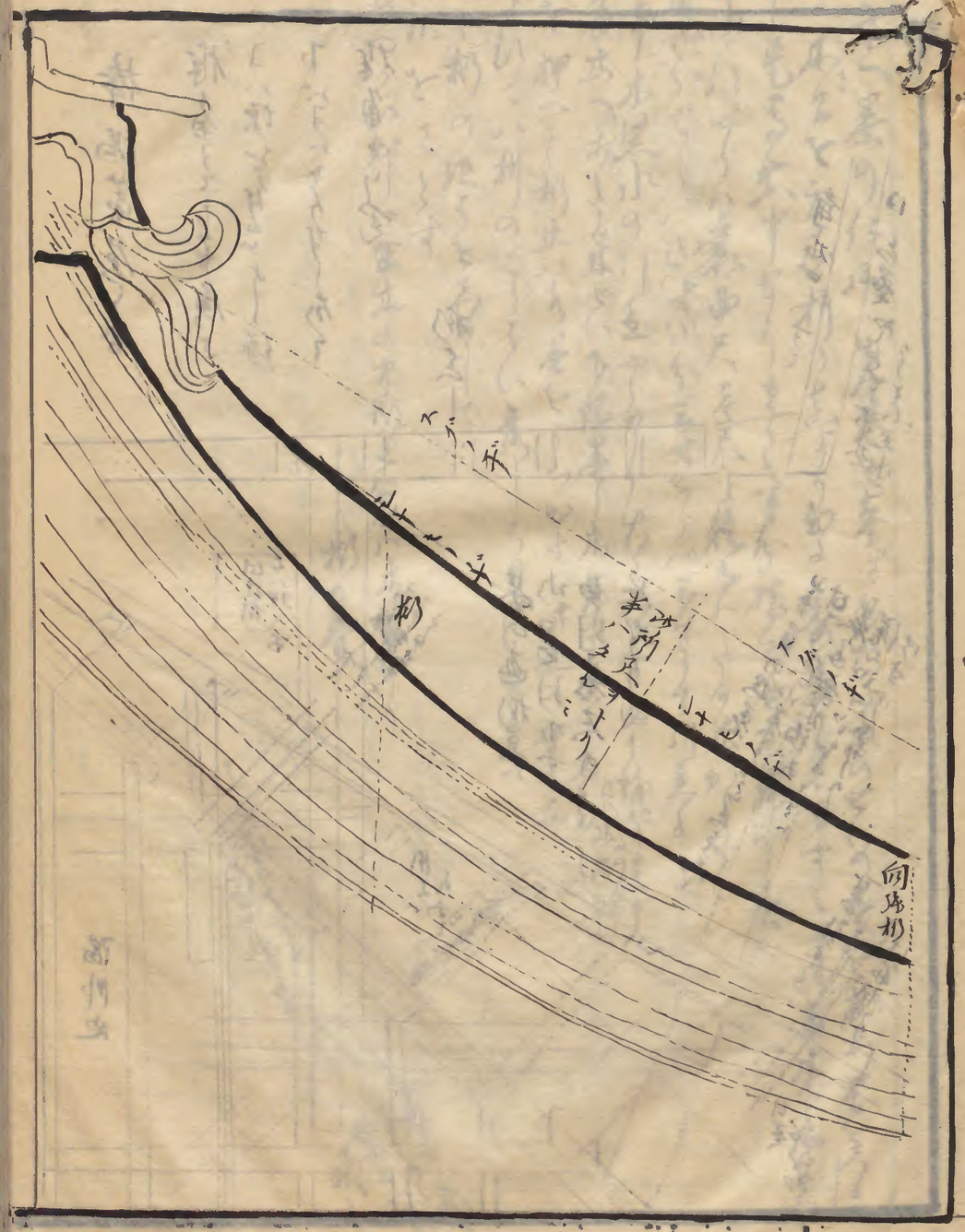

表振分ケ屏表ヨリ
他一二十分一の景
横見板戸五ツ景


松本
浪の表形
宗の表形
柱の名
桁の名

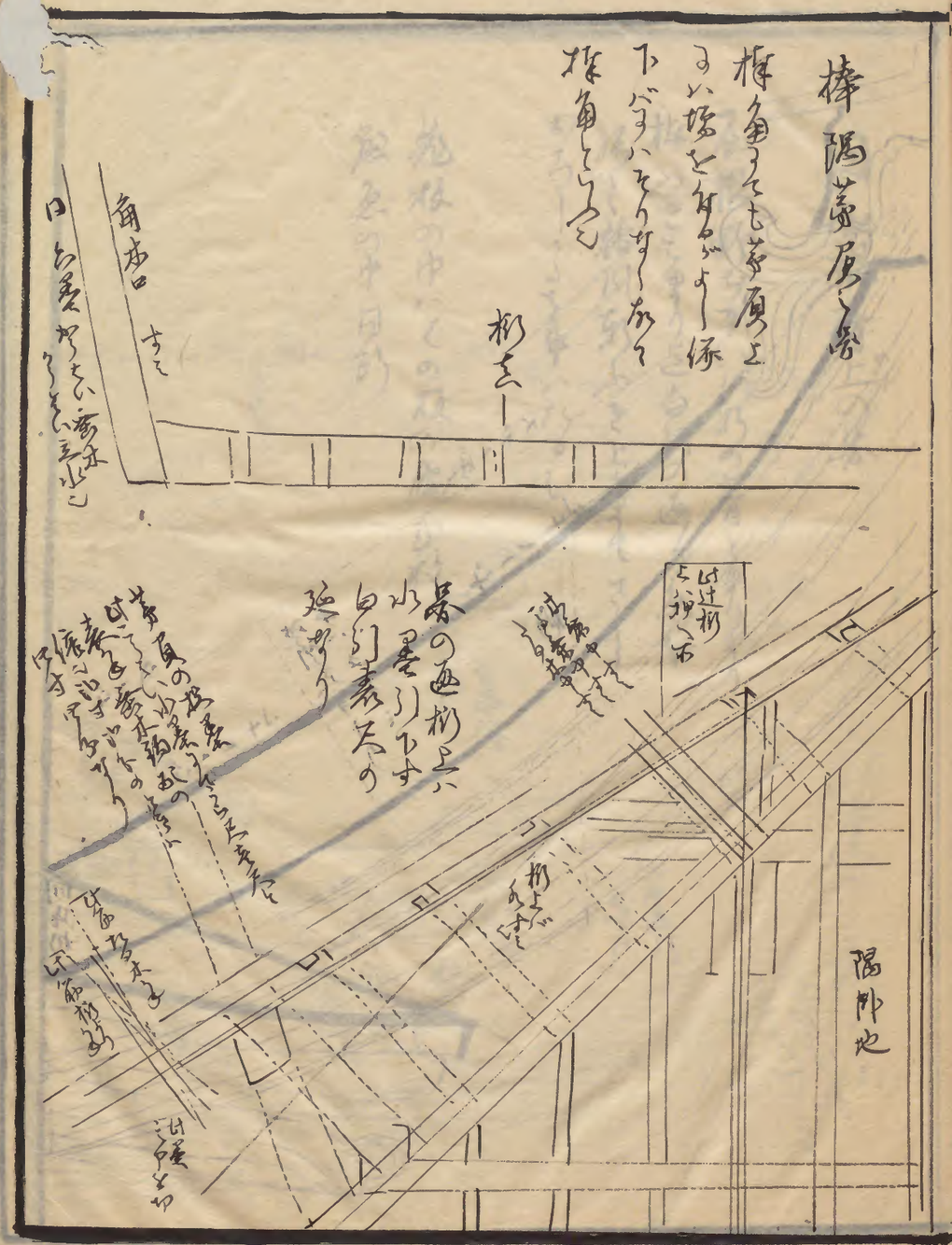
同五根嶺上の景

五根嶺ゟ北ハ新の背ゟ
桜ゟ
ゟ格別新ゟ上ゟ
ゟ

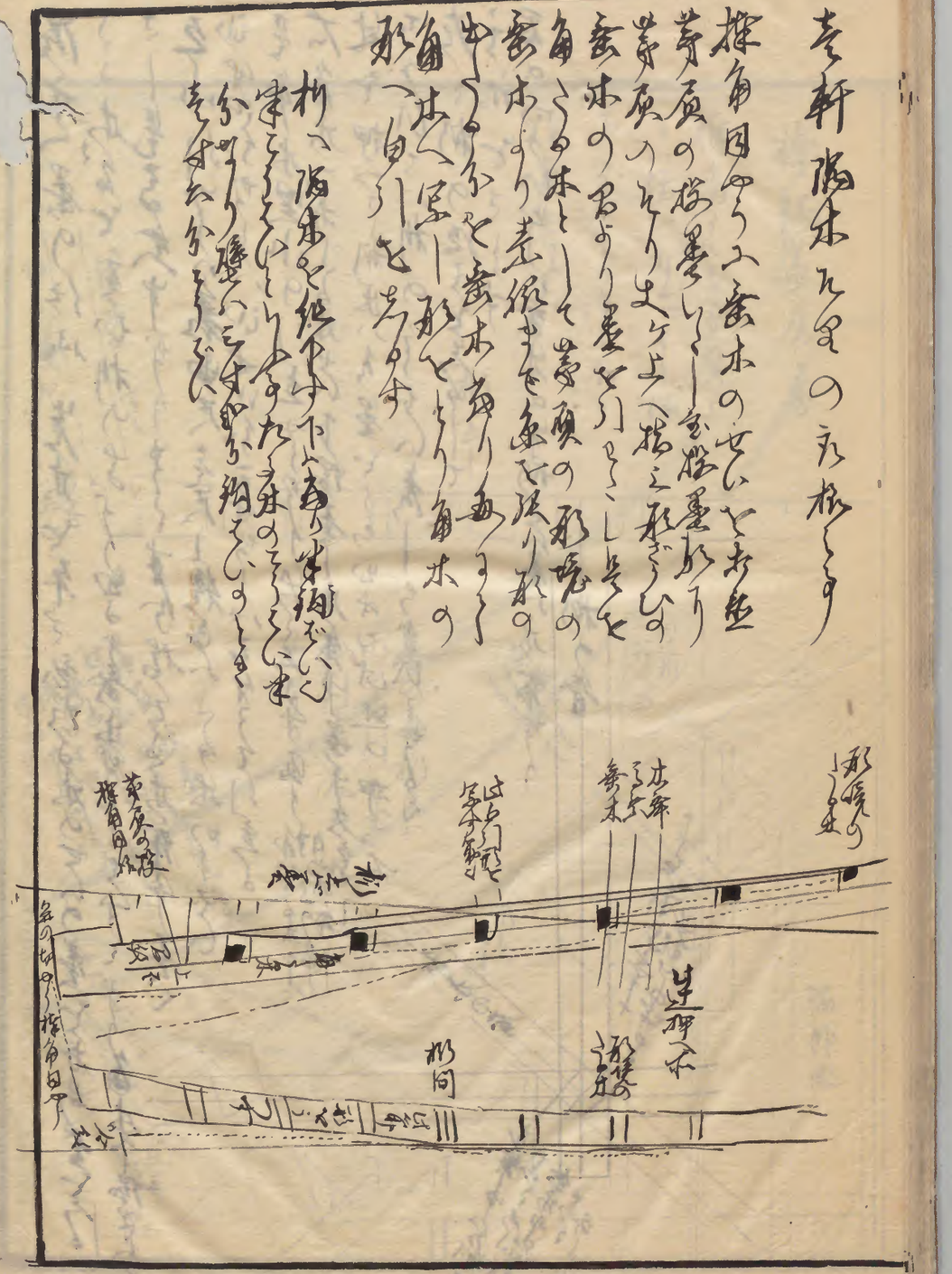
発坂の中八之の坂の絵
鮫魚の中見る

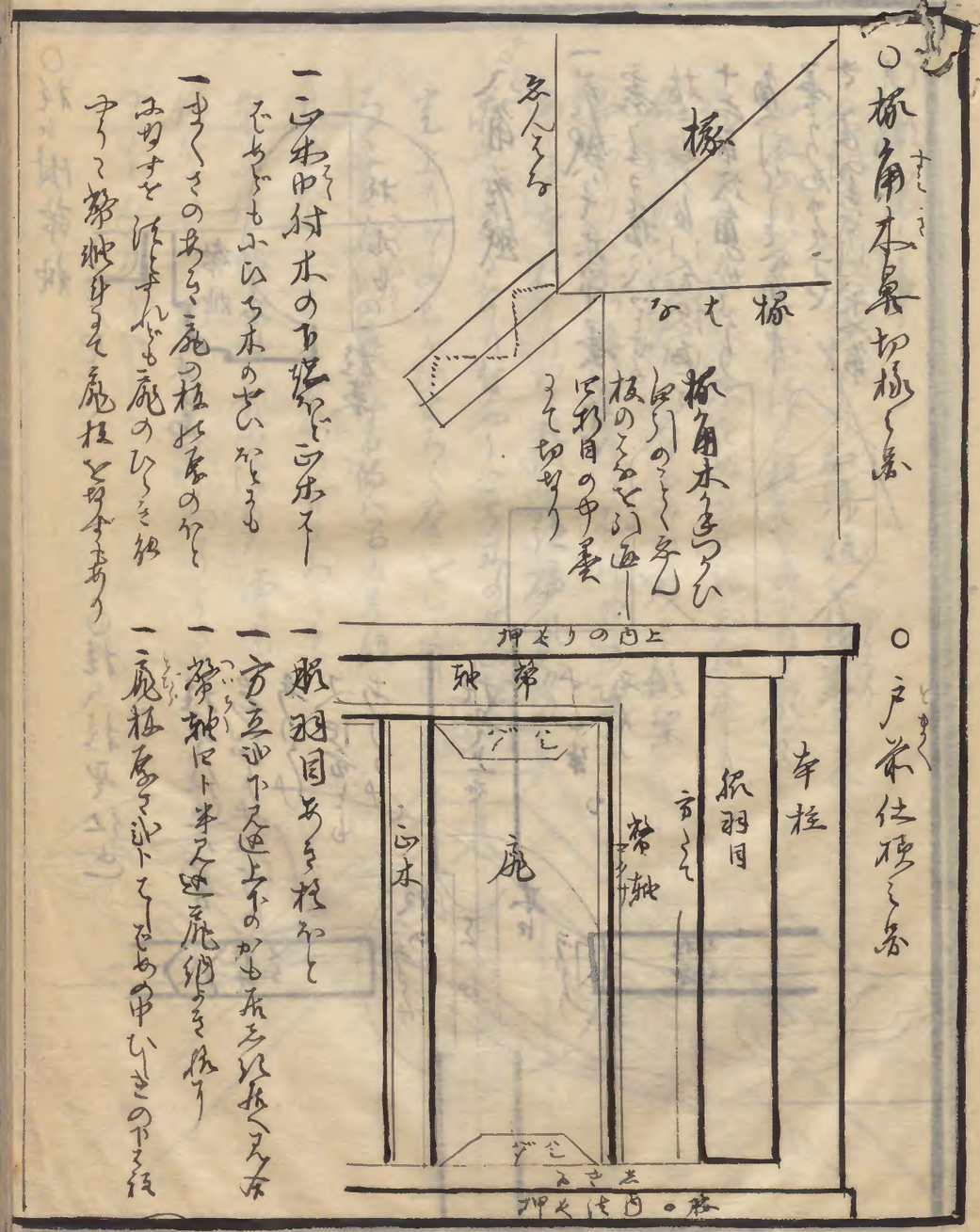


棒隅蔓屋之巻

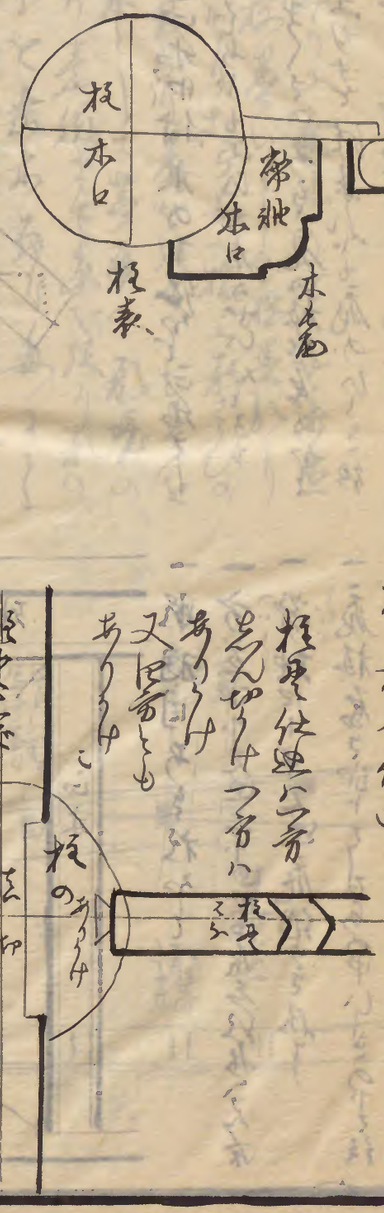


隅土之墨の仕様　先其土を平にし墨をおかせ
しるしをなしむ柳のまたより如何なる義歩なりしこと
さし墨をなす中かりまき中柳を指て也歩中墨
立山りしかりの義曲尺壱尺七寸八分
沙弥山りかりしバ山対い分三寸
を角本堅小のり立中かりしたるすべ
太角本へ対し墨小のり立中かりしたるすべ
辻を押つゝ柳本ハ墨をとるもの
ちがひてハ柳のとるべい表ー
左ゝ柳の辻をとるべて
立法をさしすす
君のつゝひ中ハ蔓本の中柳より墨歩
柳の者




○戸前仕様之部
柱
鴨居
敷居
上部の内法
鴨
敷居
上部の内法

○柱に附神



○八角形紙

一形紙を表の中墨の寸と表と柱八つとする柱と中心合致西十六角八角のかどより角に引き八角の中墨より角すべきさきのまとり十六角となる

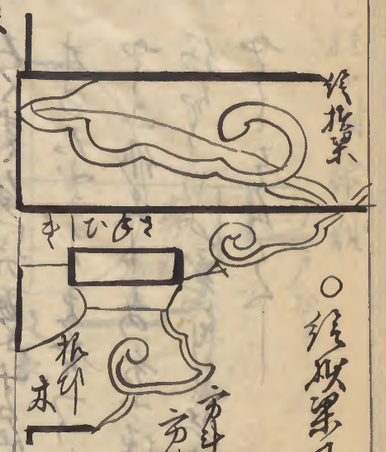
○柱〳〵柱表仕様

柱表仕様に二通りあり一つは八角ありまた又四角ともありまた

○鄭第一事

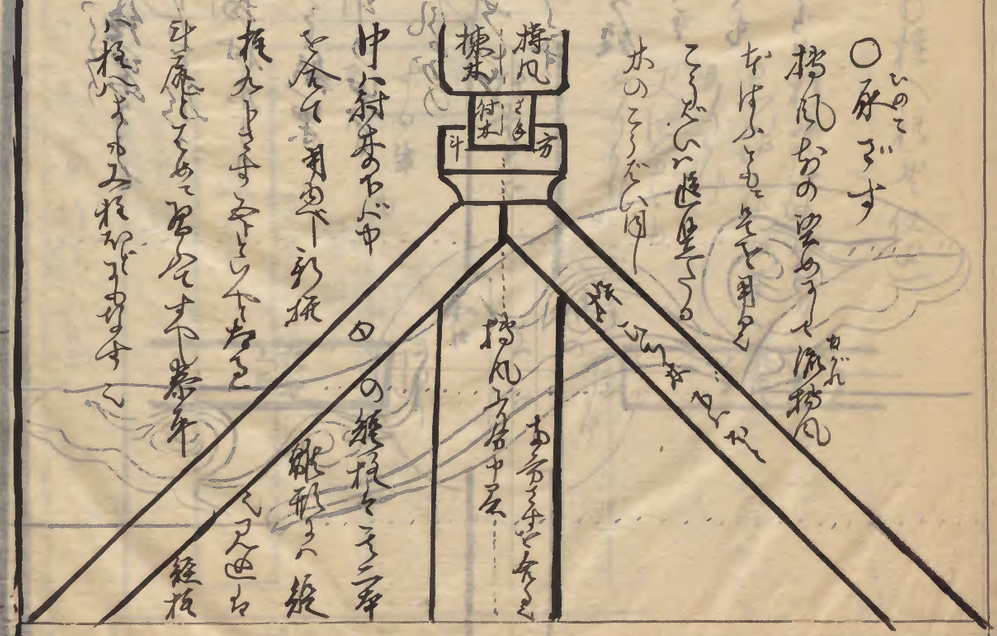
一元びとりに本柱より四隅柱に結果する西の柱表と四隅の柱表とのちがひを作るもあり又は表柱をぬきて結ぶ柱表柱へ結合つるもあり西行りの本の結果すべて四隅中の果をあしき本柱より四隅柱への結柱凡そ四隅柱表の寸法は表の寸のちがひとろく長とします

ろくすべ白の西ふすの西ふすの表結本のかぶりと合つる合よりまもふ作ぶ上の寸法あり法も行ぶ引ふ刻ふす出ふ出ふ

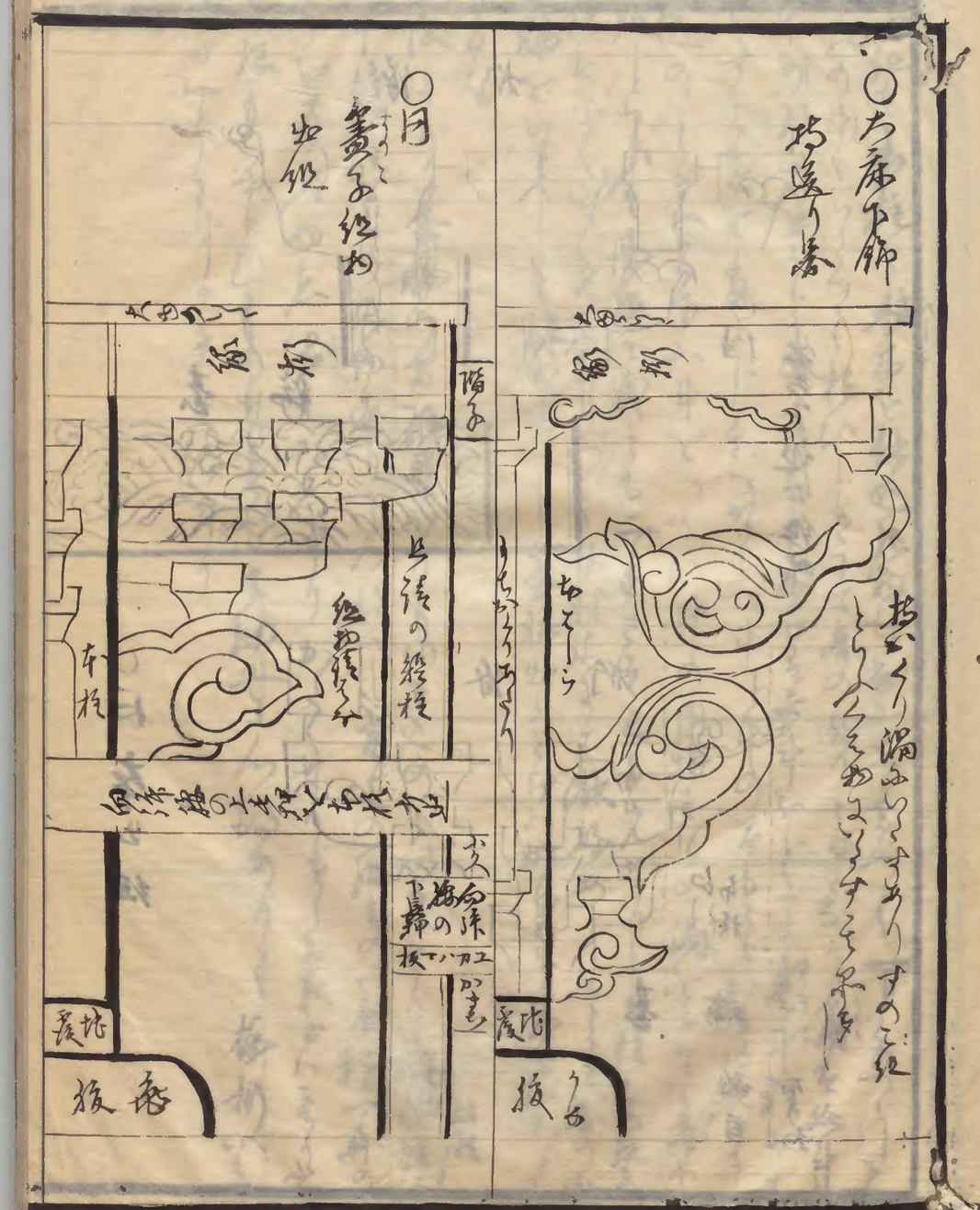


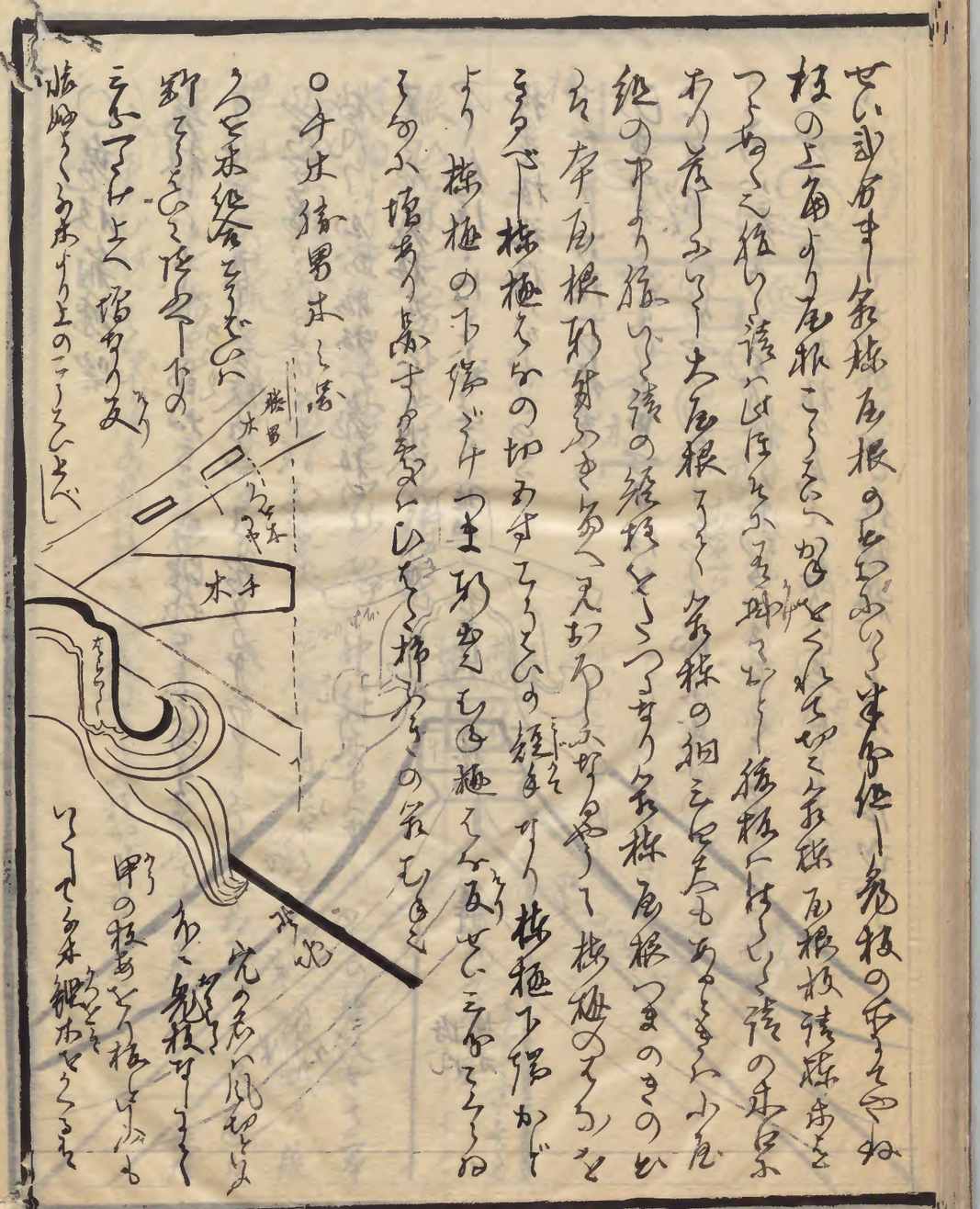
○経歴の事

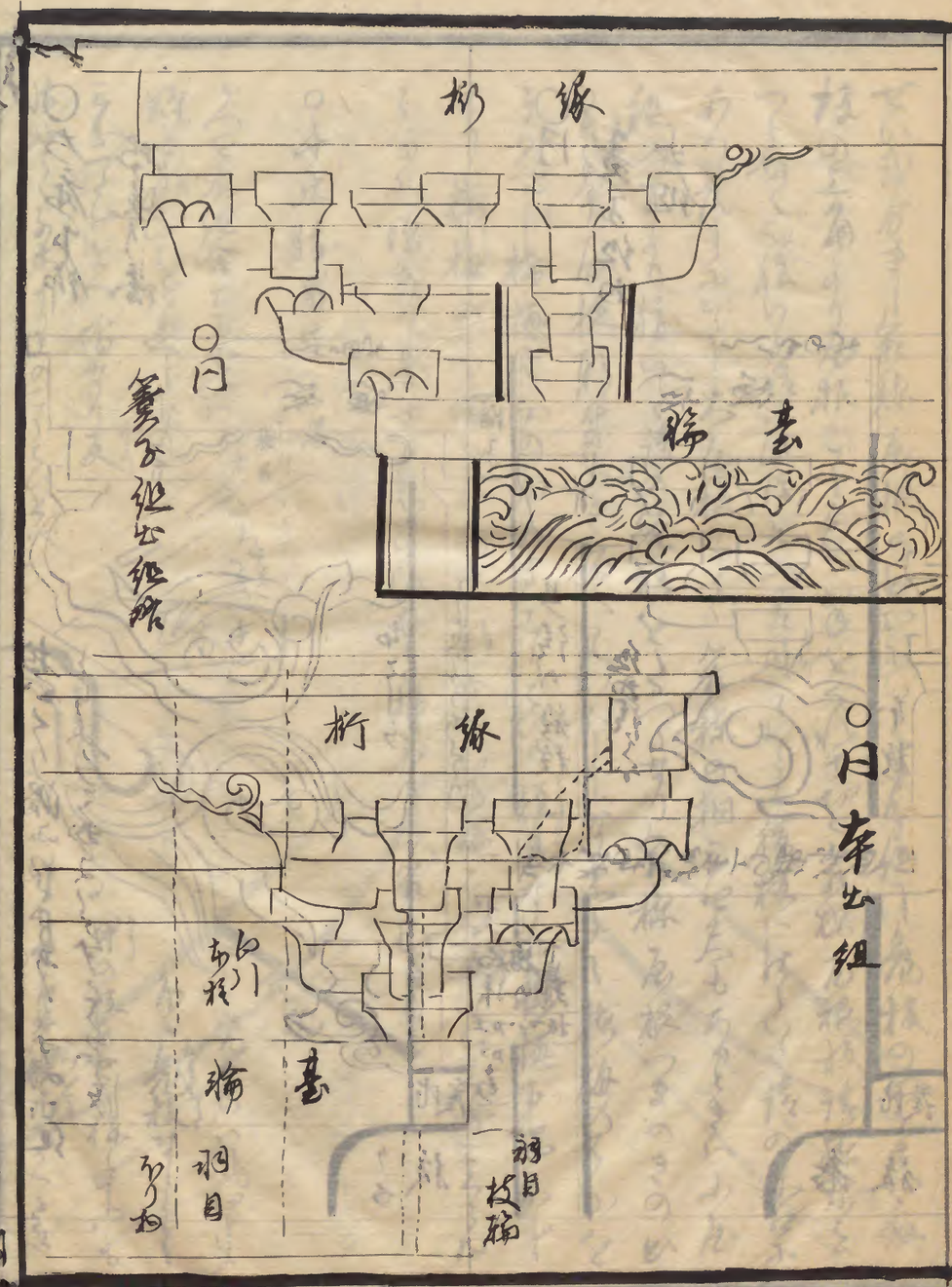
一根ひぢ木七方計あり



○鬼板箱棟図

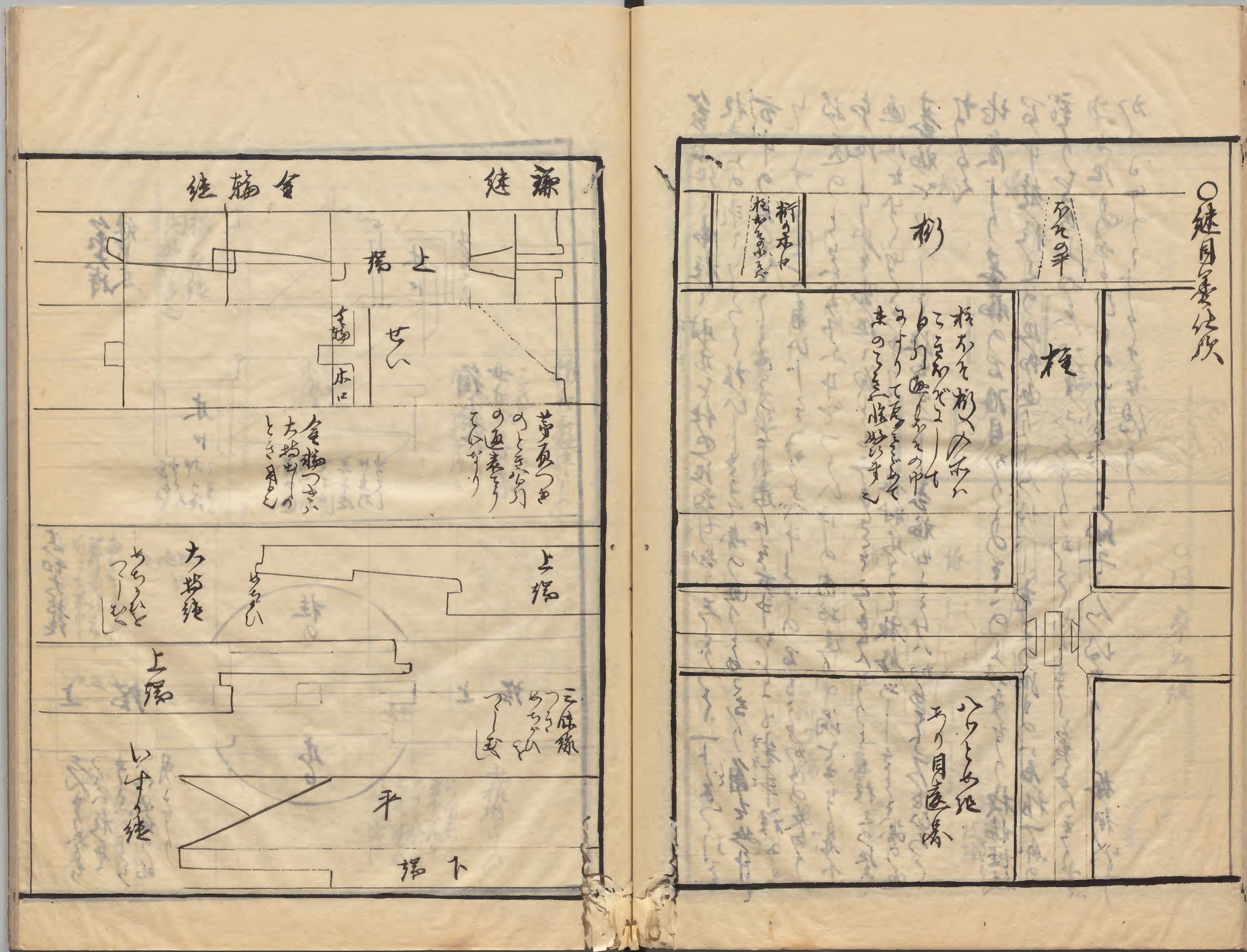

○右座敷
地袋戸
○同
書院の仕切
如此
違棚
上段の間
本板
北廣
北廣
板敷
板敷

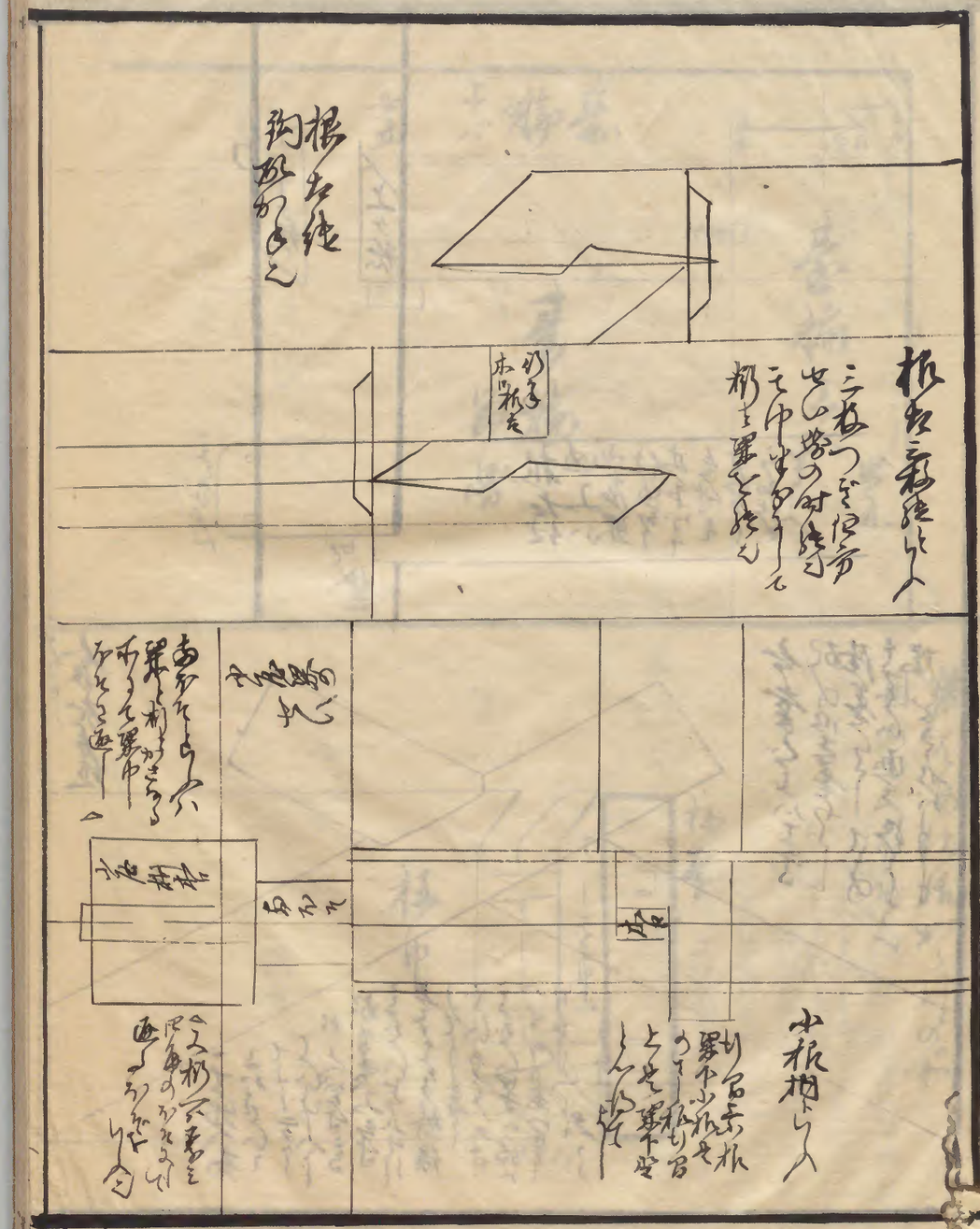

○中床後男床之図
木
木
北

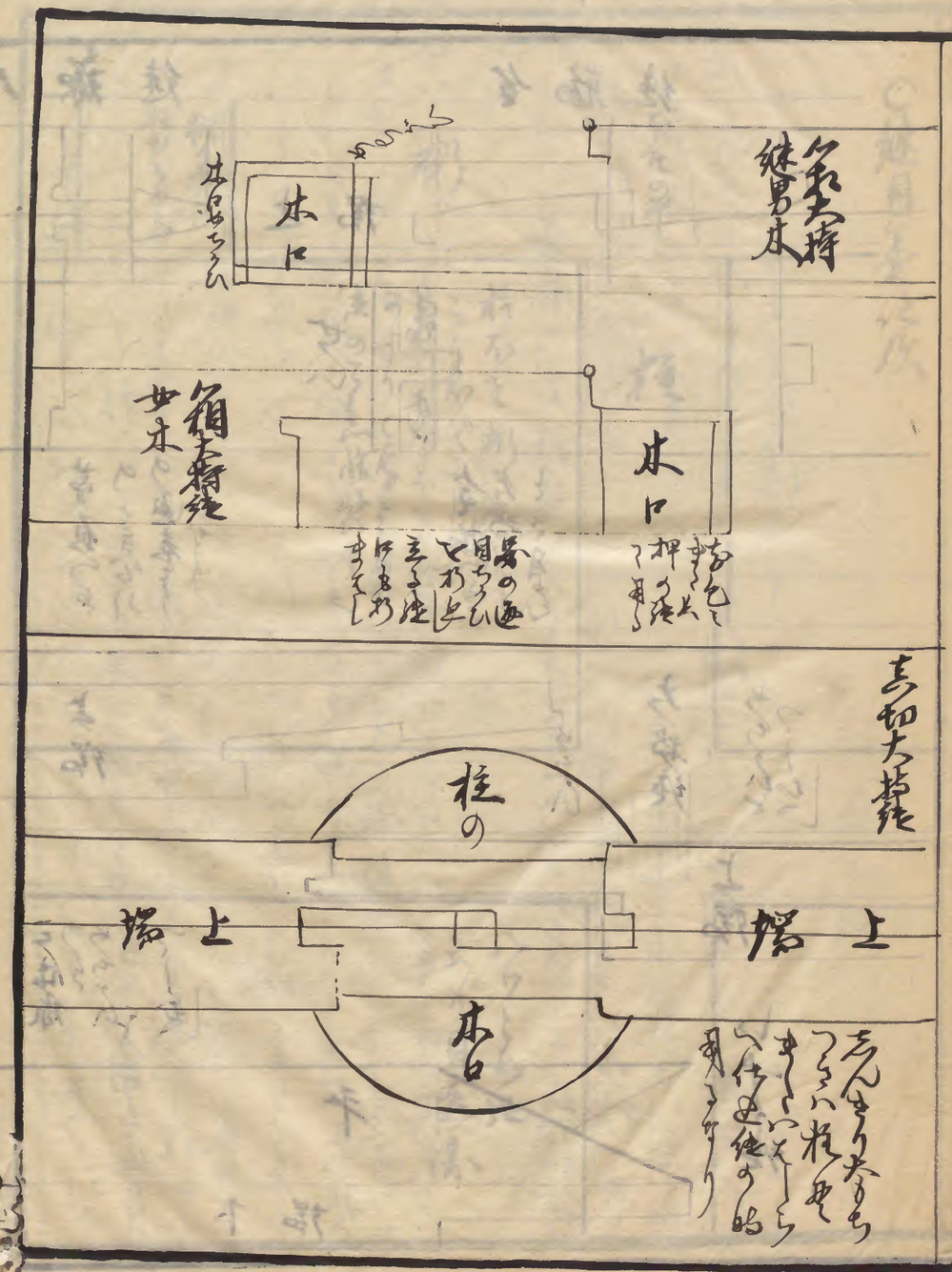


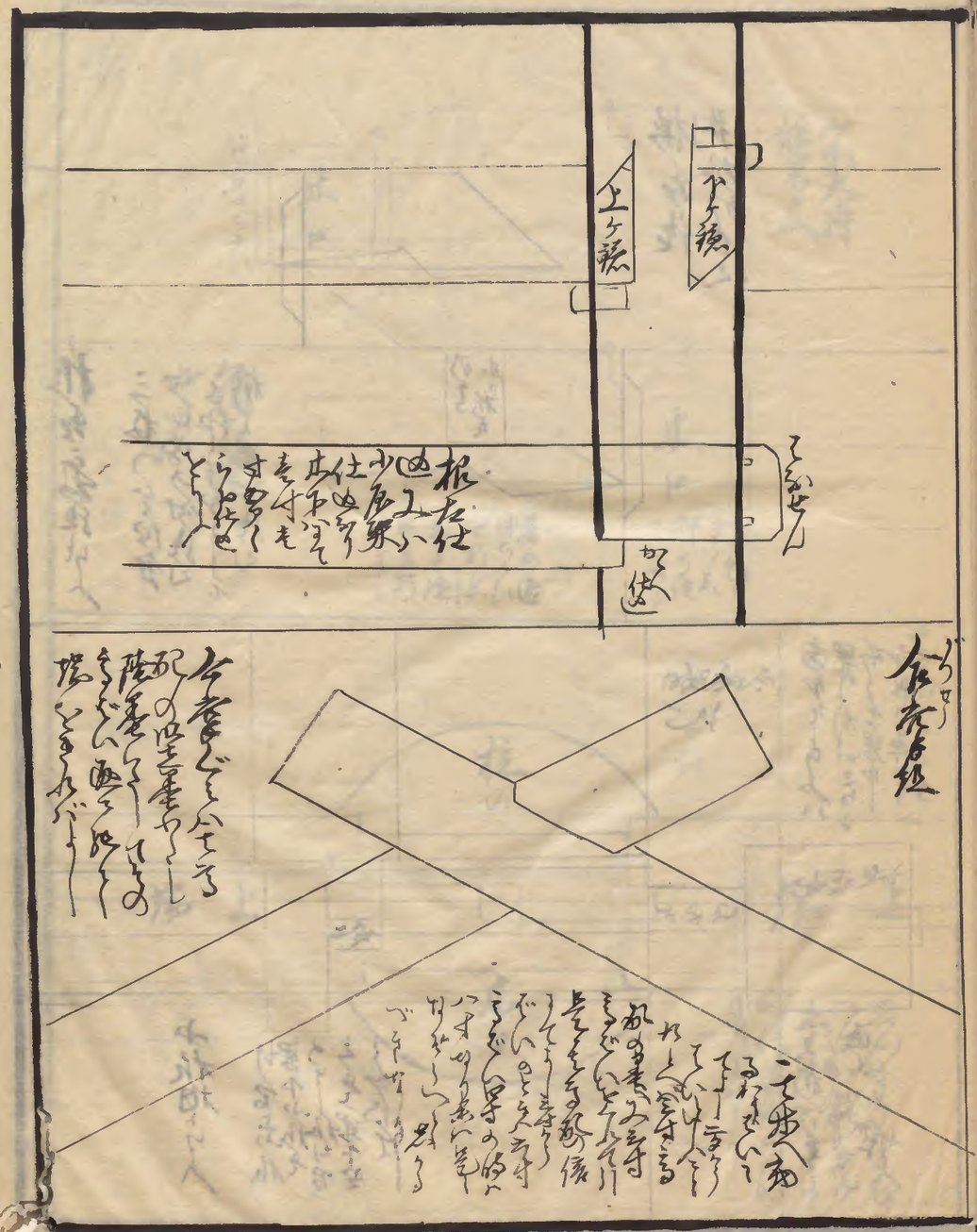
[illegible]

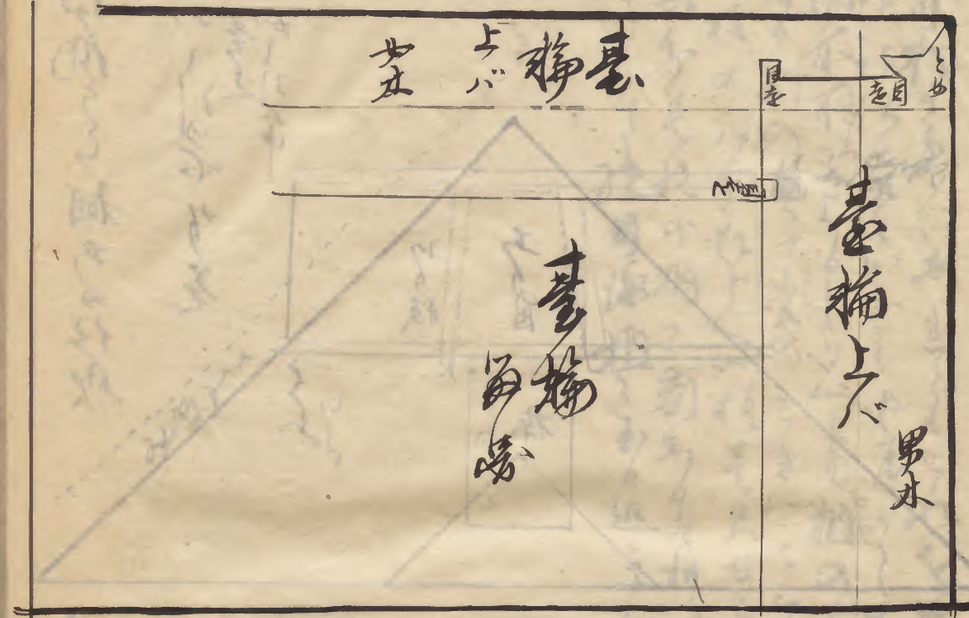
地震より妻棟の[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]

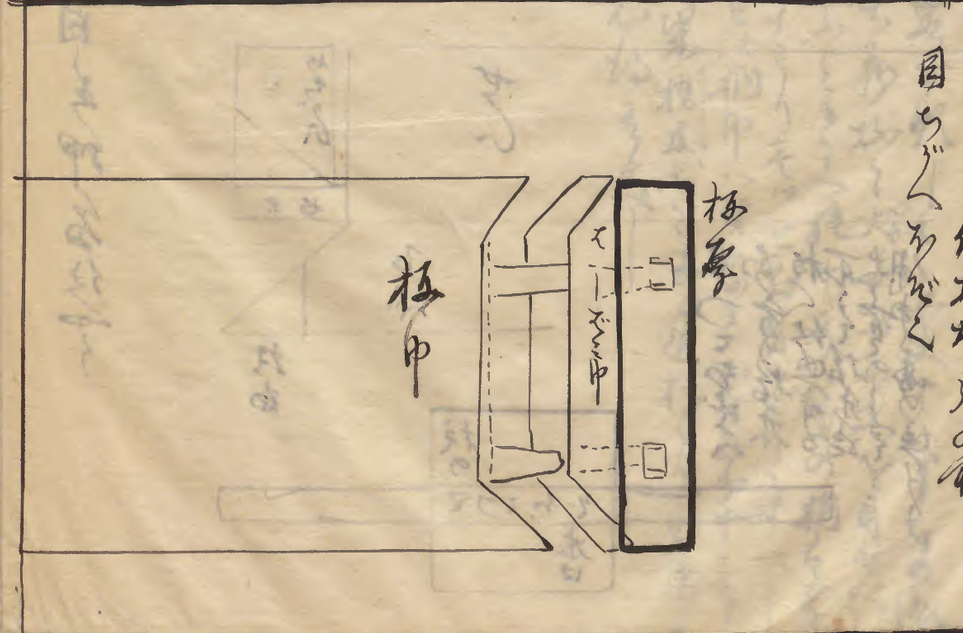

○継目長さ仕様
柱
桁
桁の本中
桁かなの中ぐり
桁かなを桁へ
ほりこみ
桁の中ぐり
みすりて
桁のうらへ
はめこむ
八つとめ継
ちり目長さ
継
金輪継
上端
せい
金輪
本口
金輪つき
大梯子の
ときの目
夢百つき
のときの
目長さ
大梯継
ちりとめ
つぎ
上端
三段梁
ちりとめ
つぎ
いせん継
平
下端

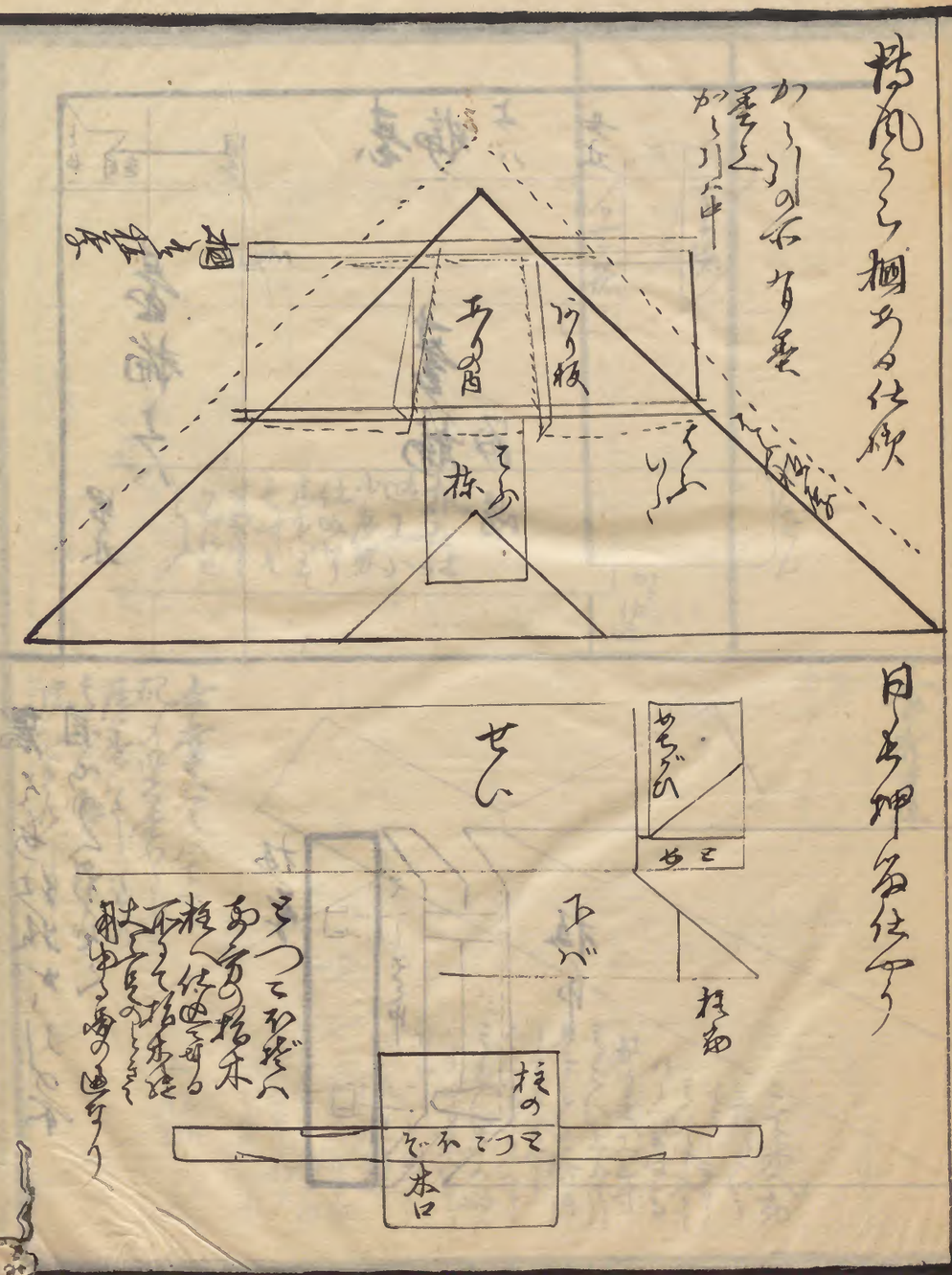



柱の
上
上
下
下


上ケ板
少ケ板


上バ
男水
男水


極摩
極摩


板
柱
柱面
柱の
つま
それ
本口

他事雜形 二

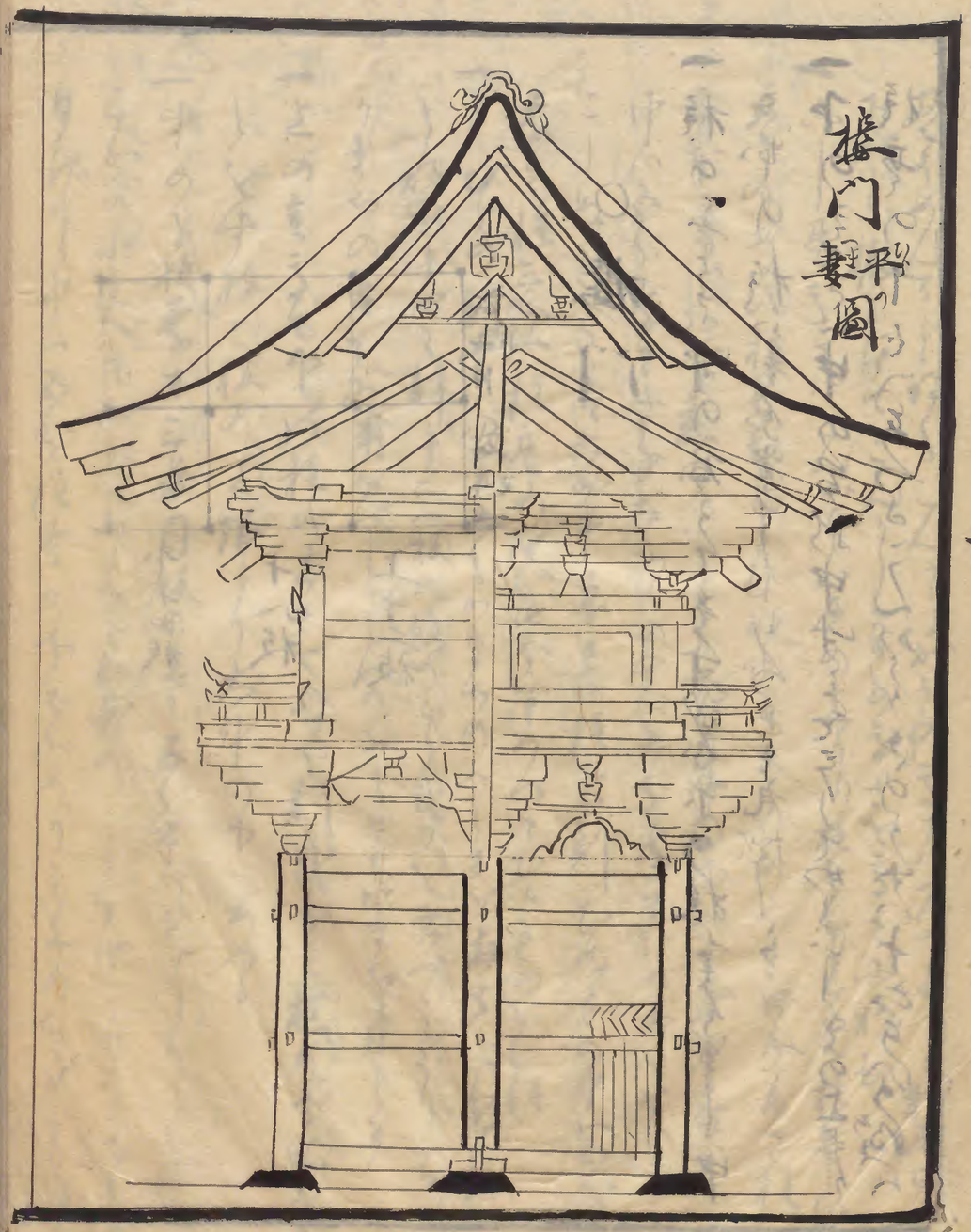
甘度間明之掛

国立公文書館
National Archives of Japan

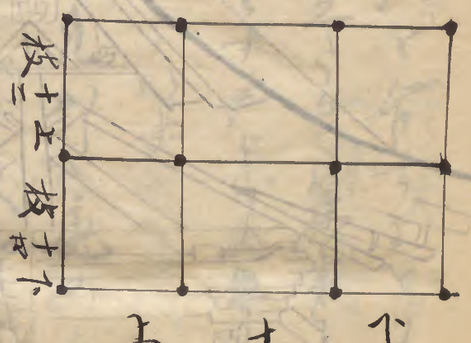
門構部目次

一樓門　一惣門
一冰門　一四足門
一沖廊（うきや）　一上土門
一向廊（むかひろう）門　一棟門
一平廊門　一茅葺門
一向廊平門　一平廊平門
一平屋（ひらや）門　一鞘（さや）門
一廣間

○門を面戸と称せるは人縁に用きいつる人門の字へ
戸をたたて立るを篇書に門とあり戸とは
出入口をいふ戸とは人住し立居する面庭の
家を門を許されず
古人のいふ凡かゝる庭の戸いたゝ的べしこれを右の
ごとく旅と拒ぐべし又寺菴にはたゝいたゝくべし是のごと
面球　しかるに面庭と正しくかぶるべし



○楼門



一柱のふとさ中の尺にて三寸五分下の柱八寸五分中
二寸の柱八寸五分中の尺にて中すこしりづまる丸ばしら
一下のこしき八中の尺にて中すこしりてかしらのこしより
柱長の下にへらつるこんがらきのうば八十六ちゑ八分

一ちゑのながさ八方五のつゝ下より柱長の
中八方五のつゝ下より本の中八一本出る方にて
ふとさこゝにめるくらいこの方半長さい柱二方刻ひめきの中五寸
長さ柱三分柱長のとおりにちゑいぢきの中
一ちゑびらの刻中八方五ちゑいぢきの中
ちゑ十四ちゑ刻十二枝の枝のとり組りと方づくりにて
ちゑのうちの方ちゑ用ゆべしこんのうちもかまちのとおり
一ちゑのながさ中ゆ柱のちゑ方ちゑ刻或ハ二枝の下ゆ
ちゑ中ゆ枝のとおり大半の中にあり
一中のうち板長さ二寸四枝のうちのこと
ちゑ二分のかしらをふくべのうちちゑ方のこと
中ゆ中ゆ柱長の下ゆ中ゆ

[illegible]

他枝の中に七分五厘木村のせいなど

一[illegible]のうちの[illegible]の刻[illegible]仕[illegible]

[illegible]

一[illegible]二寸四分四方の[illegible]枝[illegible]

[illegible]

一地[illegible]

[illegible]

一仏のまえ[illegible]中の[illegible]

枝[illegible]

一二寸の書[illegible]

[illegible]

○徳門の事

一枝の大き中の[illegible]

[illegible]

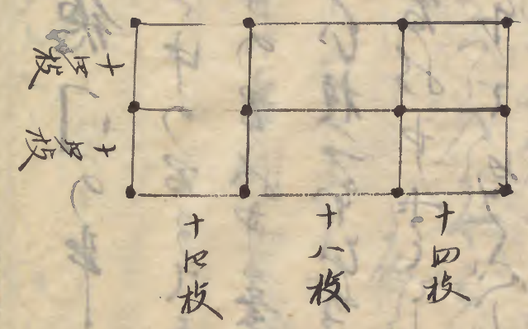
[illegible]

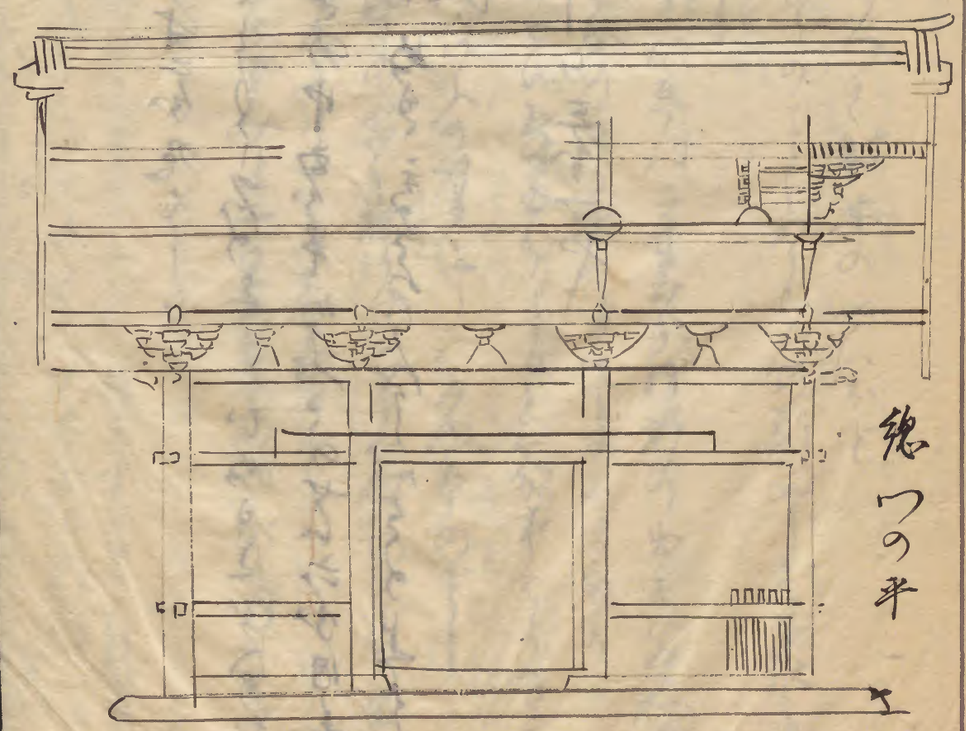
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

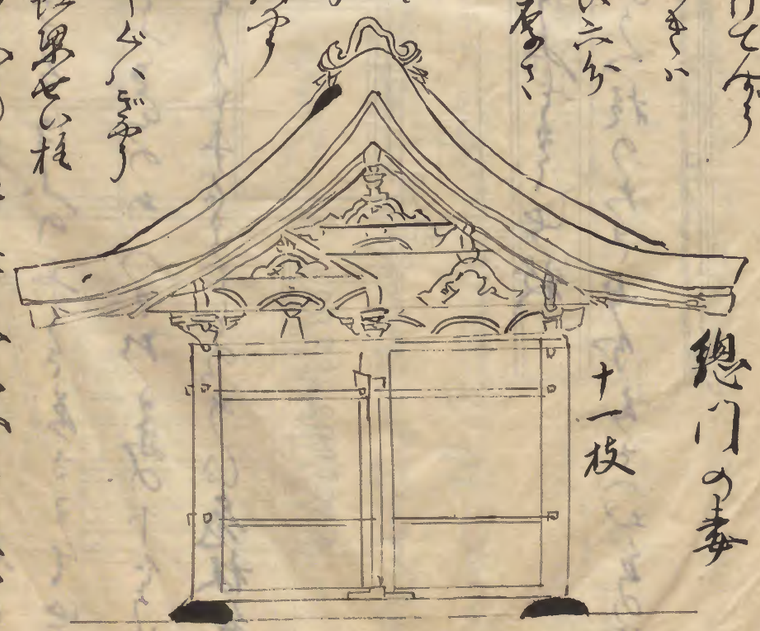




總門の平

一金剛がらのそるさハ万のよバと
柱のきの下端こうけだぐり
からのそるさ目数十六あきい
ぬきのうんかんなどハ六分
ちのつさハ五分かくいしさの厚さ
ハ分ちを柱三本ハ
寸立より面本の下ぢかど
物々方立の中ゑ分寸きさ五分
まんなかハ五分厚の刻子
物者

一くさこうの刻ハ右の如くバ子
ハ七分下ハ九分ハと柱巣ハい柱
一本うちかつ子ハ七分つ上柱巣ハ九分ちいつ
ちさ八分



總門の妻

十一枝

一上のかすがい六寸八分つぎのそうだい六寸六分半四方

一のきのもりけ一枚ゆるこみりわりをひろ板のうち板

十一枚のしたのこし九枚ゆるこのたてきはさまて七分

よりて三分半下へきをかぎ半ほのかたちのかつきはの毎の中たちり

かえのうちをかじわりまたうちのりうきすぐよりうちのひろ板数良

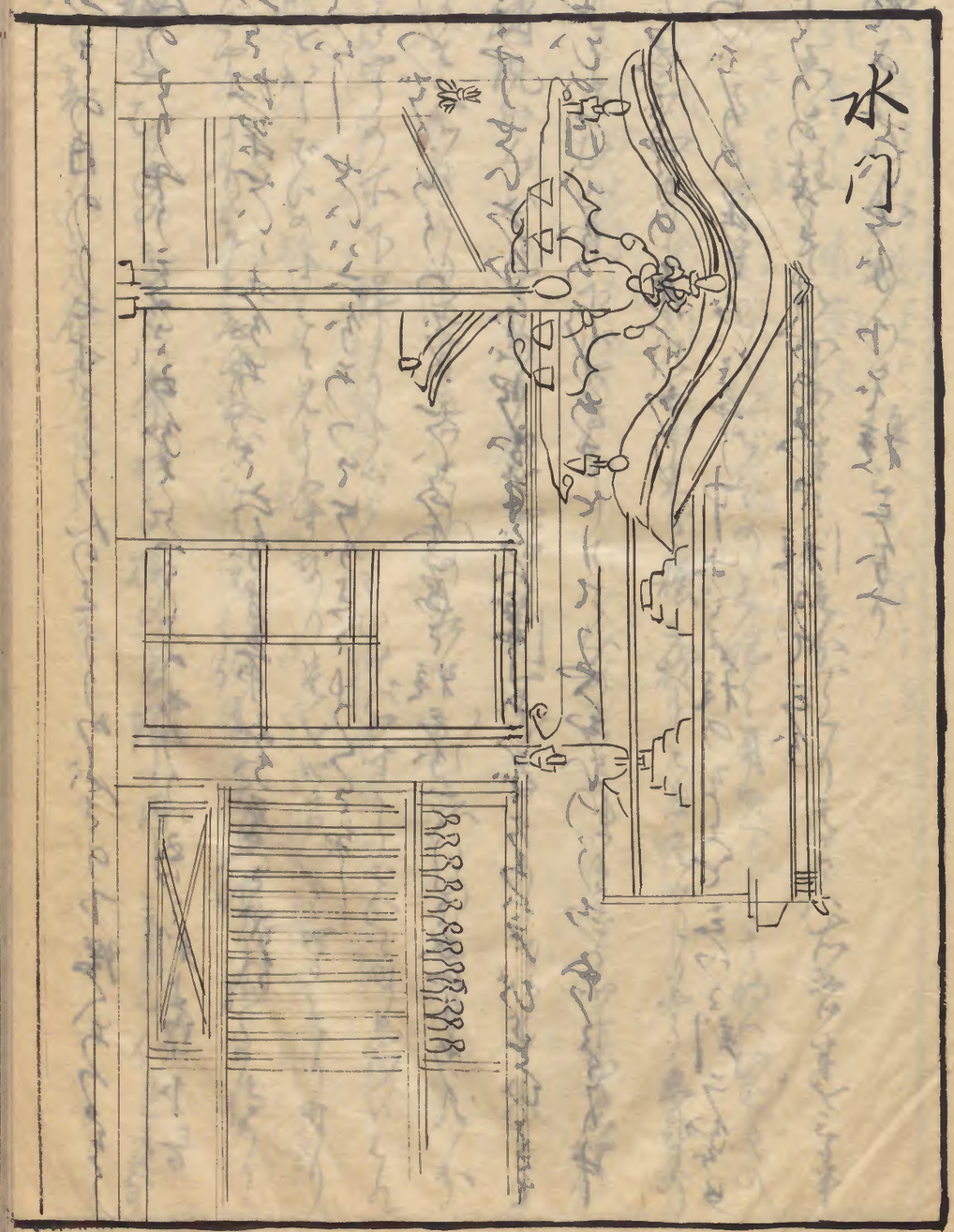
えんぎの如一

瑞門の事

一わりうき板二十四枚ゆるこのきをかつきはの七枚

板のふしをかうてきを寸九枚ひろ板のうち七分五厘八分五厘の板

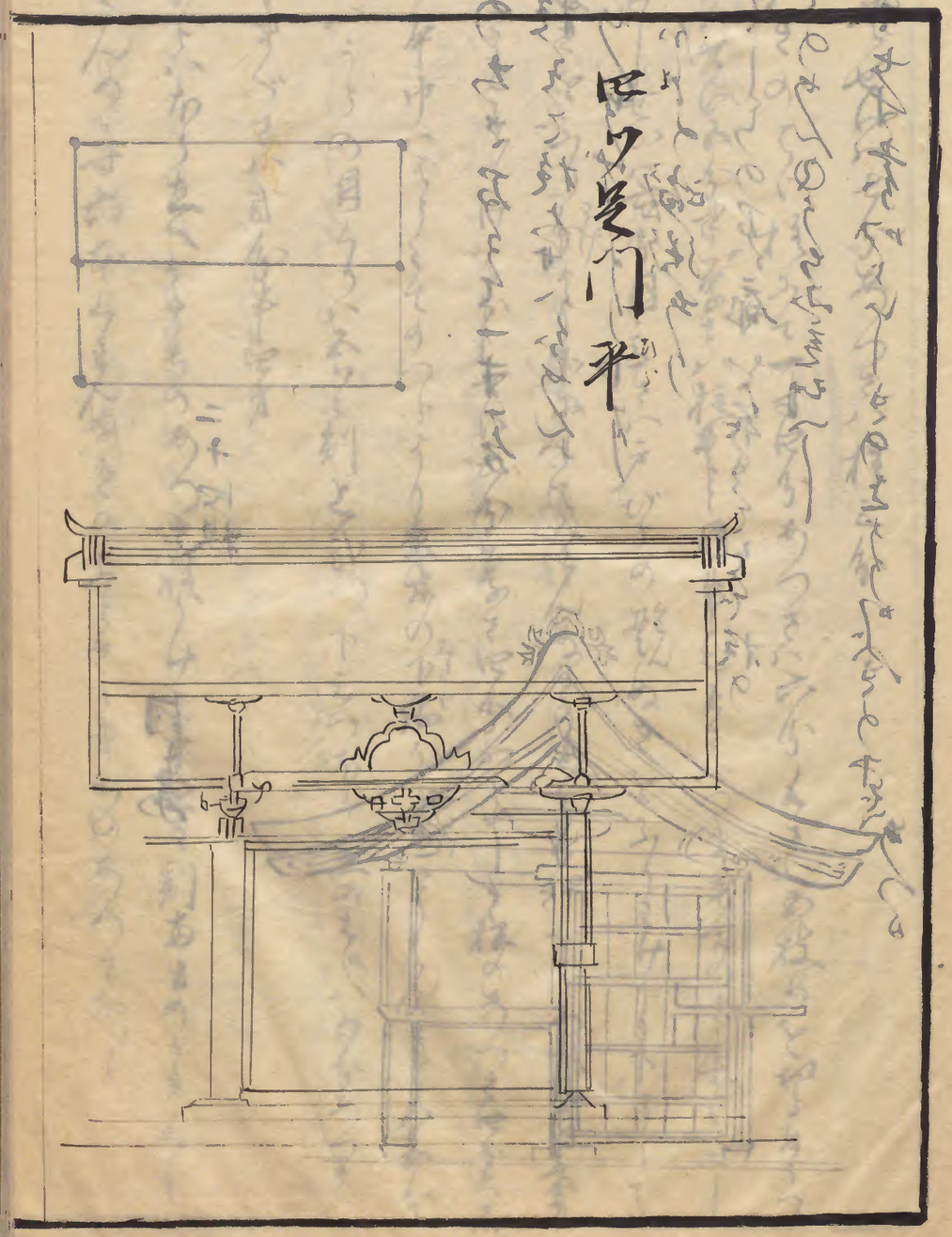
まかえをうちをかみをさし



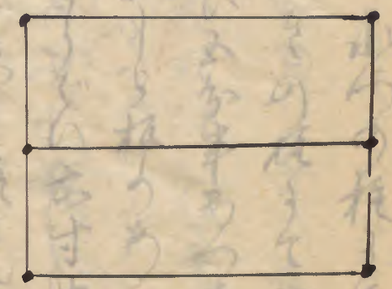
一かしきの内のり七寸さしたんのとりめんぢさの下端へかうとう
ぢんのとりめんとうさあるとうのかうとうのかうとう刻上端下三分
一りんき拡張せい六分ちつき六分まき高さ
一踏とうせい八分ちつて七分とまきとまり
一大らつぢりめらつぢりせいあるあるあり
一ぐんぢせい六分下ぢ四分まぐんぢりのいどころ八寸びきをひきて
くやをひの内八分のけりあきとしてくやをひのうち
一ぢらぢらぢりの拡あり
一ぢらつぢりのきぐんぢ中ぢき柱のそとと三つ刻二分ぢ
うつとりのきまきの大さ柱うて三分
一柱きのせぢ七分下ぢ柱三分

一大梯子ぢ八分ちつき柱ちとり
大平大き柱て八分あまき刻きとうきき
大平のこうきはまこうぢりきの上端へ月ぢ二寸ひぢきの
まきとうあかまれぢ大きぢ懸こうきとりあり本平の
如しとひぢ木下ぢ四分ふしてとうのきまきぢわど出ぢ
一庚時風ぐんぢのうちと四分刻一分こうきとりていそしものの
分うてあつきとりて平三つ八の出きもの出て八分
ぐんぢりの木下端とりまぢうぢ出ぢうぢ
ひれとかぐぢのすきとえとり木
ぐんぢりとりきとえ木分とりうぢ行きまて人作り柱七作り
一玉垣とものこうきは本社きる梯の上端と四ド三寸こ行きと
大ふきありこえ会すべし

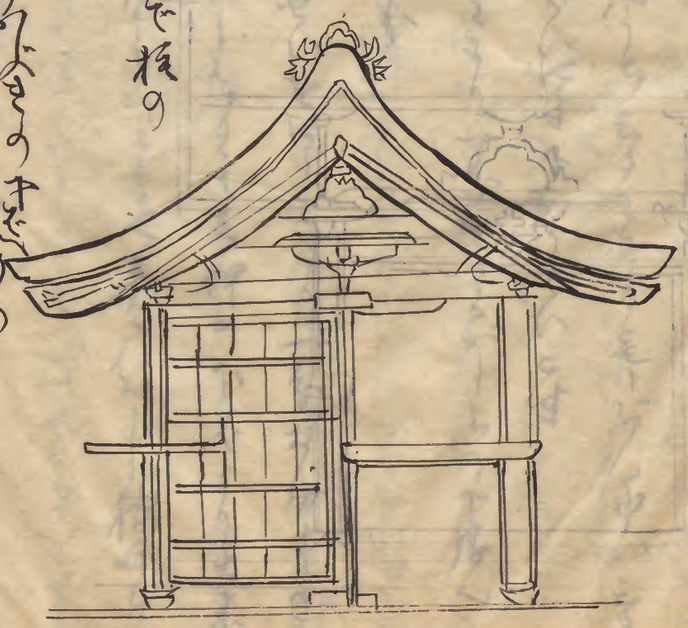
一柱の大さ小つの柱にて七分にて丸みをつけ大つづり巻にて
中ハ太さ六分にて六分ありつき柱三分一
一けたのせい五分半あつさハうで巻四寸
一中鼻ながさ柱のあつさ柱小ハ[illegible]中ハ[illegible]
とり上のうづい六寸中のかうづい五寸
一さるがしら大さ柱小ハうら三ツ[illegible]
一[illegible]のせいすいりんの柱にて八分
一なげしのせい柱小ハうらにてハ[illegible]
よのうで木の下ハ[illegible]
よでと[illegible]
よと柱巻の角通り
一小ハのたゝみ[illegible]



一柱のたかさ五尺五寸ニ分
なを柱ニて柱たかさ八分ちんし
ちかのかすがいより下り
ちんかどの端迄ハ
一神ゝしらの長廊と家もてゝで柱の
ゝのちんのうらをみるべし
一ゝて七寸高かりしきの上より
ゝ



二十四枚



同書

一柱ゝ七寸ハ分ちんし柱ニ分
一うらのゝ柱ゝて一寸ハ分ちんし六分ちんし柱のとかりう
ばり八寸ハ分ちんし柱ゝ八柱ゝ同寸ハ分ちんし柱の中ゝ
ちんげ一寸ハ分ちんし四寸ハ分ちんし柱ゝ同寸ハ分ちんし
ゝなをゝ二尺ハ分ちんし押とうつゝ同寸
一ゝづゝゝ柱ゝ中ハ分ちんしゝのつゝより高ゝ
柱ニ本中ハ分ちんしゝのつゝより高ゝ
ゝ下ハ分ちんしの目ゝ八分ちんし刻ゝ
ゝ寸ハ分ちんし
一二尺ハ分ちんしゝ
一ゝ寸ハ分ちんしゝ

一大井の大サ拾九分ひらきの長さ拾五分

一ぐいぐらの中心ゟ右ぐいぐらの中心ゟ拾分のきょり

一右ぐいぐらの中心ゟ左ぐいぐらの中心ゟ拾分のきょり

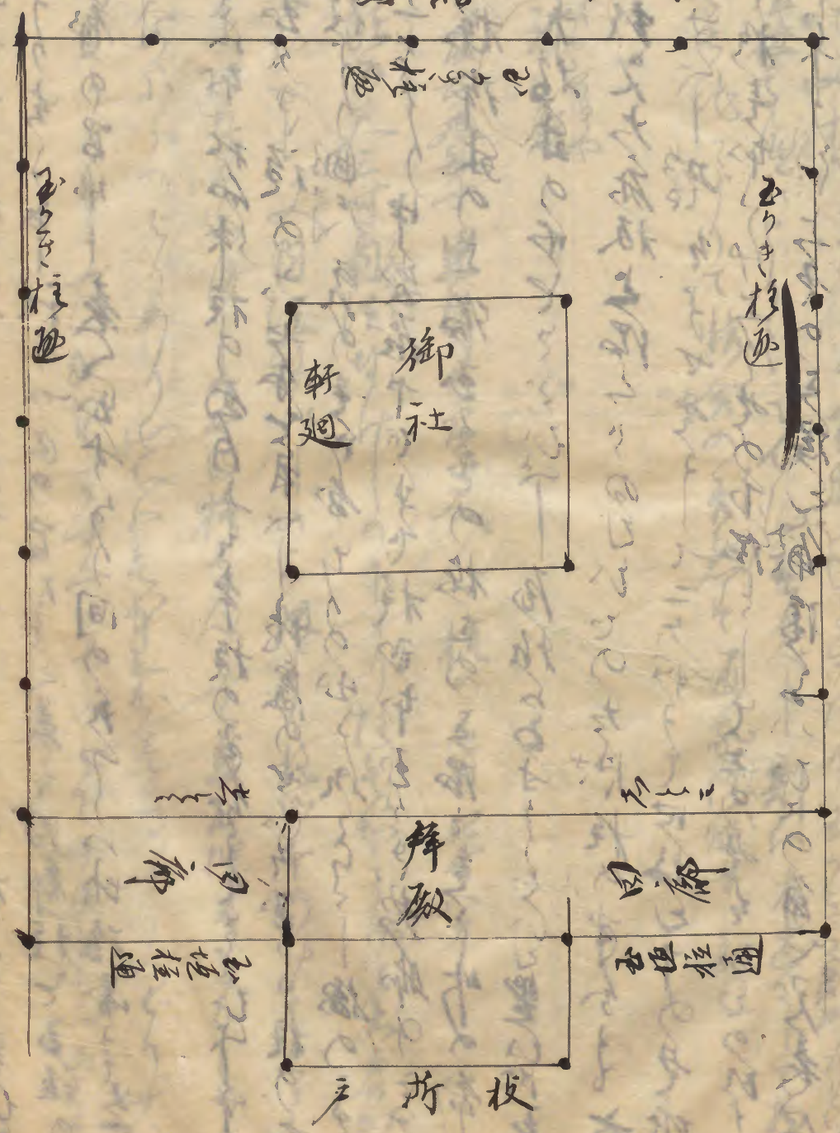
一ぐいぐらの中心ゟ中柱の中心ゟ拾分のきょり

一ぐいぐらの高さ拾分半ニ而ハ

一ぐいぐらの高さ拾分半ニ而ハ

増補

玉垣地指図



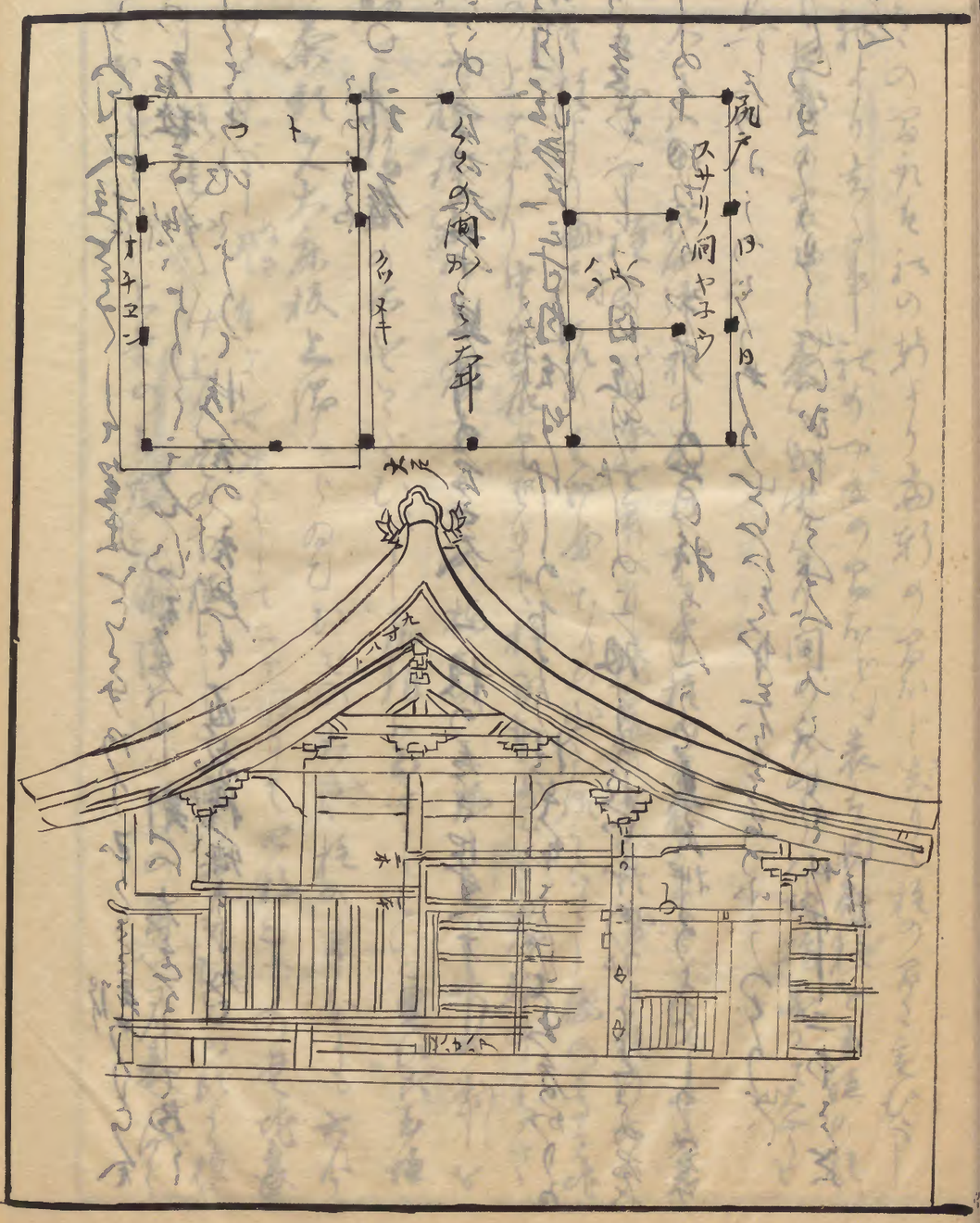
一玉ぐきの石垣を社の坊より南形の石垣にまはし
中門社より左へ半社の中門の石垣をも同前柱と西柱の柱
しも同前の石垣に表へ出よりうり回の石垣に地形石垣と出
たるべし

一柱の大さ六寸社の東柱の西目上七寸半柱の東西へ七寸半
よりて玉ぐきの横の六寸七寸五分べし地蔵のせいを五寸柱の方分
ひ張を柱より幅尺五分の寸四方ちりの出これらは一編のこと
うへの上へより中家根中ぬき中ぬき柱の高さ
本社の横岸束の上張玉ぐきの横上の牛の前と
横幅と元柱束の下とをぐひ一面柱に面ひ出玉柱
柱の裏板上帽子の板上帽子の出ひの出さ柱の寸法も方分
うへいすべし横さよりも出して二ヶ所うて四柱の下の地蔵
よりも柱を中より上の中の柱の下張にして上の柱の柱の
たるべきかどりに上の上の上張の敷隔板ハひとの角と又表へ

○北辰

一柱のたさ四寸八分

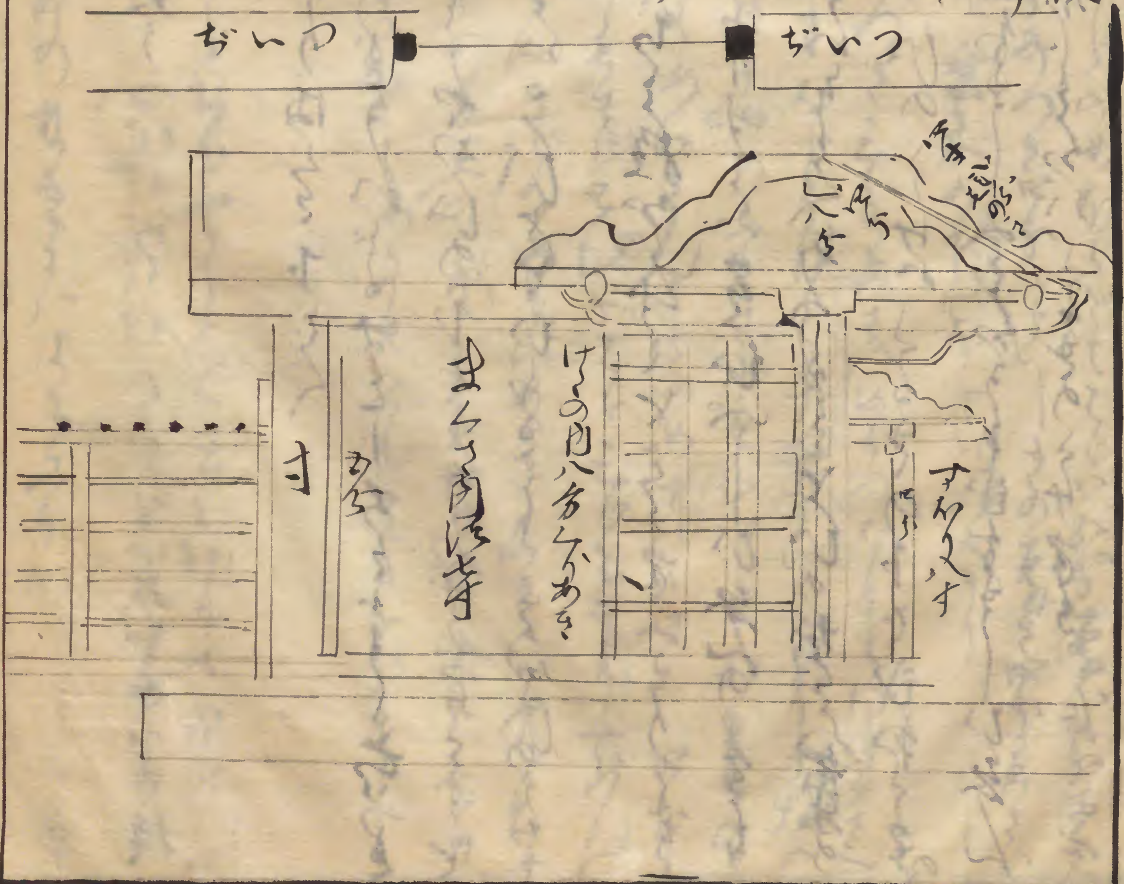
一本押内法三尺三寸四分の下より柱を中ぬきの石垣
よりの高さ四寸べし又内法の下のよりの柱の下の
ぬきの下の中ぬきの下の柱の高さ
ハ分のふうのどりの出こと
柱のよりつまりの出こと



一くみものの高さ六尺五寸ほど有之
一柱見の柱を八寸五分ほどに下ごしらえ
一屋戸口まわりの柱は中ほどの
一屋戸口まわりの柱は中ほどの
一屋戸口まわりの柱は中ほどの
一業柱は十七寸五分ほどに
一妻の柱は
一屋戸口まわりの柱は中ほどの

一 高さ四寸位ひぢりとよむところ一分より五分まですべし　あつさ三寸より四分
一 ひぢりぬきのあつさ八分九分長さ一寸板のはゞ八分ぬきのはゞ八分にて六寸五分なり
一 戸ぶくろの高さ六寸五寸まで　かゞみ板のはゞ下は井くらのとおりすべし
一 大戸の高さ五尺二寸はゞ八尺一寸
一 くゞりぬきの高さ八寸八分あつさの板厚さ三寸
一 戸まへて四寸の小はゞ同寸の中柱よりて柱よりまでの柱より大戸の
かまちの柱のはゞ壱寸まで柱の見込あたり入て
ひらき戸をかけのとめ一寸二分よりまでのせんかん三本まで
さん四本中井ぜんさうの上に七本戸びらしとさん一本あまりびらきのせいさまで
まぐらの額さ下の柱あと一本分半りはうらんの上は五尺八寸のくゞりんばさん
八寸そびらの上のくらんの高さ一寸ふして　うつくし羽のくゞりの高さき
柱のはゞへあつさ壱寸にて
○上土門(あげつちもん)
一 柱の寸法(?)まへすうぐへ左柱へ柱とかべのあつさこの厚さは五分の柱よりの外かく
いしよりのあつさ四分もさ柱二本鴨居の中の上へ貫木の下綴り柱はゞ
あたりその額ぐらあつさ六寸五分よりまでゆかりあつさせい
ニ寸分あつさ四分
一 門のりは七寸けたり門のとびらの高さ六尺そのあつり太さつかぎのせん
みは寸の回り分あさ八寸はゞ幅も高さけしの内八分のつりあきのはゞゆうら

一 つくべしけたの上はゞ五分あつさ五寸まで下八分
一 戸びらは高さ六尺ぞて框のはゞ二寸の積
ちけ戸は八寸より刻ミ十二本ほど入てそのこま
三分ニ四分にてかまちの見込
あつさ壱寸框のあつさ八分
一 築地(ついぢ)の高さちょうどよりかべ
きうぶ四寸二寸五分より下のかわん
つけちのたけさ五寸あり



○ 棟門

一 柱の太さすりぶとくたぶしちりうたうつぶりうちつぶりせいかぶ小だ柱
こうこう

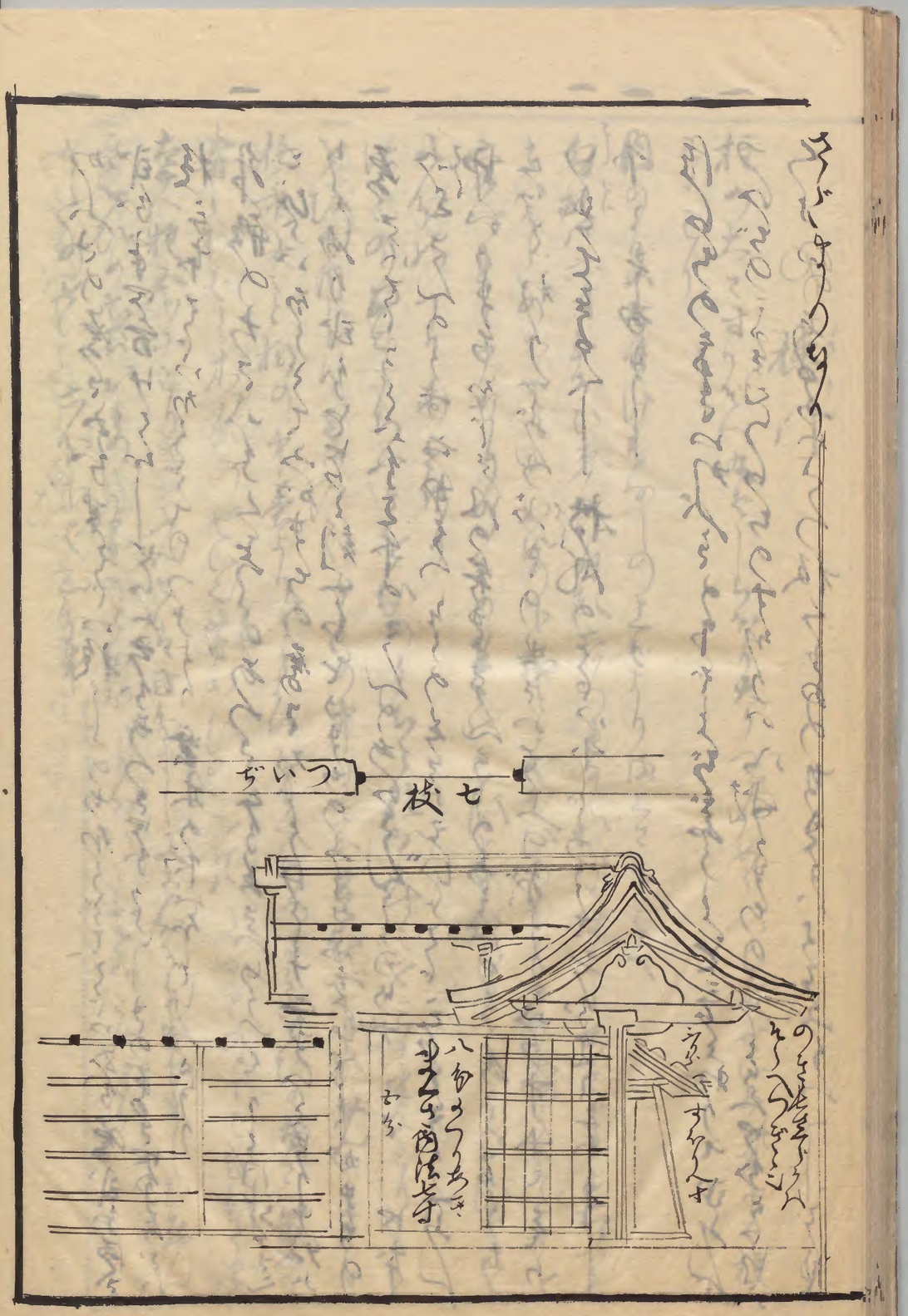
一 門のりは寸寸けたのしのようぶりはたぶく
幼部八寸寸ないあんの幼部六寸つんもうわじるすこーちたぶうこ六つを
ようようこのやだをきわひの下端ようやわひの小だもあつのうたすすと
六つぶもとすりのきの上ようこびをといようこーこうわひのうちて
小部ようりあうたり

一 けこのはをこちらをとひのうちを柱ぶとこうきみうりこう
とひの間ようきのこうこうの中ずこうこびーひ茅の上ようた
柱中ようこ柳の中墨ようこうきみうこうつることひの柳ようこ茅の
者ようぶこ木瓜のせしも茅ひのうけこうるきの下ぶ武部こうきの
茅八柱ようふうりて二うんせを武部ようもーみこうもの武部ようもーひ
こうとひの茅ひのうこうきのこうわひうこうこうこうはこうきのうみまう
うこうのせいこ六部下ぶ三部半

一 かぶさの茅ようきまこぶいを柱ようこのわうこぶこうこびの茅武部八
武部半ようこ方けこうーせこ八寸方あつこ寸ようこーこうの茅ようこ八
柱こうこうこびのつりうこうぶこうりう 茅木の仕ぶりぶりづうう

一 外部のうこ八ようこうこうのあつこうこうのうつぶりうこ門ぶさこ
こびこ八ようこうこうこ十こうこうこうこうこうこうこうこ十ぶ
うこ方の武部こ八寸こ刻こ部こうこうこ八寸こ下のこうこ八寸こ下のこうこ
茅こ八こびこうこ八寸こ下のこうこうこうこうこうこうこ下のこうこ
ぶこうこんのうこ六中こうこうこのこうこうこうこうこうこうこ
中こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこわうこうこうこうこうこうこうこうこうこ八寸十六こ
いもこうこうこ下 柱風のこうこ八下ぶこうこうこ七部こうこ三部こ
下こうこ茅こ

一 作ようこのこうこ八ぶこうこ下ぶこうこ三部こうこわうこ上ぶ
つうこぶこうこうこうこうこうこうこ八寸こうこうこ八寸こうこ八
こうこ茅のうこ八こうこうこうこうこ柱こうこうこうこうこ


ぢいつ
七枝

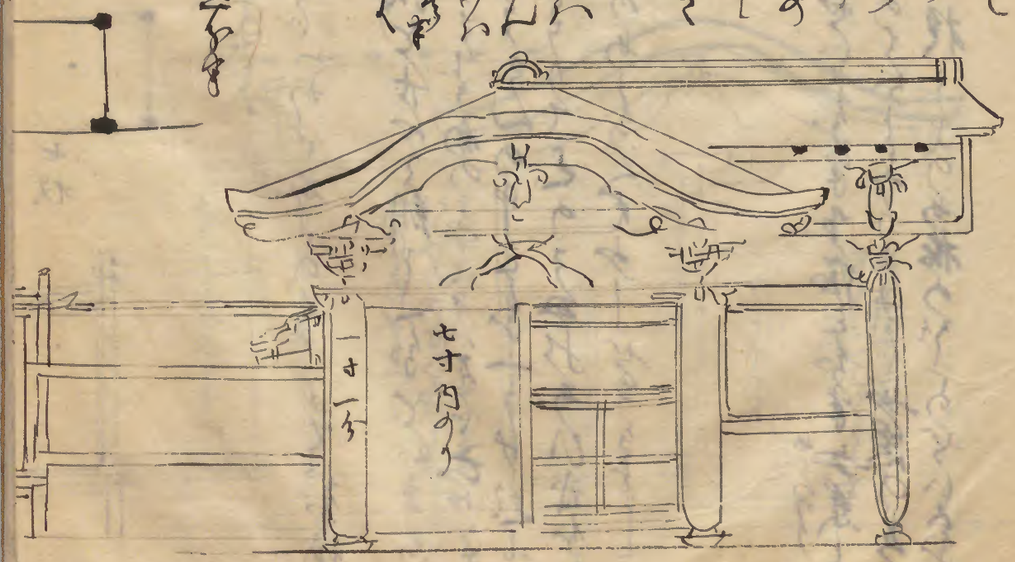
ぢいつ

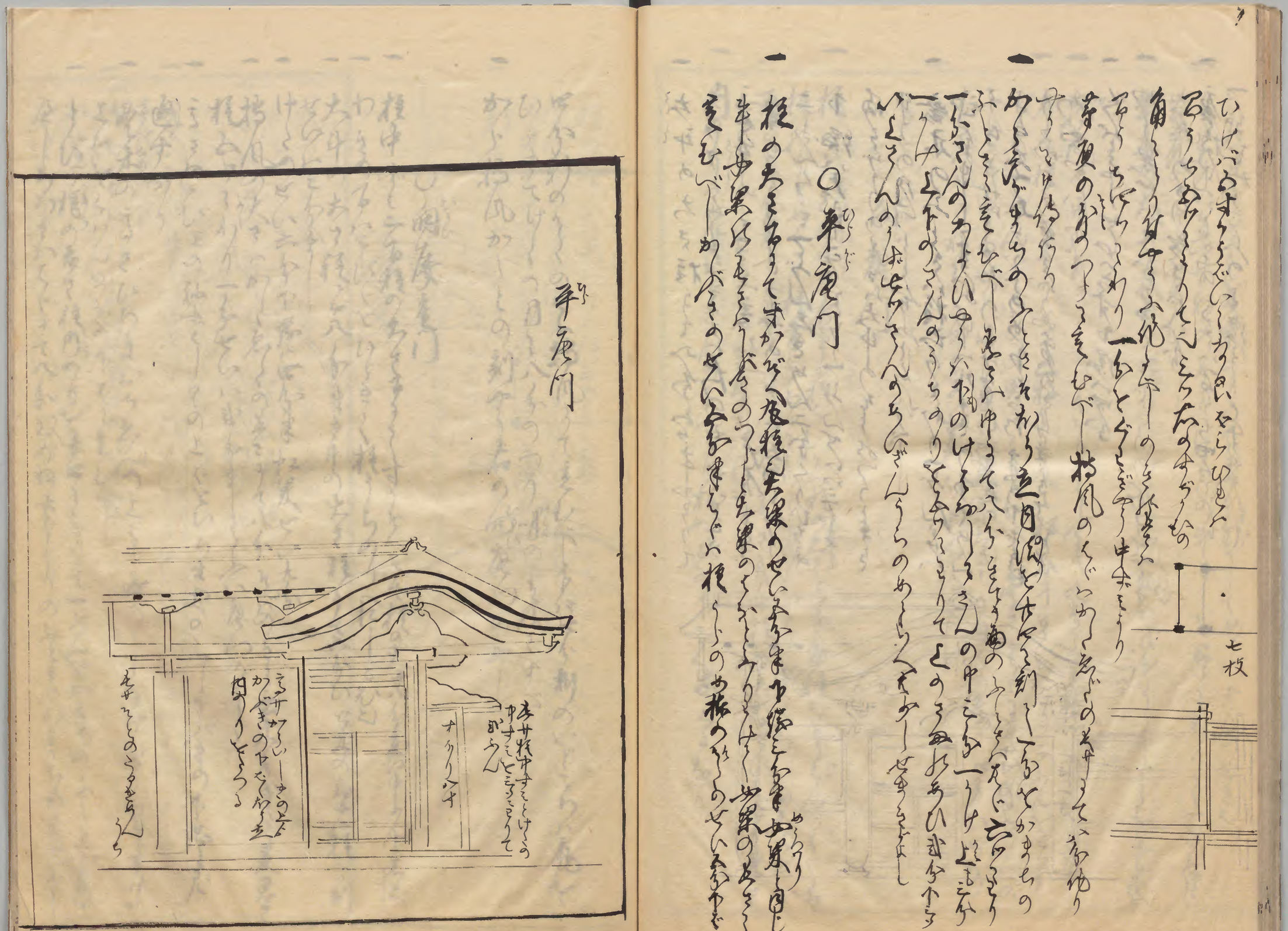
○向唐門

柱の大さ七寸角柱ゝ長さ

柱ゝ長さ

柱の大さ





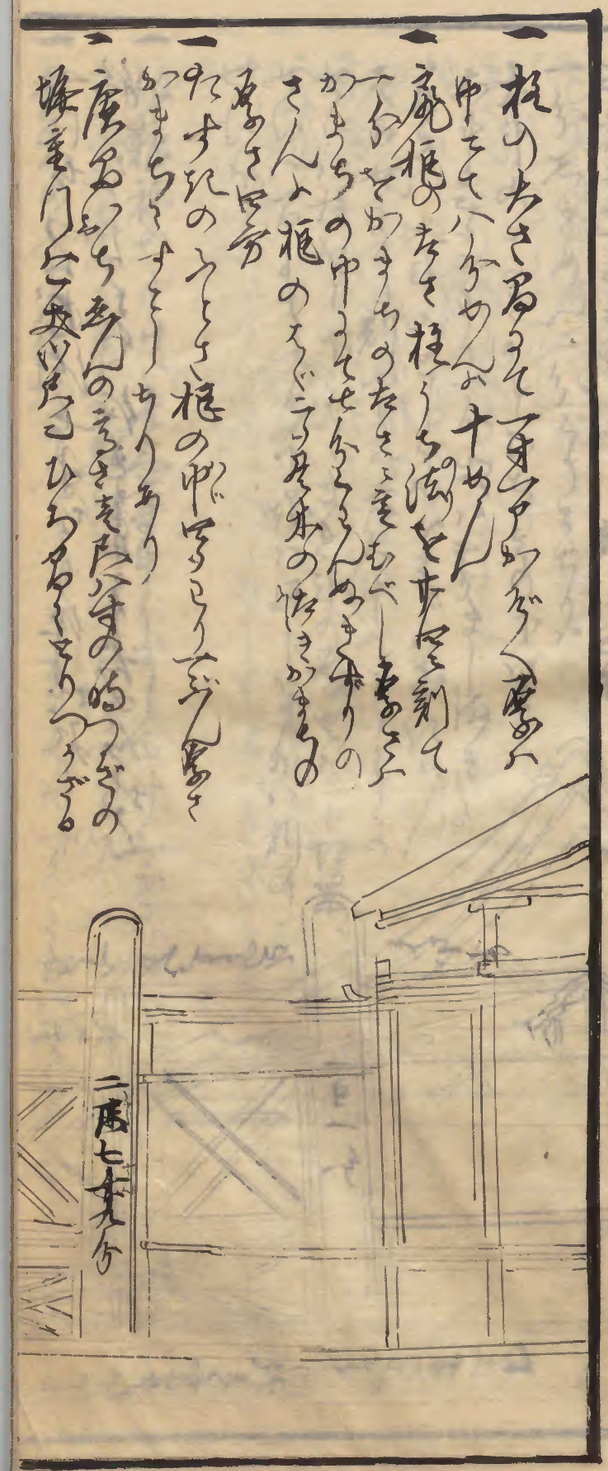
国立公文書館
National Archives of Japan

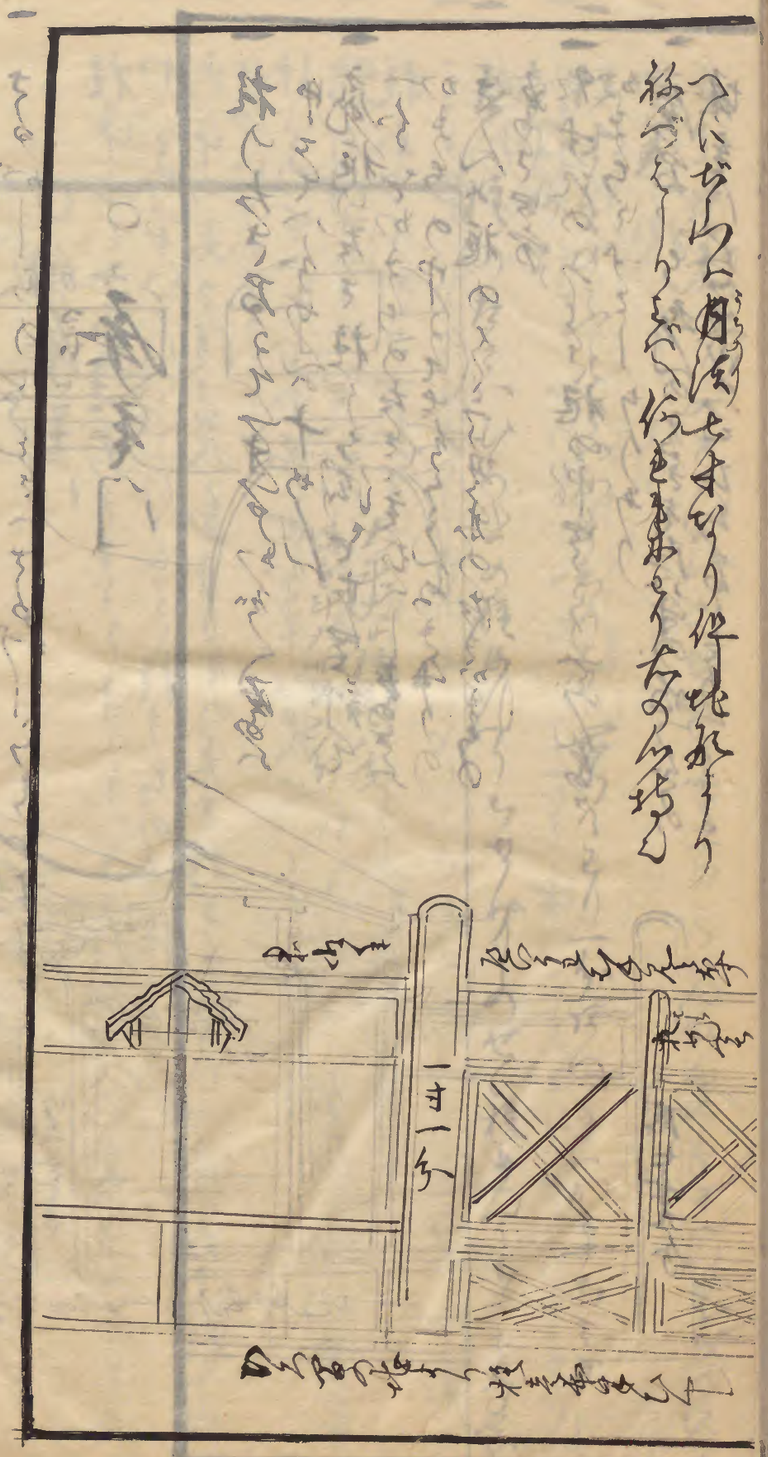
四分杁のきくのせい搏風よりて見むべし下ば四分刺のいでこちへ高を
ひらきてけしの目八分のつり懸の高さすべし
かぶ搏風かゝしの刻み右の向唐戸のごとし

○向唐門

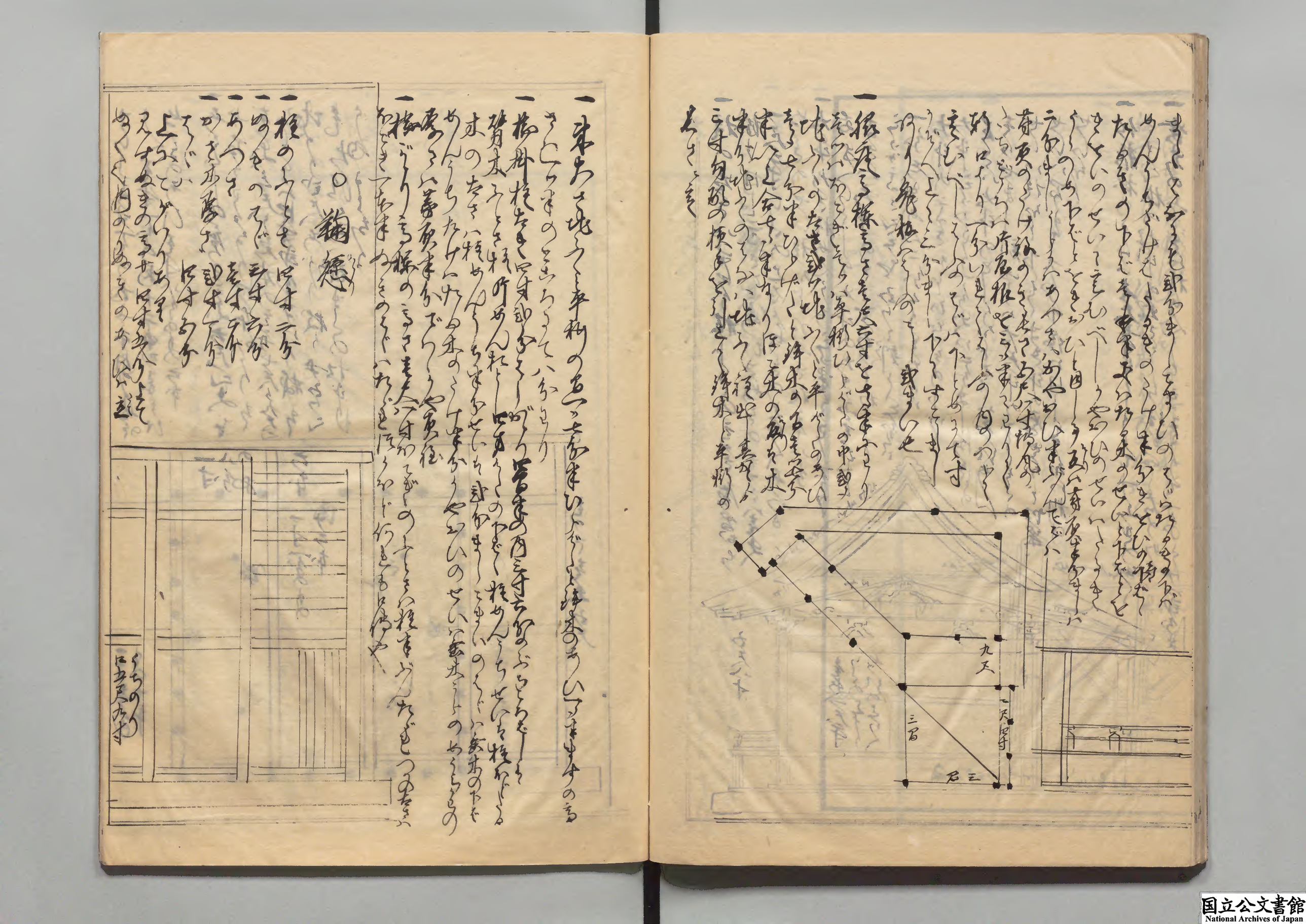
柱中ぼ二丈柱の太さ六寸づゝ又柱の太さ八分あり八寸ほど
わきの戸口ひらきとびらきく柱うちのり一丈しこれ
太平の太さ柱より八分半の太さ柱より六分ひかえの太さ八柱より刻
せい五分半
けらのせい二分下端四分半 虹梁せい太さ
搏風の太さいかにも又このあたまて八分そばのきく 垂木太さ平は
柱より二ッわり一分せいは四分半より六分唐戸のごとし
こまきおもびらの組本しその上どとひらきまものつらじきの下端より
幽牙あり
みな垂木の高さひろまちらの上をく垣のこしらげとちとりすけ
よとにとひらんあまのやたて主む
よびら框の太さ柱内のりを世ねらりて一ぶんとかまちのふとさより主む
屋しあつさいてらりて八分之の桁ふしりのふとかまちのちどり

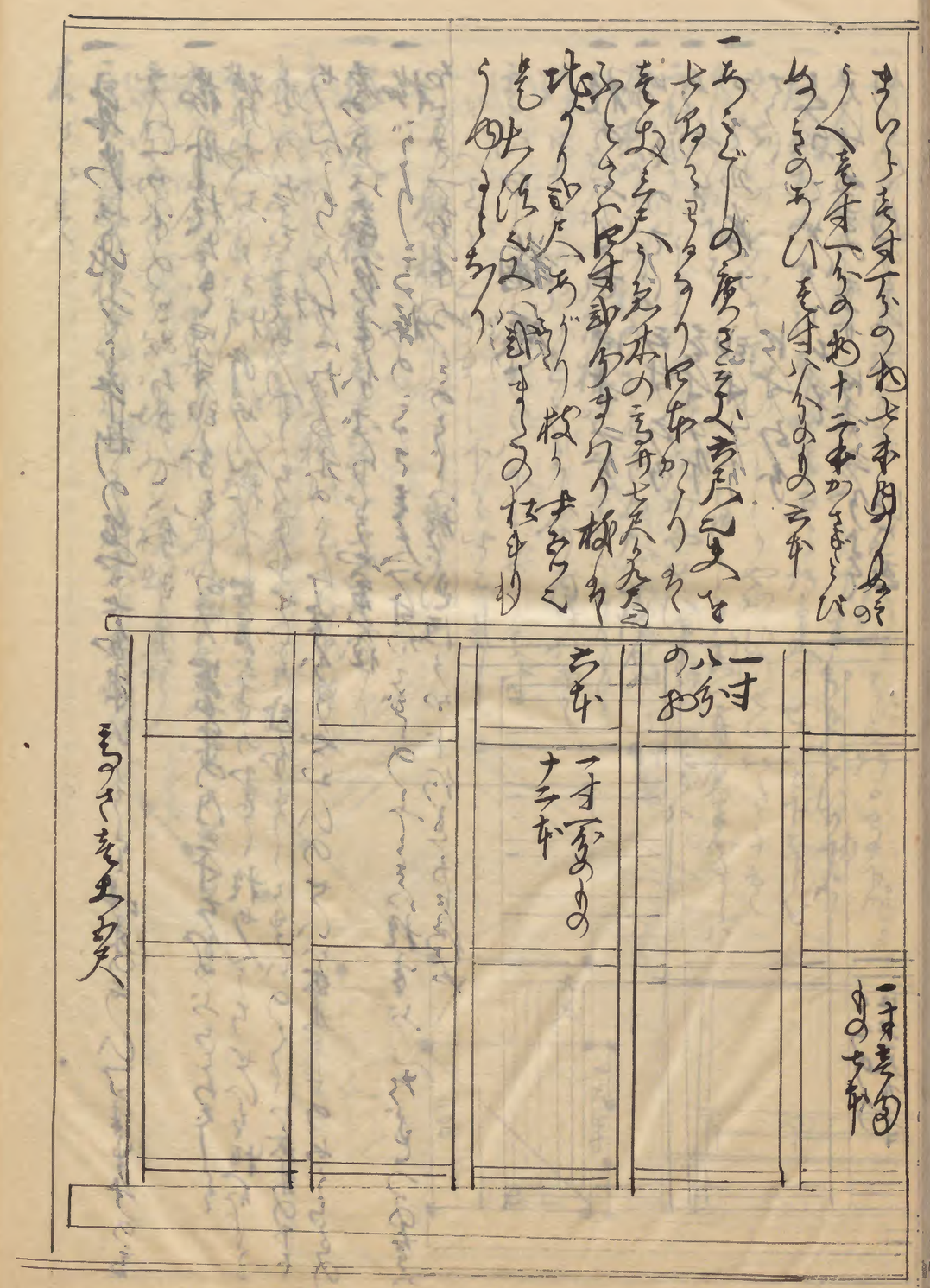
○唐門

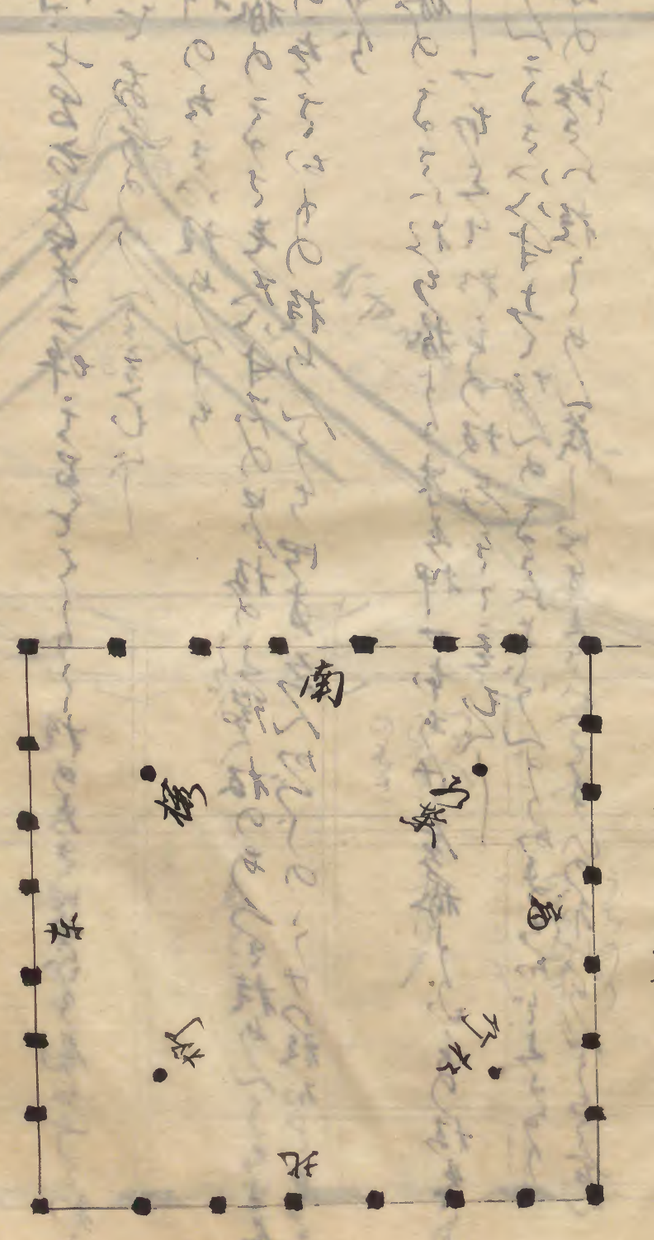




○葬墓


九尺
三石
一尺四寸
石三


一寸壹間ノ大本
一寸ハ分ノ本
六本
一寸変ノ
ナニ本
ものさしの大本


南
北
西
東

○廣間

一六間と七尺六寸七分二厘二毛のとくりく柱のたき[illegible]

一長押のたき柱りくり

一茅負のたき[illegible]柱のようぶ柱のあつき柱りくりくり

つりのたきちのの柱りくり[illegible]

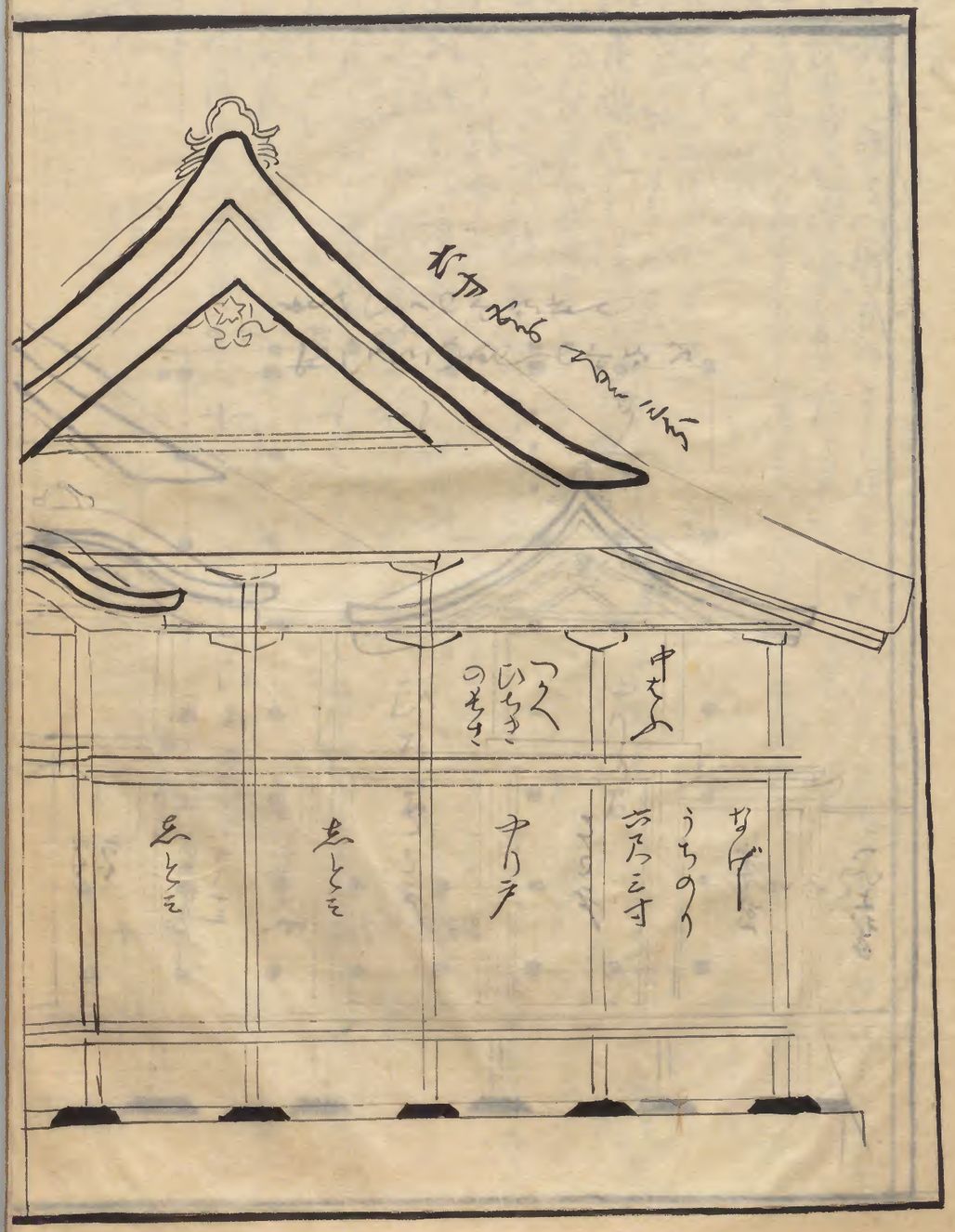
柱寸法

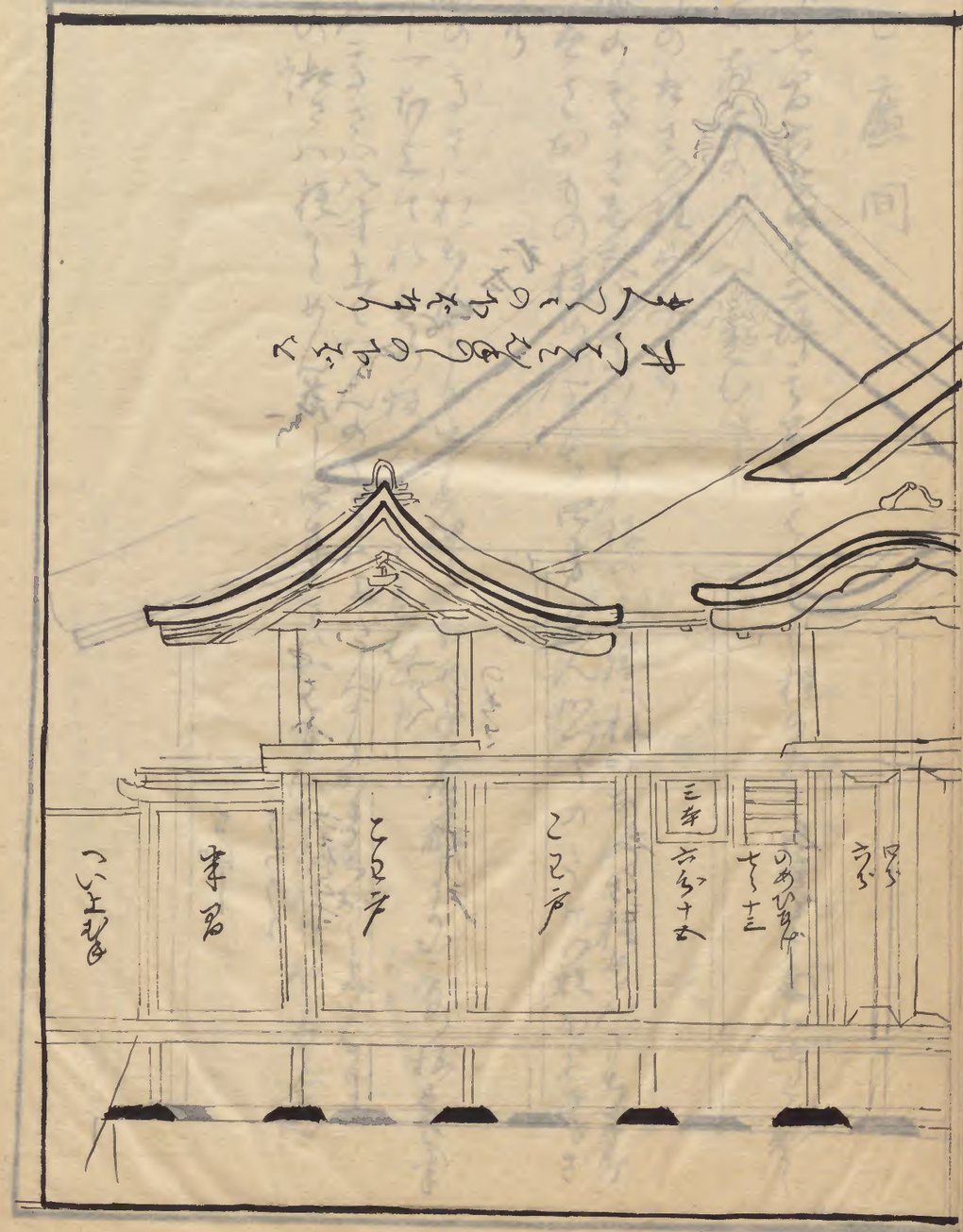
一廣縁のたき柱より縁押一切あり廣縁より[illegible]

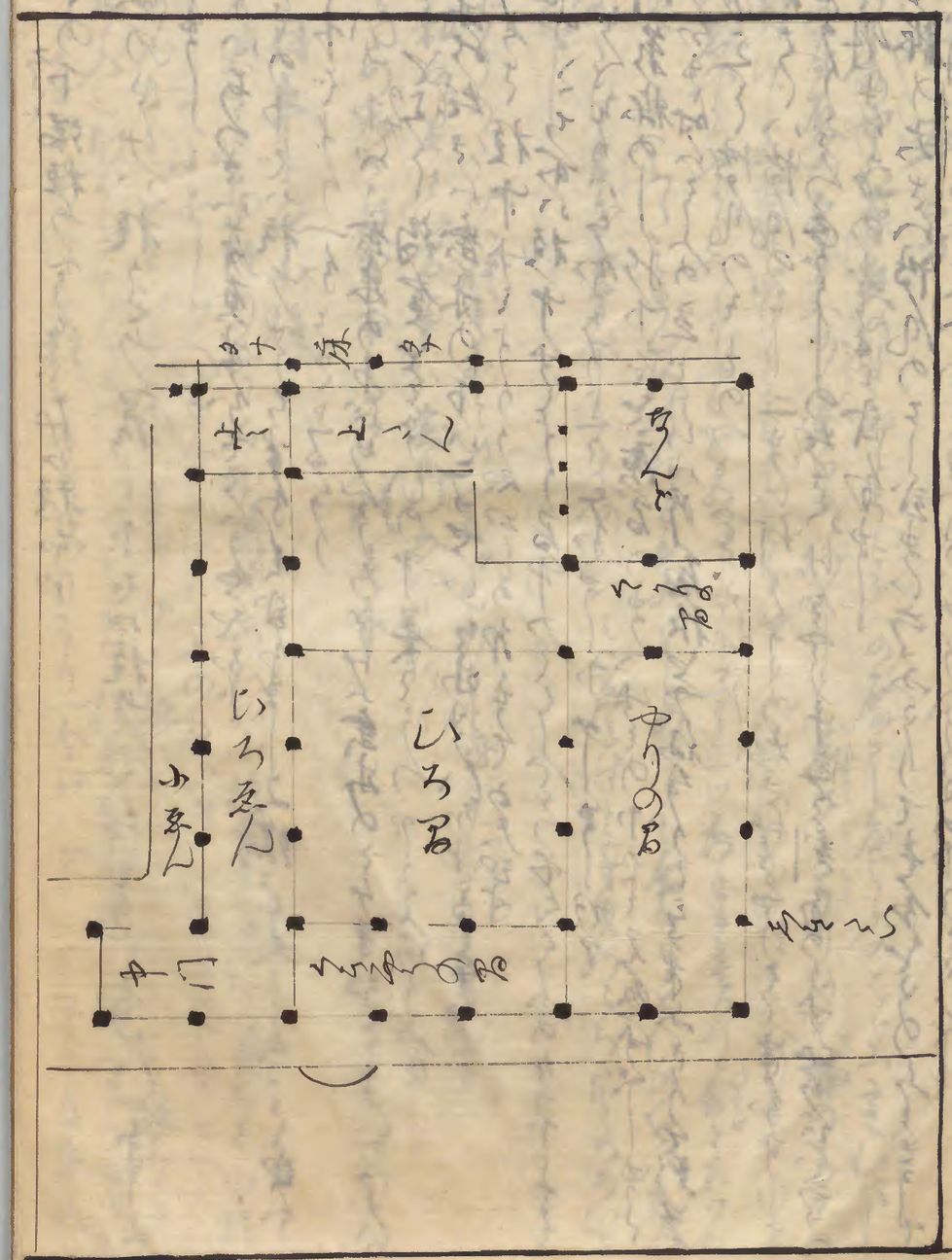
なげ一切とも柱りくの柱たけ[illegible]

一上ぶくりくたき八寸上くだんのたき[illegible]

一蹲踞の柱りくり茅負一[illegible]







一けらの下端（すへば）柱めんうちぐみの柱など
前頭（ゑやうひ）のうけハ柱まわり落し下ばの柱めんうちそりハ合せハ一本半ハ
式分ます
一うようハあつさハ前頭半分でんかくなど
一たかさくの下ばハ柱めんうち半分出しましく又蝶のしのぎ目とくに
まはし下ばより一分ほどあまり
一こまひの下ば、玄関の下ばめんうちくげハ玄関のうけ半分こまひの下ばハ
志とくこもとの絵をこまひの中程よりかまをる
一すミ赤き蛇さん玄関のかぶ二寸ぜいぶミましかどこうくすべし
一おのとき柱中ぢようりもかおひの外まで方八寸
一椿風のこちらハ柱中すうよりる手入てこう引てちみの在中ばかりて
すかべくそりハ三分そり上る二分ましかるましば
一中門前縁のかしもハ下ばを広名の方へおとの下ばにさん返すべしまはく
中らおりへらかのる柱らハ竹屋根を手縁あり高くまふとりてを削り
きかにて椿風のきとのつけうはうむべし
一飾鬼（けんぎょう）ちいハ椿風のかしら二寸まハ竹くしの太さ（かさ）げぎょう一寸ちか半分あかるく
六角ちうりうる手ぐりしの蛇さハげぎょう十三寸ぶ剣おのうら七ツかいハ六角々
化し併まるのかたり歩る式分ます
一そく柱の太さハ椿風のそし式ましハ六ツにわりて是分とらのへかさうさ
ゑるさハ門のうちまて八分こまいざいのうくようとの下のうさび

日本寄（よせ）

一広ての中ハ前頭のうけまで広ハの広さと広さハのそちふ立むべし
広さハ前頭の広さふめんうちあつし蔵（ゐ）さこちりかさ椽の高さん
志やうぶけらの舞（おひ）を置かるりて是分とりやかひの下そこなのよべくいだら
ひまハ志やうぶらくの中すを方りてもり中三寸ある広さかうの会（かさ）を方らく
日しせうさハうてこまひめのたらまのそしあつくて会ありといのとハ是入
ちふのうけ半分出す下しての合ひかてハ立てすと前頭のこちびょのあいて
きむべし
一うつだりのうけハ柱を本とめん式りうけとよ目すべりこめんち
一くり板の長さハ前半分古円ゑゆるへけり
一井うくの太さ柱式本するさハ柱を本

月本寄せ小柱

一小柱の太さハ布柱めんうち小壁のあいハ小柱半分虎いぢめ太さ小柱
たとこまて小ぢしらく半分うけて上の居いぢくハ垂木へ入るとどくし
柱のめんあうくとさくる下ハ半めんけ椽ハめんてらずし椽もくの
屋たあつくとあかりかそてちぐハへいぢよりも柱を本ありつさハめんうちむらくて
ゑりて是分海ぐさハ柱つおまして居るうり一分けハおかしまくてとし白木にて

そぎにつけもんど

一 連子のたかさハ上下のかまち長押ぶちにして中ハ柱二本たてむかふの木
七分十三六分半あそこハ角もんどの内さかほどく

一 中門

一 冠木のせいを六寸五分也 厚さ三寸ほどく

一 ひざもの長さハきぬ是ハ五寸九分長さ七分このきたがひさる来一本当テてハ名
あふきほうのより是本ひろさに入よつ／＼ひじまき切じ
そとのひのうちすのつらへわけ上本ちぎすのおしきりハ長押之本

一 をりつまどの ちとまい取しまでて柱之本まとこ分まかに二分ほし

一 衍のふりのたか柱めんうち四方ろの寸とニ分ことうりて七分ほしもん
内ニ分ハ上下のかしわりこうよのみきニ分まかに二分の木まわりハ
ふし之分か寸法のみしまいりしまか

一 月 ふそくのさけ

一 鴨居のさけハ柱めんうちおもてよりさしあるけかもわかるさけ分

一 立てかねのさけへかもおしいつけ目

一 立しと寸法ニけ内のりナふちどり上の立とを六分下立てさ寸分うしまちの中ハ柱
二分くまりて一分あつさハ大どとこくまりて二分ともて寸ふハかまち中まか

もいさくハ二寸かこみ一女まりしきつぢのそぎまつあるあるハ此寸十六ふん
十せいもさくハあかやうちのめうつもあつくべし

一 縁せうどハまちのそとハ柱めんうちまつあきハ中三分か二分

一 すきせうどかまちのそとハ柱めんうちまかあつさハ中三分か二分

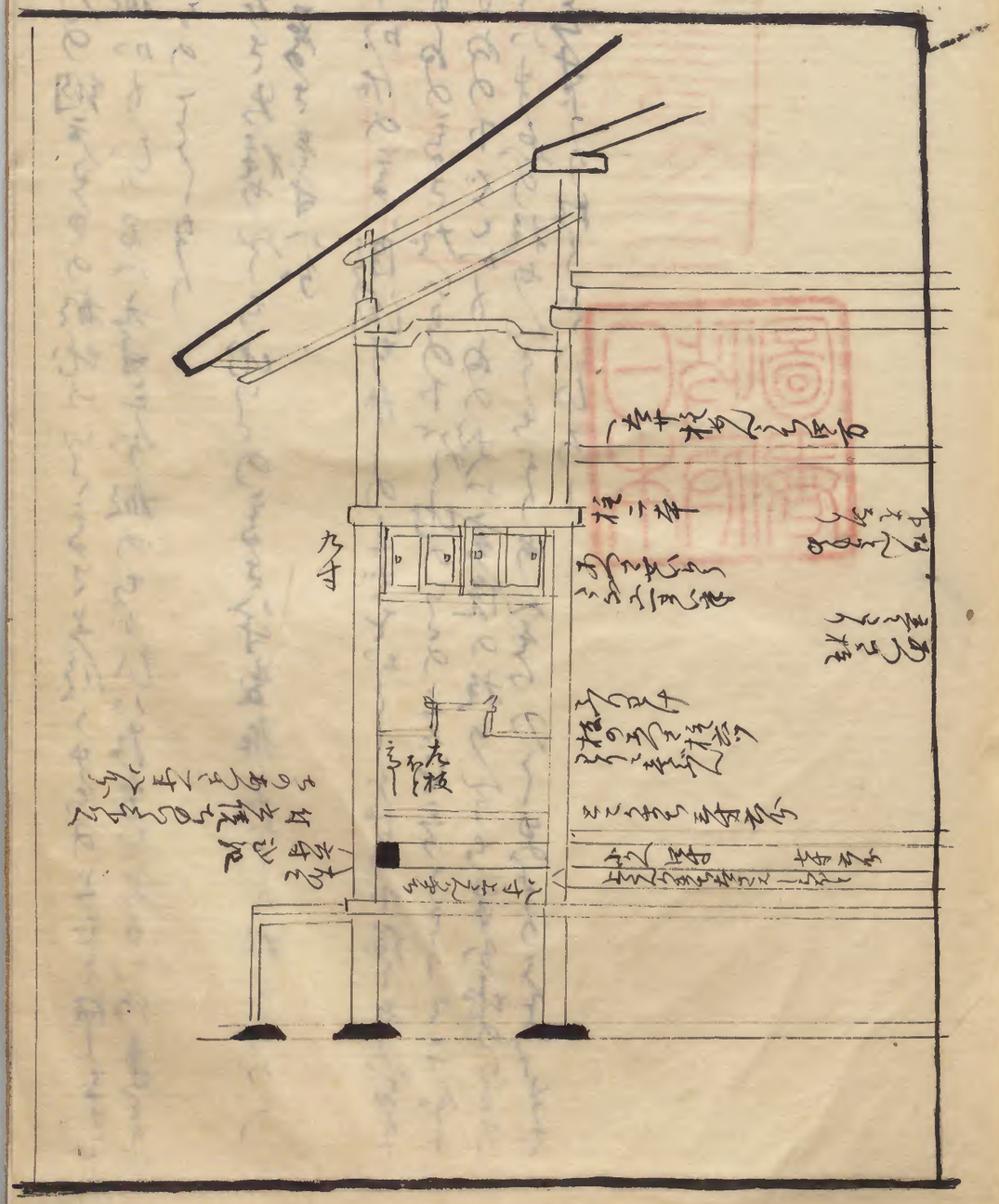
一 戸りのまちのそとハ柱二分くまりて長さ分なハそとも二分こほりく
戸分寸いよ中ハうわちの中まか長さハ中まか

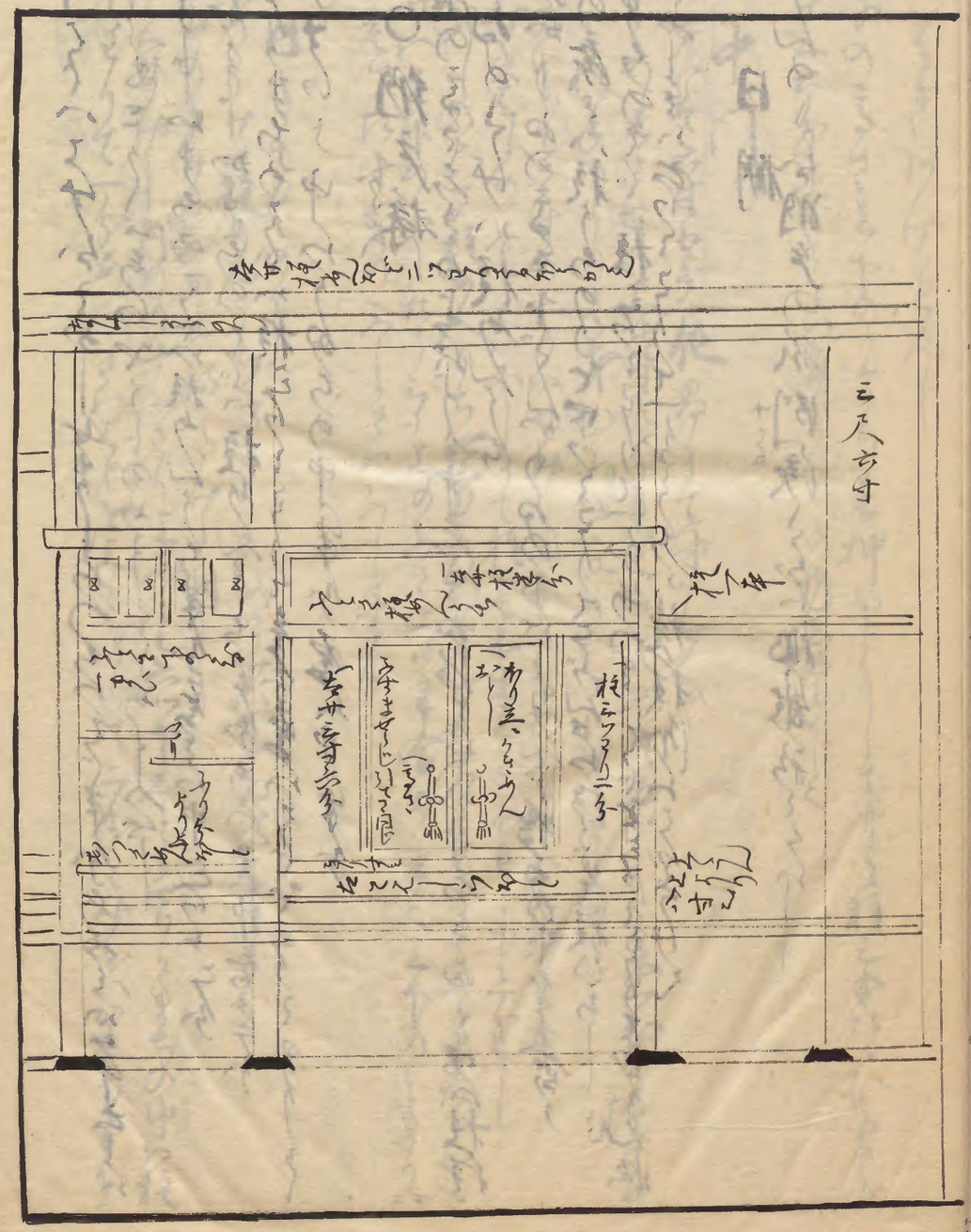
○ 納戸構

一 敷居のたかさ六寸よ上ばより中たかまでおさだハ八寸たかきねこうけハ柱ほ
かもりねのさけハ柱めんうち
納戸かもいのたかさどうんかのおのおそ上ばより下鴨居の下ばを合り
くもの廣さハ柱うちのりを四つにわりて三つぶん也くばりて柱ひろし
戸がまちのそとハ柱二分くまりて一分あつさハ大どとこくまりて
面のふしまハ六分くまりて一分うちハ樟枝彫ん

日棚

一 よどんのこやの納戸の縦寸法ハ棚鎚形く／＼





国立公文書館
National Archives of Japan

一ちぐんの網戸もの板地のしくさるもの
よりて板かりしの長八尺三分板のちぐひハ
たくさんのこくりり

一板のながさ六尺ちぢりくのさるもの
りくの長さ三寸八分

一切くり板のさるハ陽法四尺一のこぐをとくしげの下保くりの
中ぶりのものさるものの下ばくしぢのいくものよぐをこくりて二ちぐ
中りものの下だくかりのものの大ハ言侯の板りんくりちまかぢのくの
ひちさハ中点の板りんくりちりんそのくまりこぐまで
三尺三寸ちりぐひちくしひちくまで

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan